

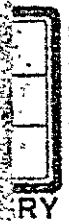
業務資料 № 349

昭和 48 年度

市場調査報告書

昭和 50 年 7 月

国際協力事業団



国際協力事業団	
受入 月日 '84. 4. 11	700
登録No. <u>03246</u>	29.5
	ES

603246

ま え が き

本調査は、当事業団在外支部が管内移住地の主要作物生産、流通動向、輸出可能性等を中心に調査したものであるが、ここに48年度分の報告をとりまとめ、印刷に附した。

国際協力事業団

移住第一業務部長

JICA LIBRARY



1053250[5]

目 次

〔Ⅰ〕 1. 亜国における油料作物について	3
2. 伯国における桐栽培の現状と将来性等について（アスンシオン支部）	41
〔Ⅱ〕 1. 農産物（主として苧，乾藨）輸出可能性調査	51
2. 移住地生産物の隣接諸国への輸出経路調査	56
3. ポリビア国内養鶏事情，鶏卵内市場調査（サンタクルス支部）	69
〔Ⅲ〕 1. 南伯から北伯，東北伯向け主要農産物の移出状況並びに ベレーン市場における移輸入主要農産物の月別平均価格	87
2. 北伯，東北伯産のメロン，マラクジャの南伯における野価等	100
3. ネクタリンと高級ぶどうについて サンパウロ及びその周辺における生産状況とポルト・ アレグレ支部管内生産もののサンパウロ市場における野価	105
4. びわとかきの主要生産地における栽培状況	112
5. ビメンタ，カカオ，丁字の輸出統計（中南米代表部）	121
〔Ⅳ〕 1. 主要野菜 5 品種市況について（サント・ドミンゴ支部）	131
〔Ⅴ〕 1. 香辛料の米国輸入状況及び世界取引状況について（ロスアンゼルス駐在員）	137

アスンシオン支部編

1. 亜国における油料作物について

2. 伯国における桐栽培の現状と将来性等について

Handwritten notes in the top right corner, possibly a date or reference number.

Handwritten text in the middle of the page, possibly a title or subject line.

Handwritten text in the lower middle section, possibly a list or a set of instructions.

A large, dense block of handwritten text occupying the bottom half of the page, possibly a detailed report or a long list.

1 亜国における油料作物について

- I 調査者 アスンシオン支部
- II 調査地 パラグァイ国内
- III 調査期間 昭和48年12月
- IV 調査目的 パラグァイ国における油料作物の栽培状況及び優良品種の検討、流通経路について調査し今後の営農指導に資する。
- V 調査内容

I 油料作物の栽培状況

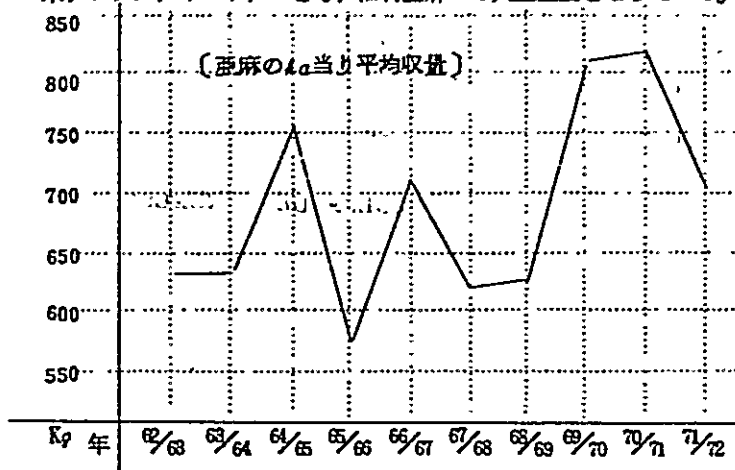
1. 亜国に於ける最近10年間の(1962~1971農年度)の栽培面積及び生産量の推移

(1) 亜麻 (Lino)

亜麻の栽培面積及び生産量は、次表の通り1962農年度の1,502,600ha, 838,600tonから、年による多少の増成はあるが、減少の傾向にあり、71農年度では僅かに538,800ha, 15,600tonに止まっている。

州別の栽培状況を見ると、ブエノス・アイレス州が最も多く、この2~3年は全国の約50%を栽培しており、次いでエントレ・リオ州、サンタ・フェ州、コルドバ州と続き、71農年度のみについてみると、前記4州で全国の99.2%を占め、コリエンテス州、チャコ州で残りの0.8%を栽培している。

世界の国別生産状況と、亜国とを比較してみると表-3の通りとなっており、ソ連、北米、カナダ、インド、とも、油料亜麻の4大生産国となっている。



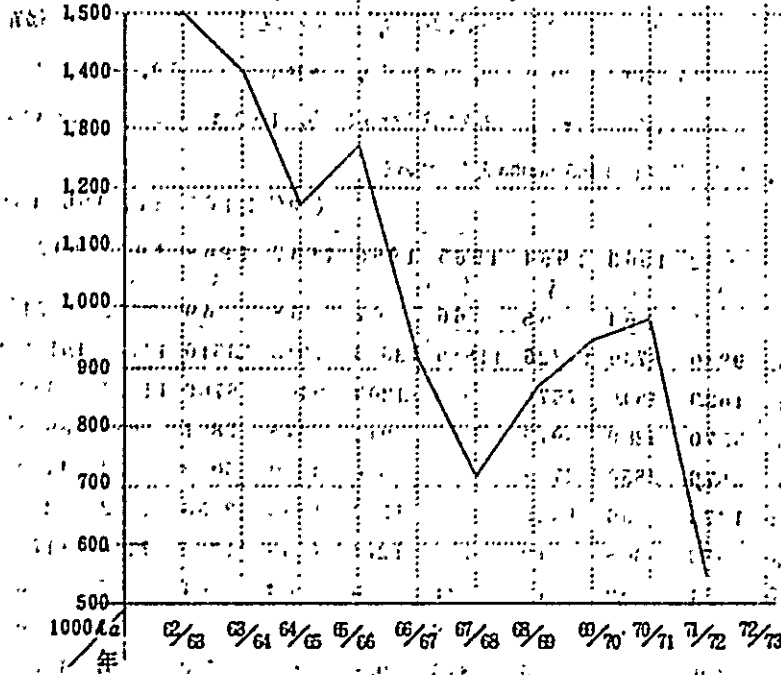
(表1)

〔亜麻の生産状況〕 単位1,000ha:1,000ton

州	年度 項目	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971
		1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	1870	1971	1972
亜国 全体	播種面積	1,502.6	1,408.8	1,171.8	1,294.0	923.0	711.3	878.6	952.0	973.3	538.8
	生産量	838.6	771.0	815.0	570.0	577.0	385.0	510.0	640.0	680.0	315.6
ア イ レ ス	播種面積	348.4	344.5	333.3	372.0	320.3	318.3	392.6	454.2	524.2	252.6
	生産量	238.9	231.1	271.5	258.5	305.0	216.6	219.5	382.0	321.0	160.6
コ ル ド	播種面積	274.6	148.8	167.9	165.6	137.6	56.2	114.0	80.5	12.0	
	生産量	95.8	49.4	143.8	27.2	44.3	28.8	57.7	11.0	1.0	7.9
ヨ リ エ ン テ ス	播種面積	4.0	2.1	2.6	3.4	4.5	3.5	4.4	4.6	4.9	4.1
	生産量	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
チ ギ	播種面積	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.2
	生産量	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.2
リ エ ン テ レ	播種面積	509.7	581.2	402.5	497.6	302.6	185.3	225.5	275.0	295.0	151.6
	生産量	293.4	302.8	206.2	207.6	140.0	61.6	145.6	188.3	261.7	82.8
ラ ン ス	播種面積	10.4	4.5	3.3	3.7	2.8	2.2	2.7	2.2	0.2	0.2
	生産量	0.4	1.0	0.7	0.5	0.4	0.6	0.7	0.5	-	-
サ ル マ	播種面積	1.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	生産量	0.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サ ン タ フ エ	播種面積	353.6	327.3	262.0	251.3	155.8	145.9	139.4	125.5	137.0	96.0
	生産量	207.4	186.0	190.8	74.2	84.0	74.6	82.5	54.2	92.1	60.6
エ ン テ ロ	播種面積	0.6	0.4	0.2	0.4	0.3	-	-	-	-	-
	生産量	0.1	0.1	0.1	-	-	-	-	-	-	-

BOLSA DE CEREALES 1972

(表2) (亜麻の栽培面積の増減)



下記の表を見ると近年カナダの生産量が急速に伸び世界第1位となっている。

(表3)

(単位・千トン)

国別	1967/68	1968/69	1969/70	1970/71	1971/72
ソ連	519	485	344	525	470
北米	509	688	892	762	474
カナダ	238	500	700	1243	652
アルゼンチン	385	510	640	680	316
エチオピア	60	60	62	60	66
ポーランド	73	65	57	65	55
ウルグアイ	40	27	56	81	46
その他	535	696	644	737	689
計	2359	3031	3395	4153	2768

BOLSA DE CEREALES 72

(2) ひまわり (Girasol)

1962農年度983,000ha, 462,000tonだったものが, 1971農年度

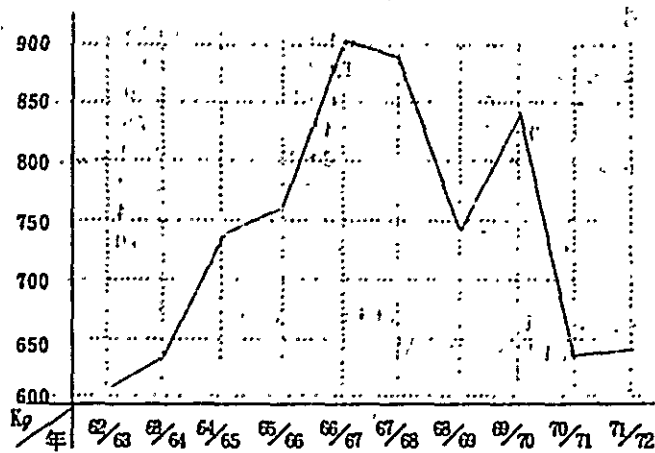
には、1,532,700ha, 828,000tonに増加しており、油料作物としては、大豆と共に近年、増加している作物である。71農年度州別での栽培面積及び生産量を比較すると、ブエノス・アイレス州が最も多く、1州で全国の51.3%を栽培しており、コルドバ州、チャコ州がこれに次ぎ、三州で全体の76.6%を栽培している。特に最近チャコ州が年々増産を行っており、1962農年度では僅か40,000haだったものが、1971農年度には155,500haとなっている。

(表4) (単位: 1000ha, 1000ton)

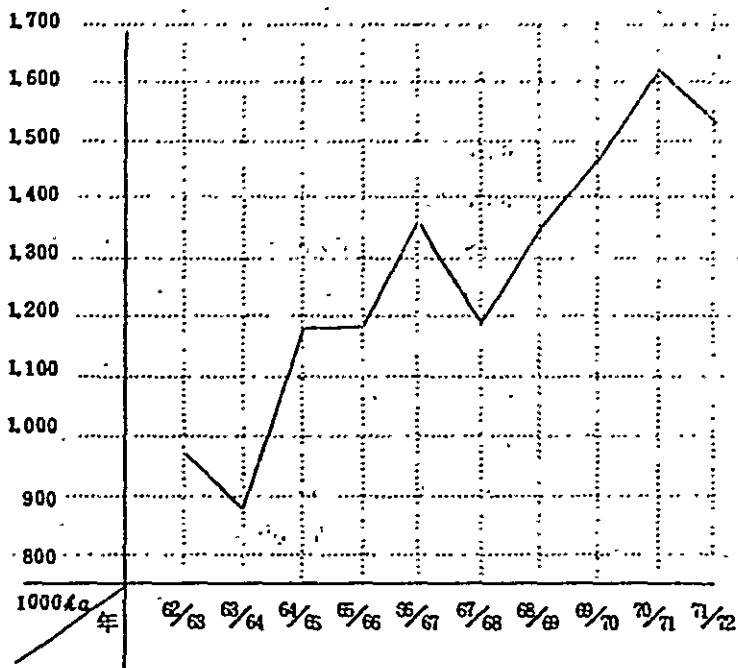
州	年度 項目	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971
		63	64	65	66	67	68	69	70	71	72
全国全体	播種面積	9830	8730	11726	11816	13623	11943	13540	14723	16142	15327
	生産量	4620	4600	7570	7820	11200	9400	8760	11400	8300	8280
ブエノス・アイレス	面積	5570	5280	5919	6269	7043	6348	7881	8656	8996	7867
	生産量	2670	2850	3784	4950	5800	4820	5050	7433	4480	5022
コルドバ	面積	1470	950	1425	1296	1519	1565	2058	2342	2243	2316
	生産量	570	308	812	764	1214	1060	1329	1296	1170	641
リオス・ネグロス	面積	01	02	12	31	20	03	04	05	30	40
	生産量	01	02	10	08	11	01	02	02	20	10
チャコ	面積	400	224	566	813	939	939	750	603	1535	1555
	生産量	230	158	639	260	967	740	290	394	554	816
エンリョ	面積	311	347	497	667	900	472	393	290	176	157
	生産量	177	216	228	273	398	190	223	175	114	82
フモサ	面積	48	41	58	84	39	27	12	09	13	13
	生産量	57	31	33	24	29	18	08	06	09	09
ラ・パンパ	面積	105	126	156	77	77	64	56	45	131	79
	生産量	29	16	30	04	04	15	26	22	50	04
サルタ	面積	-	-	05	10	05	02	04	-	-	-
	生産量	-	-	03	09	04	02	05	-	-	-
サン・ルイス	面積	162	185	270	216	251	235	252	253	286	208
	生産量	64	35	174	62	175	133	136	175	132	84
エステロ	面積	13	15	21	24	33	16	06	10	10	09
	生産量	06	07	09	09	22	02	01	04	05	02
ブクワン	面積	-	-	17	32	38	22	06	06	22	25
	生産量	-	-	14	27	31	14	05	04	15	08
サン・フェ	面積	1550	1560	2780	2294	2759	2250	2118	2504	2700	3000
	生産量	816	977	1834	1430	2545	2405	1675	1979	1750	1602

BOLSA DE CEREALES 72

(表5) 【ひまわりのkg当り平均収量】



(表6) 【ひまわりの栽培面積の増減】



世界の他の生産国との比較は(表7)の通りとなっている。

(表7)

単位: 1000ton

国 別 \ 年 度	1966/67	1967/68	1968/69	1969/70
ソ 連	6,150	6,608	6,685	6,358
アルゼンチン	1,120	940	876	1,140
ルーマニア	671	720	730	747
ブルガリア	423	478	459	545
ユーゴスラビア	282	250	309	390
トルコ	200	230	230	310
その他	564	534	591	630
計	9,410	9,760	9,880	10,120

Republica Argentina Ministeris de Comercio para Exportar OLEAGINOSAS

亜国が世界で占める生産量の比率は、

1966/67	11.9 %	
1967/68	9.6 %	
1968/69	8.8 %	
1969/70	11.2 %	となっており

一方、ソ連の比率は

1966/67	65.4 %	
1967/68	67.7 %	
1968/69	67.7 %	
1969/70	62.8 %	でソ連一国で世界全生産量の60%以上を

占めているので、ソ連の作柄の良悪は、即、世界の生産量に影響してくる。

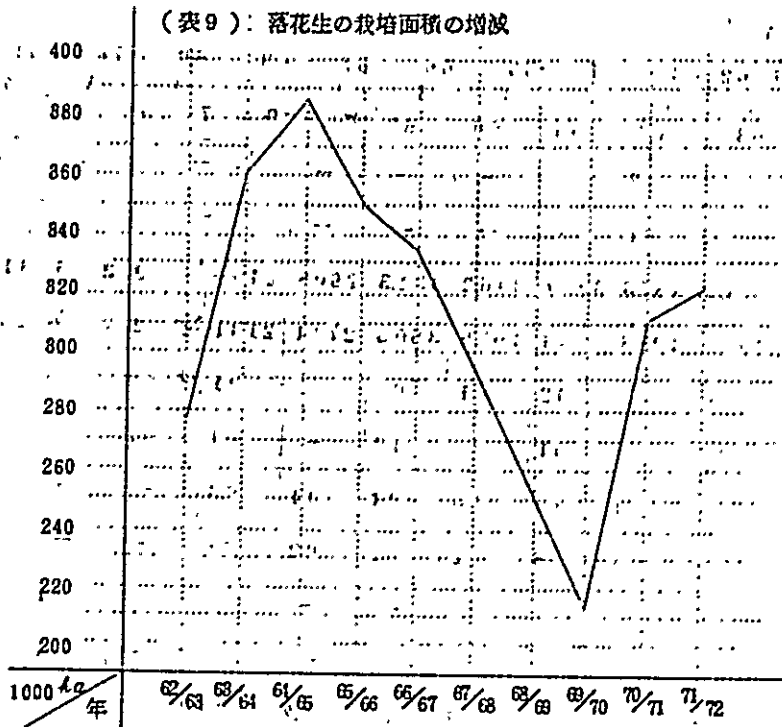
(3) 落花生 (mani)

落花生は、64農年度の388,500ha、439,300tonから年々減少を続け、69農年度には、215,000ha 234,500tonまで落ち込んだが、70農年度からまた増産の傾向にある。表8でもわかるように、落花生はコルドバ州が一州で全国の97.9%を栽培しており、コルドバ州の増減が則、亜国全体の増減に結び付く。

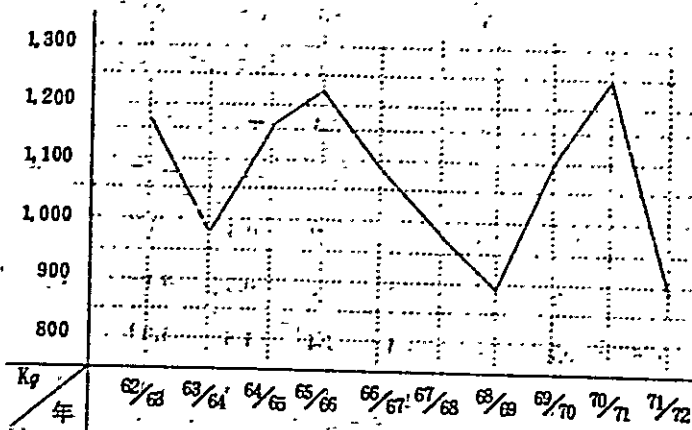
(表8) 落花生

州	年度 項目	1962	63	64	65	66	67	68	69	70	71
		{ 63	{ 64	{ 65	{ 66	{ 67	{ 68	{ 69	{ 70	{ 71	{ 72
ア イ レ ス	播種面積	—	0.2	—	—	—	—	—	—	—	—
	生産量	—	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—
コ ル ド バ	面 積	274.6	357.6	383.7	346.3	331.3	290.6	249.4	211.2	300.1	314.3
	生産量	307.2	329.8	435.9	407.5	350.3	279.4	213.1	231.2	376.0	247.6
コ リ エ ス	面 積	1.9	0.5	0.2	0.1	0.7	0.1	0.1	0.8	4.5	3.5
	生産量	2.4	0.2	0.1	0.1	1.0	—	0.1	0.9	2.3	1.7
チ ャ コ	面 積	0.9	1.0	1.0	1.0	0.4	0.4	0.3	—	—	—
	生産量	0.5	0.5	0.6	0.2	0.2	0.2	0.1	—	—	—
エ ン ト レ オ	面 積	—	—	0.2	—	—	—	—	—	0.1	0.3
	生産量	—	—	—	—	—	—	—	—	0.1	0.2
フ ォ ル モ サ	面 積	0.1	0.1	0.1	0.3	0.2	0.2	0.6	0.6	0.2	0.2
	生産量	0.2	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.6	0.3	0.1	0.3
ミ シ オ ネ ス	面 積	0.4	0.4	0.4	0.4	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.3
	生産量	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.4	0.3	0.1
サ ル タ	面 積	—	0.4	0.5	0.4	0.3	0.8	0.6	0.3	0.2	0.2
	生産量	—	0.6	0.7	0.6	0.4	0.7	0.8	0.3	0.2	0.2
サ ン ル イ ス	面 積	—	—	0.9	0.8	0.3	—	—	—	—	—
	生産量	—	—	1.0	0.4	—	—	—	—	—	—
サ ン タ ・ フ ェ	面 積	1.0	1.1	0.5	0.4	0.2	0.3	0.1	0.4	1.1	1.2
	生産量	1.1	1.2	0.2	0.3	0.2	0.5	0.1	0.4	1.7	1.2
ソ ク マ ン	面 積	0.6	0.4	1.0	1.4	1.4	1.5	1.9	1.3	7.3	0.6
	生産量	0.3	0.2	0.4	1.3	1.4	1.4	1.9	1.0	6.9	0.7
西 国 全 株	面 積	279.3	362.0	388.5	351.1	335.3	294.4	253.5	215.1	314.0	320.0
	生産量	312.0	333.0	439.3	410.8	354.0	282.8	217.0	234.5	387.6	252.0

(表9) 落花生の栽培面積の増減



(表10) 落花生のha当り平均収量



世界の他国との比較は下表(表11)の通りである。

(表11)

単位: 1000ha

年度	1966/67	1967/68	1968/69	1969/70
イ ン ド	4,111	5,731	4,631	5,143
中 共	2,750	2,800	2,550	2,700
北 米	1,093	1,122	1,153	1,145
ナ イ ジェ リ ア	1,489	993	1,108	926
ブ ラ ジ ル	751	754	754	820
メ ネ ガ ル	736	820	598	590
ア ルゼンチン	354	283	217	234
その他	4,286	4,027	4,179	4,322
計	15,870	16,530	15,190	15,880

・ 亜国が全世界に占める割合は 1966/67 2.2 %

1967/68 1.7 % 1968/69 1.4 % 1969/70 1.4 %

(4) 棉

棉は、チャコ州が最も多く、71農年度では全国の57.9%を栽培しており、フホルモサ州、サンタ・フェ州、サンチャゴ・デルエステロ州の4州で全国の91.4%を栽培している。

栽培面積は過去10年間30万~60万haの間を上下しており、ほとんど増加は認められない。

一方、棉実の生産状況を他国と比較してみると下表(表12)の通りである。

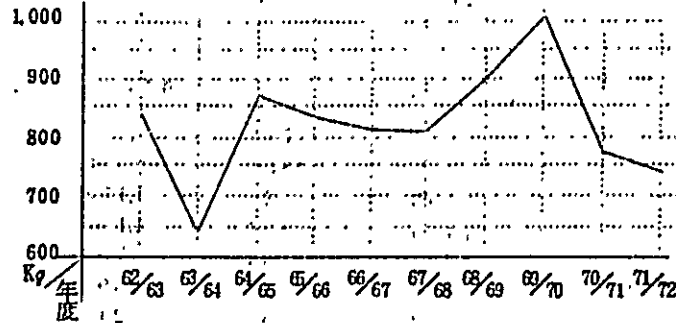
(表12)

単位: 1000ton

年度	1966/67	1967/68	1968/69	1969/70
北 米	3,593	2,912	4,209	3,798
ソ 連	3,590	3,580	3,570	3,425
中 共	3,200	3,450	3,150	3,100
ブ ラ ジ ル	1,181	1,072	1,266	1,190
パ キ ス タ ン	914	1,040	1,058	1,077
ア ルゼンチン	158	139	220	266
その他	6,029	5,882	6,347	6,119
計	18,665	18,075	19,820	18,975

Republica Argentina Ministerio de Comercio para Exportar OLEAGINOSOS

(表13) 棉のAa当り平均収量



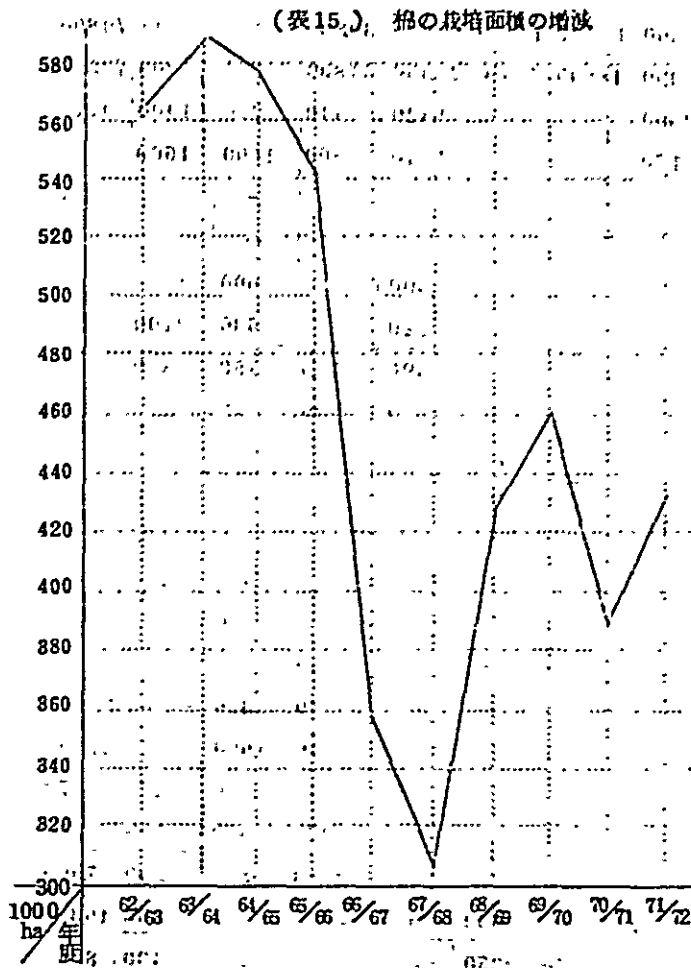
(表14)

棉

単位: 1000ha 1000ton

州	項目	年度									
		1962 1963	63 64	64 65	65 66	66 67	67 68	68 69	69 70	70 71	71 72
全国全体	播種面積	567.6	585.1	579.5	540.0	360.0	307.0	435.7	463.6	388.2	439.4
	生産量	438.5	337.2	457.0	370.2	269.8	230.0	366.5	458.2	285.0	298.0
カタル マルカ	面積	0.2	0.3	0.5	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
	生産量	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	-
コルドバ	面積	1.3	1.5	4.0	2.8	2.5	3.0	2.5	2.5	1.6	3.1
	生産量	0.3	0.6	1.2	0.8	1.0	1.3	1.3	1.2	2.4	1.2
コリ エントス	面積	25.7	30.7	32.2	21.5	13.0	10.5	19.0	17.1	11.6	16.9
	生産量	18.7	13.9	13.1	5.5	6.8	5.5	9.0	11.8	6.7	9.6
チャコ	面積	403.4	399.0	393.3	378.0	254.5	184.4	256.2	267.0	213.0	254.4
	生産量	307.0	234.7	339.0	275.6	182.5	146.0	230.0	263.0	173.0	154.8
エントレ オリオ	面積	0.5	0.4	0.4	0.5	0.2	-	0.2	0.2	0.1	0.1
	生産量	0.2	0.3	0.3	0.3	0.1	-	0.2	0.2	0.1	0.1
ヘフイ	面積	0.3	0.3	0.4	0.4	0.2	0.2	0.4	0.8	0.1	0.1
	生産量	0.1	0.2	0.3	0.2	0.3	0.1	0.4	1.1	0.2	0.1
ミシオ ネス	面積	0.9	0.7	0.8	0.8	0.8	0.9	2.3	2.5	2.2	2.4
	生産量	0.5	0.4	0.6	0.7	0.6	0.9	2.0	3.0	1.2	1.3
サルタ	面積	0.2	0.2	0.4	0.7	0.3	0.2	0.2	0.4	0.1	0.4
	生産量	0.1	0.2	0.3	0.4	0.2	0.1	0.2	0.4	0.1	0.4
サンタ フェ	面積	45.6	46.2	32.6	34.6	28.8	26.8	51.0	65.0	53.0	51.1
	生産量	46.0	23.0	29.0	25.3	23.7	21.1	43.0	68.5	42.0	43.9

州	項目	年度									
		1962 63	63 64	64 65	65 66	66 67	67 68	68 69	69 70	70 71	71 72
エネゴ	播種面積	29.4	49.8	44.8	43.0	22.0	35.0	43.2	45.3	44.4	51.6
	生産量	31.2	35.7	37.6	30.2	24.0	15.0	27.0	41.0	26.0	38.5
ツマン	面積	0.1	—	0.1	0.2	0.1	1.1	1.7	2.3	2.1	1.7
	生産量	—	—	—	0.2	0.1	0.6	1.3	1.5	1.2	1.1
フネ寺	面積	50.0	56.0	70.0	57.2	37.5	44.8	58.9	60.4	59.9	57.5
	生産量	34.3	28.1	35.4	30.8	30.3	39.3	52.0	66.4	34.0	47.0



(5) 大豆 (Soja)

亜国の大豆栽培面積は、他の主要油料作物に比べ小規模に過ぎないが、71農年度から急激に増加しており、72農年度は169,400haと前年度の倍以上になっている。

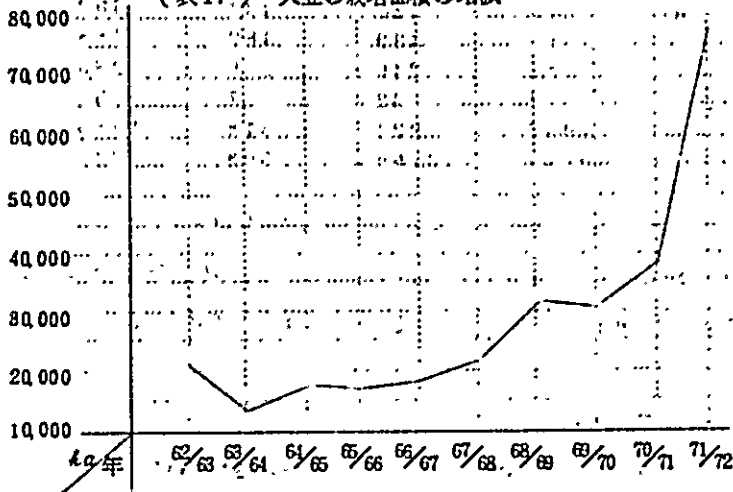
州別にみると、サンタ・フェ州 ミシオネス州が多く、71農年度では、両州で全体の77.9%を占めているが、72農年度はサンタ・フェ州で100,000haを栽培しており、ブエノス・アイレス ツクマン州等も増産の兆しが見える。

(表16)

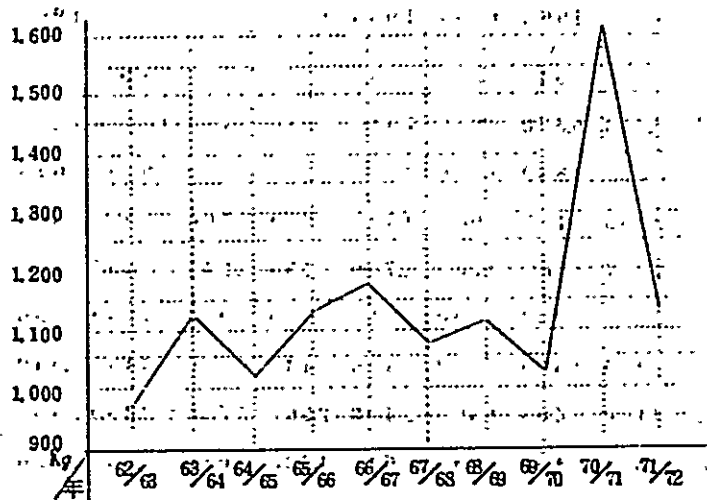
州	年度 項目	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971
		63	64	65	66	67	68	69	70	71	72
全 国	播種面積	21100	13700	17560	16757	18470	22800	30800	30400	37700	79800
	生産量	18920	14000	17000	18000	20500	22000	31800	26800	59000	78000
ブ イ レ ス	面積	4000	6050	2300	1500	1850	1320	1440	1270	1400	1580
	生産量	4620	7400	2170	1750	2300	1540	1800	1600	1600	2020
コ ル ド バ	面積	815	750	-	-	-	-	-	-	-	800
	生産量	1053	900	-	-	-	-	-	-	-	20
メ ン テ ン	面積	-	-	45	-	-	600	-	600	1570	5200
	生産量	-	-	-	-	-	520	-	630	2100	2240
チ ナ コ	面積	-	-	-	-	-	390	130	150	360	1000
	生産量	-	-	-	-	-	190	90	110	275	600
エ ン ト リ オ	面積	900	20	402	230	1410	-	-	-	-	-
	生産量	167	10	240	110	380	-	-	-	-	-
フ ル ミ ヤ	面積	-	-	-	-	-	265	180	290	195	150
	生産量	-	-	-	-	-	300	170	340	160	120
メ ン ド サ	面積	-	-	20	25	30	32	35	30	35	-
	生産量	-	-	20	35	40	50	50	-	-	-
ミ シ オ ネ ス	面積	1100	1280	8132	8545	9360	10820	13200	13300	16100	25200
	生産量	981	700	9300	9900	11100	7400	9800	11900	28700	27900
サ ル ト	面積	-	-	109	40	153	340	180	370	370	370
	生産量	-	-	75	50	50	80	270	500	425	300
サン タ フェ	面積	12895	4440	4235	4000	3050	2300	2980	8800	10500	37000
	生産量	10409	3740	2970	3770	3600	2550	3000	7200	17000	40300
ツ ク マ ン	面積	1400	1140	2312	2230	2350	6815	12550	5750	7400	8500
	生産量	1690	1220	2210	2400	2700	9500	16500	4700	8900	4500

1972~73 播種面積	全 国	169,440
	フ・アイレス	5,185
	コリエンテス	6,425
	ミシオネス	36,530
	サンタ・フェ	100,000
	ツクマシ	15,000
	そ の 他	6,300

(表17) 大豆の栽培面積の増減



(表18) 大豆のkg当り平均収量



(表19) 世界の国別生産状況は下表のとおりである。

国別	年度	1967/68	1968/69	1969/70	1970/71	1971/72
北米	米	26,564	30,023	30,654	30,584	31,825
中南	米	11,100	10,670	10,920	11,430	11,500
ブラジル	米	716	654	1,057	1,509	2,218
インドネシア	米	543	528	434	603	610
カナダ	米	416	389	389	488	391
アルゼンチン	米	220	246	209	283	274
その他	米	22	32	27	59	78
計		1,057	1,224	2,318	1,383	1,396
計		40,638	43,766	45,008	46,339	48,292

上記表でも解るよりに北米が全世界の全生産量の66%以上を生産しており、北米の作柄は、世界の市況に大きな影きょうを与えることになる。特に注目したいのは、ブラジルの急速な伸びであり1967農年度に比し、1971農年度では約3倍の増産となっている。

(6) ひま (Tartago)

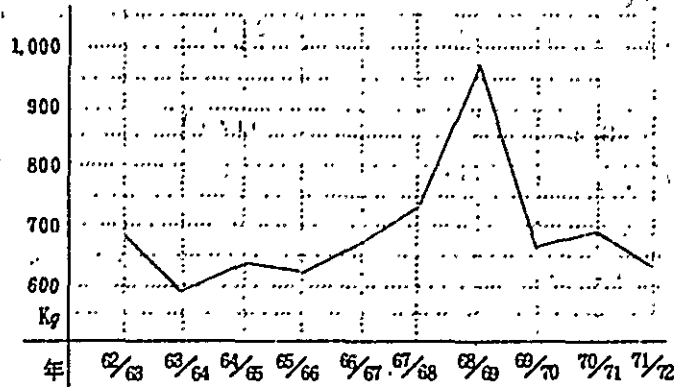
ひまは、1968農年度 全国で10,100ha栽培されていたが、1972農年度には1,760haに過ぎない。

州別にみると、コリエンテス州、チャコ州、エントレ・リオ州の3州に限られ、生産量も1971農年度 全国で1,050tonに止まっている。

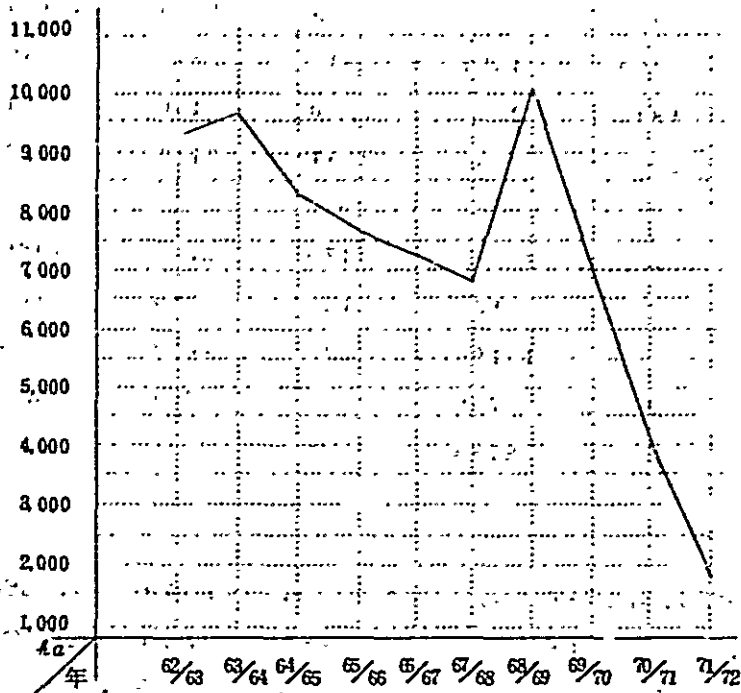
(表20)

州/項目	年度										
	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	
	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	
西国全産	播種面積	9,350	9,650	8,200	7,510	7,350	6,750	10,100	7,230	4,000	1,760
	生産量	6,110	4,880	4,430	3,740	4,200	4,200	9,500	4,070	2,648	1,050
コリエンテス	播種面積	2,050	2,157	3,000	4,500	4,200	4,100	3,000	500	-	30
	生産量	1,267	1,000	2,700	2,700	2,450	2,240	4,500	440	-	27
チャコ	面積	3,200	2,038	900	610	650	900	4,750	4,250	2,700	1,000
	生産量	2,499	1,350	642	395	430	880	3,400	1,940	1,995	670
エントレ・リオ	面積	4,100	5,400	4,300	2,400	2,500	1,750	2,350	2,480	1,300	730
	生産量	2,344	2,480	1,088	645	1,320	1,080	1,600	1,690	653	353

(表21) (ひとのkg当り平均収量)



(表22) (ひとの栽培面積の増減)



(7) その他の油料作物

イ ベニバナ (Cassia)

ベニバナは、インド、オーストラリア、北米、メキシコ、カナダ等で栽培されているが、特に北米とメキシコの栽培面積が増加しつつある。亜国では、ここ数年、種々の試験を行っており、栽培可能の見通しは立ったようであるが、広く一般には普及していない。

ロ ゴマ (Sesamo) ナタネ (Colza)

両者ともに、極少量栽培されているようであるが、主要油料作物の仲間入りをするには、至っていない。

2. チャコ州、サンチャゴ・デ・エステロ州・コルドバ州・サンタ・フェ州4州の油料作物栽培状況

(1) チャコ地方に於ける主要油料作物の栽培状況は下表(表23)のとおりである。

単位：1000ha

年度		1967~68	1968~69	1969~70	1970~71	1971~72
ひまわり	全 国	1,194.3	1,354.0	1,472.3	1,614.2	1,532.7
	チャコ	93.9	75.0	60.3	153.5	155.5
棉	全 国	307.0	435.7	463.6	388.2	439.4
	チャコ	184.4	256.2	267.0	213.0	254.4
落花生	全 国	294.4	253.5	215.1	314.0	320.9
	チャコ	0.4	0.3	-	-	-
大豆	全 国	22,800ha	30,800	30,470	37,700	79,800
	チャコ	390ha	130	150	360	1,000
ひま	全 国	6,750ha	10,100	7,230	4,000	1,760
	チャコ	900ha	4,750	4,250	2,700	1,000
亜麻	全 国	711.3	878.6	952.0	973.3	538.8
	チャコ	-	-	-	-	0.2

チャコ地方では、特に棉・ひまわりに力を入れており、棉は1971農年度、全国の57.9%で、ひまわりも70農年度から急速に栽培面積が増加し、71農年度では全国の10%強を栽培するに至った。亜麻、落花生は、殆んど栽培されておらず、大豆、ひま

りについても栽培面積はごく僅かである。

N. T. A. の担当技師への質問と回答

イ 大豆の将来性

現在、鋭意研究中であるが、栽培技術体系の確立をみていない。最も問題となるのは降雨の月間分布状態で、これが良好な場合は、好結果を得ている。

一般農家への普及を計って行きたいが、年による収量の差があまり大きいので現段階では自信をもって奨励できない。

ロ 棉の機械収穫の可能性

全国でも有数の生産地帯であるが、機械による収穫は行っていないのか。との質問に対して、落葉剤の効果に問題があること。機械があまりにも高価であること。等の理由から未だ機械による収穫は行っていないとのことであった。

ハ ベニバナの栽培可能性

試験では好結果を得ているので、一般農家へ奨励したい。何故一般農家では栽培しないのかとの質問に対し、なじみがうすいのでしようとのことだった。

ニ 一般農家では肥料を使用していないようであるが、肥料の効果試験は行っていないのか。

この質問に対しては、明確なる回答は得られなかったが、降雨量の関係で高価な肥料を使用してもその割に効果がないとのことであった。

(2) サンチャゴ・デル・エステロ地方

油料作物の栽培状況は下表(表24)の通りである。

(表24) (単位: 1,000 ha)

年度		67~68	68~69	69~70	70~71	71~72
区分	全 国	307.0	435.7	463.6	388.2	439.4
	エ ス テ ロ	35.0	43.2	45.3	44.4	51.6
ひまわり	全 国	1,194.3	1,354.0	1,472.3	1,514.2	1,532.7
	エ ス テ ロ	1.6	0.6	1.0	1.0	0.9

上記の通り、油料作物としては、棉、ひまわりが栽培されているが、国全体からみればごく僅かな面積に過ぎない。油料作物以外の農作物としては、ポルト・ベルデ、とうもろこし、アルファルファ、小麦、野菜等であるが、全国の4.5%強を栽培しているポルト・ベルデ以外はいずれも小面積に過ぎない。

当地方の農業開発が遅れている原因は、ふたつあるといわれ、1つは、気象的原因であり、他は土壌である。気象的にみると、年間雨量が極端に少なく、参考までにLa banda I. N. T. Aの1971年度の観測結果を記すると

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月
 99mm 85mm 75mm 25mm 15mm 10mm 5mm 2mm 10mm 30mm 60mm 80mm
 計496mmとなっており、1年だけの観測結果では結論は出せないが、I. N. T. Aの技師に聞いたところでは毎年71年度と大差ないとのことであった。

灌漑施設の整備されていないところでは、農作業は全く天候まかせて、その年の生産量は、降雨量によって大きく左右される。安定した収穫を上げるには、灌漑施設の整備が先決問題であるが、それには莫大な投資を要するので早急には問題解決しないだろう。

一方、土壌面から見ると、当地方は強アルカリ土壌が多く、ところによっては雑草も生育しないところがある。強アルカリ土壌を改良するには土壌中の塩分を洗い流すことであるが、これもまた、それほど簡単なことではない。

(3) コバルト地方

当地方の油料作物栽培状況は下表(表25)のとおりである。
(表25)

(単位:1000ha)

区分		年度	67~68	68~69	69~70	70~71	71~72
亜麻	全 国		711.3	878.6	952.6	473.3	538.8
	コルドバ		56.2	114.0	80.5	12.0	34.1
ひまわり	全 国		1,194.3	1,354.0	1,472.3	1,614.2	1,532.7
	コルドバ		156.5	205.8	234.2	224.3	231.6
落花生	全 国		294.4	253.5	215.1	314.0	320.9
	コルドバ		290.6	299.4	211.2	300.1	314.3
棉	全 国		307.0	435.7	463.6	388.2	439.4
	コルドバ		3.0	2.5	2.5	1.6	3.1
大豆	全 国		22,800ha	30,800	30,470	37,700	79,800
	コルドバ		—	—	—	—	800

上記表でも解るように、落花生は全国生産量の約9.8%を生産しており、ひまわりは、ブ・アイレス州、サンタフェ州に次いで多く栽培されている。

亜麻は1962年度27,460ha栽培されていたものが年々減少し、71年度

には僅かに3,4,000ha栽培されているに過ぎない。当地方は、年間降雨量の多少によって、3地区に区分される。即ち、サンチャゴ、デル・エステロ州寄りの乾燥地帯 中間地帯、フエノス・アイレス州寄りの地帯でサンチャゴ、デル・エステロ州寄りの乾燥地帯では殆んど農作物は栽培されておらず、中間地帯も適当なる雨量のない年は、収量が大きく影を響くので、相当数の農家が牛に切り換えている。

当地方で最も重要な地帯は、フエノス・アイレス州寄りの地帯で、多くの農作物はこの地帯で生産されている。

サンタ・フェ州

サンタ・フェ州はフエノス・アイレス州、エントレ・リオ州、コルドバ州と共に産国の穀倉地帯で、主要農作物の4州が占める割合は下表(表26)の通りとなっている。

(表26)

単位: 1000ha

区分	年度	67~68	68~69	69~70	70~71	71~72
と り も ろ こ し	全 国	4493.4	4595.4	4665.6	4993.0	4439.0
	フ・アイレス州	1076.7	1173.7	1340.0	1542.1	1337.7
	サンタ・フェ州	828.7	957.9	1050.0	1090.0	1175.0
	エントレ・リオ州	547.1	532.0	567.2	564.0	502.4
	コルドバ州	669.9	1949.0	855.0	846.4	694.8
小 麦	全 国	6613.0	6679.5	6238.7	4468.2	4986.0
	フ・アイレス	3796.3	3621.7	3449.0	2837.6	2940.5
	サンタ・フェ	735.3	741.0	629.0	586.0	740.0
	エントレ・リオ	329.2	431.5	361.0	285.3	264.0
	コルドバ	835.6	912.0	848.2	373.0	420.0
ソ ル ゴ	全 国	1841.3	2151.2	2567.5	3121.6	2759.0
	フ・アイレス	328.3	386.3	415.9	591.6	482.3
	サンタ・フェ	509.3	490.4	632.0	730.0	740.0
	エントレ・リオ	128.8	143.0	181.5	194.0	191.5
	コルドバ	522.6	700.0	860.0	969.7	843.5
ひ ま わ り	全 国	1194.3	1354.0	1472.3	1614.2	1532.7
	フ・アイレス	634.8	788.1	865.6	899.6	786.7
	サンタ・フェ	225.0	211.8	250.4	270.0	300.0
	エントレ・リオ	47.2	39.3	39.0	17.6	15.7
	コルドバ	156.5	205.8	234.2	224.3	231.6
画 麻	全 国	711.3	878.6	952.0	973.3	583.8
	フ・アイレス	318.2	392.6	464.2	524.2	252.6
	サンタ・フェ	145.9	139.4	125.5	137.0	96.0
	エントレ・リオ	185.3	225.5	275.0	295.0	151.6

		67~68	68~69	69~70	70~71	71~72
コルドバ		56.2	114.0	80.5	12.0	34.1
ライ むぎ	全 国	2285.5	2500.0	2488.9	1996.9	2202.2
	ブ・アイレス	641.8	695.0	733.1	620.1	671.0
	サンタ・フェ	222.9	222.0	209.9	244.0	280.0
	エントレ・リオ	4.2	0.7	0.4	0.8	0.8
	コルドバ	742.0	828.6	756.2	590.7	573.9

71農年度に於ける4州が全国で占める割合

とりもち 83.6% 小麦 87.5% ソルゴ 81.8% ひまわり 87.1%
 亜麻 91.5% らいむぎ 69.3%

上記の通り、主要農作物の80%以上は、4州で生産しており、4州の消費は亜国全体の消費に結びついている。

サンタ・フェ州の油料作物の栽培状況

亜麻は1962農年度353,600ha栽培されていたものが、1971農年度には、96,000haと、10年間に3分の1以下に減少している。

ひまわりは年々増加しており、1962農年度155,000haだったものが、1971農年度には300,000haと倍増された。

棉はチャコ州、フォルモサ州、サンチャゴ・デル・エステロ州に次いで多く栽培されており、1971農年度では51,100haだったが、今後、徐々にではあるが倍加して行くものと思われる。

その他の油料作物で注目されるのは大豆で、1962農年度、僅かに4,440haだったものが、1971農年度には37,000haと急増しており、現在の大豆景気が旺く限り、急激な増産が予想される。

II 優良品種の検討

本調査地域(チャコ、エステロ、コルドバ、サンタ・フェ州)は、当国の集団移住地(アルト・パラナ、フラム・チャベス、イゲアス)とは、気候的にも、又、土壌もかなり異なるので、前記4州で奨励している優良品種が、即邦人集団移住地の奨励品種として採用することは出来ないうが、前記4州で奨励している優良品種の殆んどについてアルトパラナ試験農場でも試作しているのので、結果を得次第両者の結果を比較検討して、優良と認められた品種については奨励

して行きたい。

1. チャコ地方

(1) ひまわり

IMPIRA、PEHUEN、GUYACAN、CORDOBES、I. N. T. A等が奨励されているのが、锈病に低抗性があり、収量も多いCORDOBES、I. N. T. A、IMPIRAが普及している。いずれの品種も播種適期は8~10月であるが、6~12月迄播種可能で収量は11~5月となっている。チャコ地方は年間雨量が1,000mm前後で、一般農家の播種はその年の降雨の状況によって左右される。ha当り平均収量は、年によるバラツキが大きく800~1,200Kgの範囲である。

耕種概要

播種間隔 畦巾は1m前後でha当り35,000~40,000本立とする

管 理 除草 手、又はトラクター索引用カルチベーター

消毒 消毒は行わない。

施肥 肥料の効果が少ないので無肥料栽培を行っている。

収 穫 ひまわり収獲のために改良したコンバインによる収獲 パラグアイの国立試験場でも IMPIRA、GUAYACAN、PEHUENを奨励しており、いずれもかなりの成績を上げている。

(2) 棉

チャコ地方で最も力を入れている作物で全国生産量の50%を占めている。現在、奨励している品種はTOBA I、TOBA II、GUAYCURUで、このうちでもTOBA IIが最も普及している。播種適期は9~10月であるが、降雨の状況によっては、11月以降播種する場合もある。収獲期は1月下旬から4月、収量は1ha当り700~1,500Kg

耕種概要

畦 巾 90cm~100cmでha当り80,000本立て

管 理 除草 手、又はトラクター索引カルチベーター

間引 除草と一諾にアサタで行う

消 毒 最低5~6回行う 主に害虫駆除

施 肥 施肥は行わない

収 穫 手摘み 人夫不足等もあり、機械収獲を研究中であるが、問題が多く、機

種を導入するまでに至っていない。

当国ではB50, BTK12を奨励しているが、亜国INTAでは両品種については試験を行っていない。一方、当国国立農試では、TOBAIIを試作しているが現段階では奨励品種として普及してはいない。

(3) 大豆

チリコ地方のINTAでも、大豆に関する試験を行っているようであるが、INTAの技師の説明によると、まだ満足するような結果を得ていないとのことであった。有望と思われる品種としてはhalesay 71であるが、Bragg Bienville les等もかなり有望ではないかとのことであった。

当地方の大豆作は、どこに問題があるかと思ふかとの問に対し、降雨量の分布が大豆作に適当ではないとのことであった。Bienvilleは勿論halesay 71 Bragg等は当移住地にも相当普及しておりBienvilleより早生種なので、労働力配分上、好ましい品種である。

(4) ベニバナ

INTAでは、種々の品種を試作したがGila種が最も好成績を上げているとのことであった。アルト・パラナ試験場でも、コルドバのINTAより種子を取り寄せ試作したが発芽当初より病気が発生し、数回消毒したにもかかわらず、開花期前後から病気は更にひどくなり、ついに収穫皆無となった。

本農年度は最初の試作なので、来年度は数品種を取り寄せ、耐病性、播種適期等について試験する予定である。

2 サンチャゴ・デル・エステロ地方

当地方は、当国集団移住地とは、気象、土壌条件を異にしているので、あまり参考にはならないと思う。即ち、年間雨量が当国集団移住地の2分の1以下であること、場所によっては強アルカリ土壌で雑草も生育しないところがある。

当地方の油料作物は棉が主でひまわりが全州で1000ha栽培されているにすぎない。71農年度の棉の栽培面積は51,600haであるが、Rio Dulce Rio Dulcey Salado, Rio Saladoの3河川の流域で灌溉可能な地域に約80%集中している。

(1) 棉

品種はLa banda 56が栽培されている。播種時期は9~10月である収穫期 1月下旬~3月 収量750~1,000Kg/ha

耕種概要

播種間隔 畦巾 1 m 株間 10~20 cm

播種方法 トラクター又は馬で条播

管 理 除草 手またはトラクター索引(カルチベーター

消毒 8回前後

施肥 無肥料

収 穫 手摘み

3 サンタ・フェ (Reconquista) 地方

Avellaneda 農協が観測した1969~1972年までの4年間の月別平均雨量は、

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月
172.2mm 125.6mm 150.2mm 82.8mm 72.0mm 22.1mm 47.1mm 38.6mm 86.9mm 85.0mm 104.2mm 93.4mm

これをアルトパラナ試験農場の観測した(1967年6月~1971年7月)結果と比較
すると223.3 127.5 179.2 82.8 115.9 104.0 83.5 82.7 170.7 206.7 113.2

209.3 計 Avellaneda 農協 1,080.1mm

アルトパラナ試験農場 1,698.8mm

年間総雨量で約600mmの差があるが、月別分布の傾向は同様の数値を示している。土壤
条件は異なるにしても、気候条件はある程度類似しているため、当地方での優良品種は、当国
集団移住地への導入の可能性があるのでないかと推測される。

(1) ひまわり

当地方の栽培品種はIMPIRAが主である。

栽培概要

播種期 8月~12月

収穫期 1月下旬~5月

収 量 700~800kg

播種間隔 畦巾 70~75cm 株間30cm

管 理 除草 手またはトラクター索引(カルチベーター

消毒 行わない

施肥 無肥料

収 穫 ひまわりに改良されたコンバインで収穫

IMPIRAが収量もあり、又、耐病性もあるので、当地方はIMPIRAが主体となって

いるが、当国集団移住地で考えている大豆の前作としてのひまわりは、出来る限り早期の収穫が要求されるので、播種期を早めても収量に大きな影きようなく、しかも早生品種であることが必須条件となってくる。IMPIRA は安定した収量もあり、耐病性もあるので当パラグアイ国でも普及しているが、やや晩性なので、早性で収量の多い品種の送抜が必要である。

(2) 亜 麻

当地方はReconquista I.N.T.A Rancuagua INTA の2品種が栽培されている。

播種期 5月中旬～6月中旬

収穫期 11月

収 量 700Kg前後

耕種概要 播種方法 一般に散播

播種量 ha 当り60Kg

管 理 除草 試験的にMC PAを使用

消毒 害虫が発生した時には飛行機で消毒を行う。

収穫方法 刈倒機で刈り倒した畑で、4～5日乾燥後、亜麻用コンバインで脱穀。

アルトパラナ試験農場でも昨年、亜国INTAより、12品種取り寄せ試作を行ったが何れの品種もha当り換算収量は、400～500Kgと少なかったが、その原因は発芽初期に立枯が出たこと、銹病におかされた為と思われるが、昨年6月より11月迄の降雨量が例年に比べ異常に多かったのも収量の少なかったひとつの原因ではないかと思はれる。

	6月	7月	8月	9月	10月	11月
Avellaneda	22.1	47.1	38.6	86.9	85.0	104.2
(1969～72年までの平均)						
アルトパラナ移住地	104.0	83.5	82.7	170.7	206.7	113.2
(1967～71年までの平均)						
アルトパラナ移住地	93.6	190.2	228.3	229.6	370.4	81.1
(1973年)						

亜麻は、5月～6月に播種した場合、11月には収穫が済むので、大豆の前作となり得るので適品種の選定と栽培技術体系の確立が急がれる。

(3) 落花生

Blanco Rio Segundo virgenia 6が多く栽培されている。

播種期 10月

収穫期 4月

収量 むき実で1,000~1,700Kg

耕種概要

畦巾 75cm, 株間 30cm

管理 除草 手またはトラクター索引カルチベーター 1回

消毒 行はない

施肥 無肥料

収穫 落花生収穫用に改良された機械

従来、邦人移住者が栽培している落花生は、低含油量の大粒種であるが、落花生を搾油原料として生産するには、含油量が問題となるから、含油量をも考慮し、品種の選定を行き必要がある。

アルトパラナ試験農場でも、当国国立試験場より10品種ほど(前記2品種も含め)導入し、昨年度より試作を行っている。

(4) 棉

TOBA I, TOBA IIが多く栽培されている。

播種期 9月下旬~10月

収穫期 2月~5月

収量 900~1,200Kg

耕種概要 畦巾 75~90cm ha当り60,000~120,000本立て

管理 除草 手またはトラクター索引カルチベーター

収穫 手摘み

機械収穫の可能性について、I. N. T. A技師に質問したところ、下記理由により、機械収穫は不可能とのことであった。

- 土壌が柔いため機械がめり込む
- 機械が高価
- 落葉剤が効果的ではない。

(5) 大豆

halosoy 71を試作しているが年による収量の差が大きいため一般農家としてはあまり普及していない。

4. アルトパラナ試験農場で試験中の品種と有望と思われる品種

(1) 亜麻

・ Rancagua INTA , ・ Oliveras Timbu SAG , Tezanos pinto
Taragui Tapeparana INTA ・ Guaycuru INTA Pergamino
Mocoreta SAG ・ Pergamino Puelche MAG ・ CONESA INTA
Buenas Aires Reconquista INTA Burk 68 Santa ratatina
Parana INTA Puelche INTA

以上、14品種の内、Rancagua INTA Oliveros Timbu SAG Guaycuru INTA Pergamino Puelche MAG Conesa INTA の5品種について、5月6月、7月と3回播種し、生育状況 収量等の試験を行った。他の9品種については、種子の入手が遅れたため、試作程度に止まった。

1年だけの試験では、結論を得ることは出来ないが、前記5品種については、いずれもha当り換算収量は400~500Kg前後であり、亜国INTAの試験結果よりかなり落ちる。本年度は、14品種全部について試験を行い、優秀と思われる品種の選抜を行いたい。

(2) ひまわり

Gigante de Rusia PEHUEN Arnavirski Unlink Najak
Guayakan Sumena Peredrik Kiena Impora Pehuen a/a Kien
V6540 Negro BE 110G Norkinsol Riestra-70 Manfredi INTA
Comba Cordoves

以上、19品種の内 Gigante de RusiaからPehuen a/dまでの11品種については、継続して試験を行っており、亜国で奨励しているPehuen Guayakan Impiraともに、好結果を得ている。Kiein以下、8品種については、昨年新たに亜国より導入したもので、未だ試験の結果は得ていない。

今後は、大豆の前作となり得るための播種期と収穫期についての試験に重点を置くことにしたい。

(3) 落花柱

Virgenia 3 Virgenia 5 Virgenia 6 Manfredi 68

Cororodo conventino Cororodo manfredi Blanco Santa Fe :
Blanes Rio Segundo

上記8品種いずれも昨年度 当国国立試験場より導入したもので、現在 試験中である。
ReconquistaのINTAでは、Blanco Rio Segundo Virginia 6 の
2品種を奨励しているが、当国楽団移住地では、前記2種が果して好成績を上げ得るもの
かどうか試験の結果を待たないと結論は出せない。

(4) ペニバナ

US 10 Gila の2品種を亜国より導入して試験したが、2品種とも病気におかされ
収穫皆無だった。

Chaco I. N. T. A での試験結果では、Gilaでha当り2,000Kg前後の収量は
あり、しかも病気におかされることはないとのことだった。当国では、果してペニバナ
の栽培が可能なのか否か、本年度再度試験を行うことにした。

(5) 棉

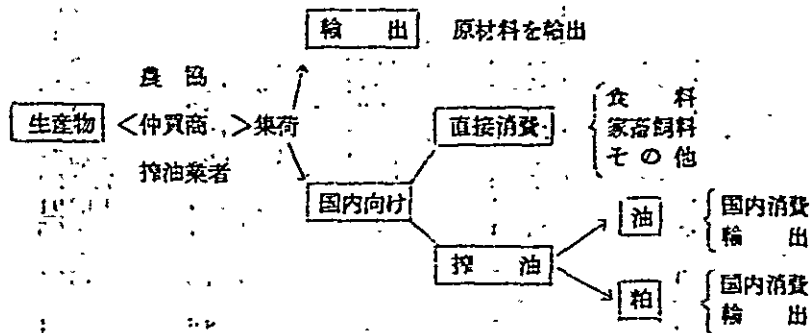
現在、アルトパラナ試験農場で試験中の品種は

HAR<229-29, HAR<142-9, COKER 310 DAIE KING II B 50

亜国では、TOBA I TOBA II Guagauru等が栽培されている。当国農牧省で
は B-50を自信をもって奨励しているが、亜国INTAではB50については、正式
には取り上げていないようである。

(生産物の流れ

生産者が生産した油料作物は農産協同組合、仲買商、搾油業者等により集荷され、一部は原
材料のまま輸出されるが、大部分は国内での搾油用に振り向けられる。搾油された原材料は、
油と粕に別れるが、各々、輸出に向けられたり、国内市場へ流れていく。



1. 原材料の輸出

原材料での輸出量は、何れの油料作物も僅少であり、生産物の大部分は国内で処理されている。

特に亜麻は、1920年代から1930年代にかけて、年間1.00万ton以上の原材料を輸出したものが、1940年代から徐々に減少し、最近10年間の輸出実績は下記の通りとなっている。

1962年	17ton	1967年	29ton
1963	20,692	1968	8
1964	45	1969	—
1965	20	1970	2
1966	—	1971	6

ひまわりについても、亜麻と同様で、生産物の大部分を国内で処理している。最近10年間の輸出実績は下記のとおりである。

1962年	4ton	1967年	34ton
1963	—	1968	8
1964	—	1969	—
1965	158	1970	2
1966	98	1971	6

落花生をはじめ、他の油料作物も、亜麻やひまわりと同様、原材料のままの輸出は、ごく僅少である。

2. 油の生産と輸出

最近5年間の油の生産と輸出は下表(表2.7.)の通りとなっている。

(表2.7.) 単位: ton

項目	年度	1967	1968	1969	1970	1971
亜麻油	生産	154,721	124,435	168,781	251,364	268,732
	輸出	211,254	98,189	166,768	168,409	206,825
桐実油	生産	24,500	18,738	27,612	33,949	22,043
	輸出	4,868	6,470	2,920	1,000	403
ひまわり油	生産	358,685	317,513	279,788	359,929	285,464
	輸出	81,085	80,020	7,340	101,160	35,978
落花生油	生産	66,649	61,070	41,639	68,891	72,122
	輸出	62,365	61,461	39,001	42,567	44,391
とらもろこし油	生産	3,164	3,154	3,720	4,097	4,605
	輸出	—	—	—	—	—
大豆油	生産	340	1,557	1,929	3,442	5,334
	輸出	—	—	—	—	—
ひま	生産	531	671	363	486	394
	輸出	—	—	—	—	—

亜国では、ひまわり・亜麻・落花生、棉実が油原料の主体をなしているが、最近大豆油の生産が増加しつつあるとともに少量ではあるが、とうもろこし油も増加している。

とうもろこし油は、とうもろこし粒から胚部をハク離し、これを搾るわけであるが胚部はとうもろこし粒の12~14%あり、胚部の脂肪分は33~40%である。

SANTA・FE市近郊のSAIYE MARCONETTI LTD では、数年前までは、ひまわり亜麻、落花生等の搾油を行っていたが、最近は、とうもろこしの搾油のみを行っているとのことで、その理由は、他のものに比べ利益が大きいからだとのことである。

輸出状況を見ると、ひまわり油、亜麻仁油、落花生油が主体で輸出先は主にヨーロッパである。

油輸出先別数量

棉実油 単位：ton

国別	年度	1969	1968	1969	1970	1971
西ドイツ		735	150	1,096	—	—
北米		—	2,520	—	—	—
イラン		—	1,979	—	—	—
オランダ		3,212	1,821	1,094	—	—
バングラデシュ		4	—	—	—	—
イギリス		916	—	730	1,000	403
日本		1	—	—	—	—
計		4,868	6,470	2,920	1,000	403

落花生油 単位：ton

国別	年度	1967	1968	1969	1970	1971
西ドイツ		19,100	19,849	8,635	8,561	6,003
フランス		—	639	—	1,589	8,649
オランダ		41,672	29,967	29,096	32,016	29,290
イスラエル		—	197	560	278	377
スイス		311	3,838	—	—	—
その他		4,282	6,971	710	123	72
計		62,365	61,461	39,001	42,567	44,391

ひまわり油 単位：ton

国別	年度	1967	1968	1969	1970	1971
西ドイツ		2,745	788	—	15,844	2,999
ホリビ		1,945	3,391	2,367	1,905	397
ブラジル		—	13,938	1,020	43	22
チリ		17,818	6,876	523	22	62
フランス		454	254	254	3,000	2,544
イタリア		3,518	2,015	299	675	1,042
オランダ		23,733	6,747	649	66,701	23,607
ペルー		28,351	38,219	2,228	2,696	—
イギリス		1,483	—	—	5,151	258
ウルグアイ		—	—	—	1,409	4,394
その他		1,034	7,792	0	3,714	653
計		31,085	80,020	7,340	101,160	35,978

亞麻仁油

単位：ton

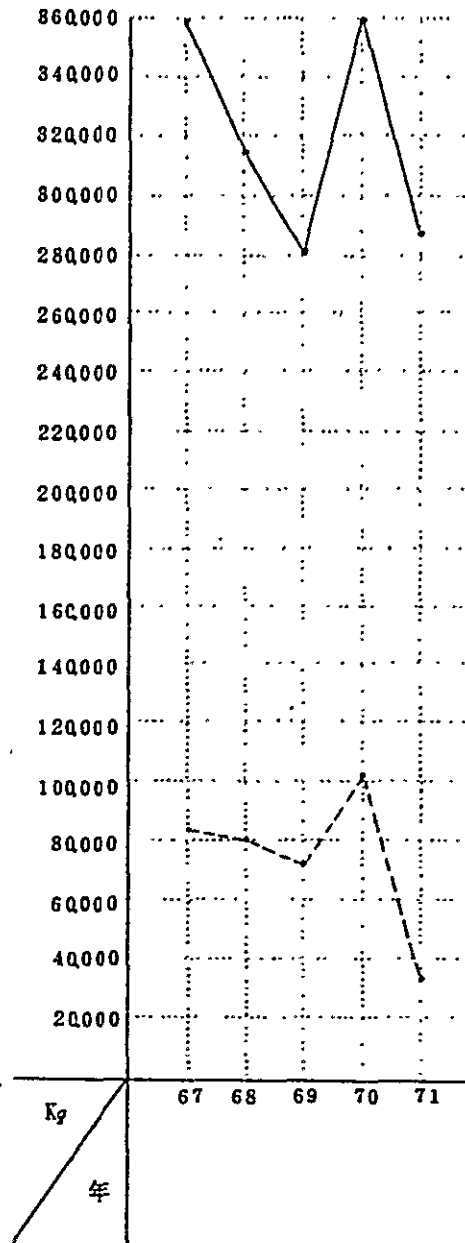
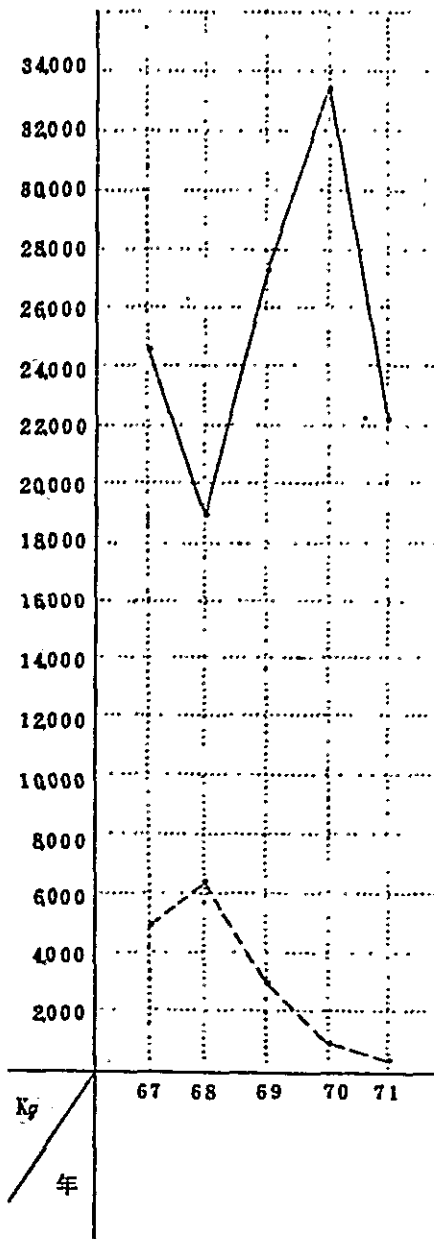
年 度	1967	1968	1969	1970	1971
西 ド イ ツ	32,215	10,064	7,655	20,010	5,993
オーストリア	—	—	—	—	3,427
チェコスロバキア	—	—	—	—	5,521
フ ラ ン ス	4,510	6,026	7,709	766	1,042
イ タ リ ア	15,300	14,751	15,168	11,578	7,747
オ ラ ン ダ	130,849	55,072	116,652	87,202	61,496
ポ ー ラ ン ド	—	—	—	—	25,649
イ ギ リ ス	2,190	—	3,125	2,117	41,028
ソ 連	9,500	—	—	30,286	30,954
ユーゴスラビア	7,494	3,617	9,368	6,918	6,166
そ の 他	9,196	8,659	7,091	9,532	17,802
計	211,254	48,189	166,768	168,409	206,825

—— 生産量

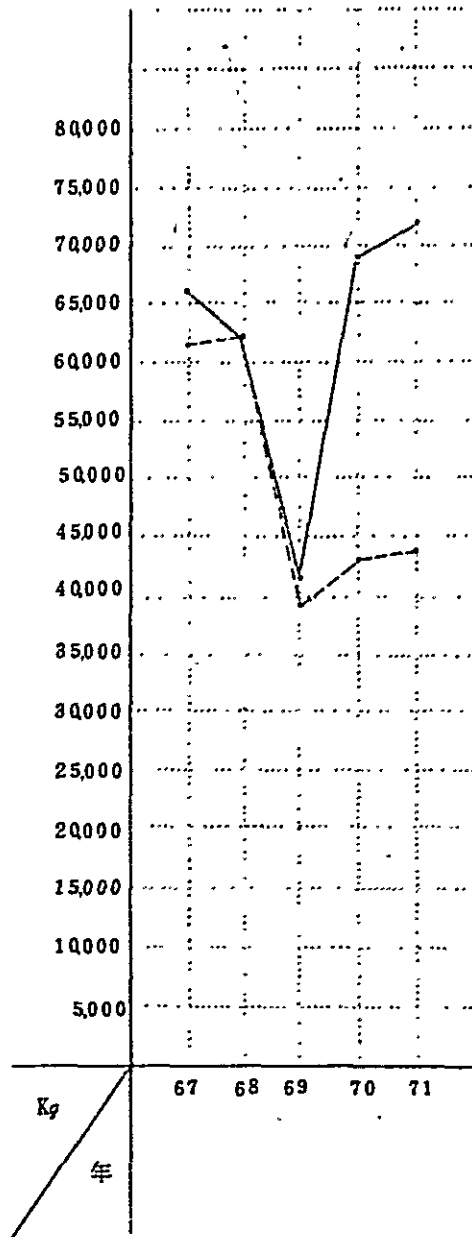
----- 輸出量

棉実油の生産と輸出

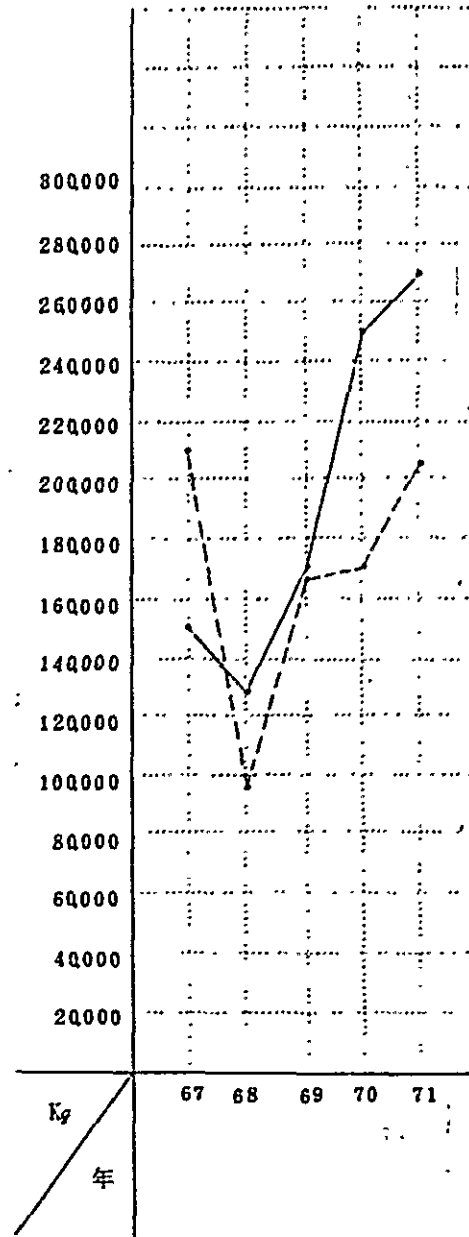
ひまわり油の生産と輸出



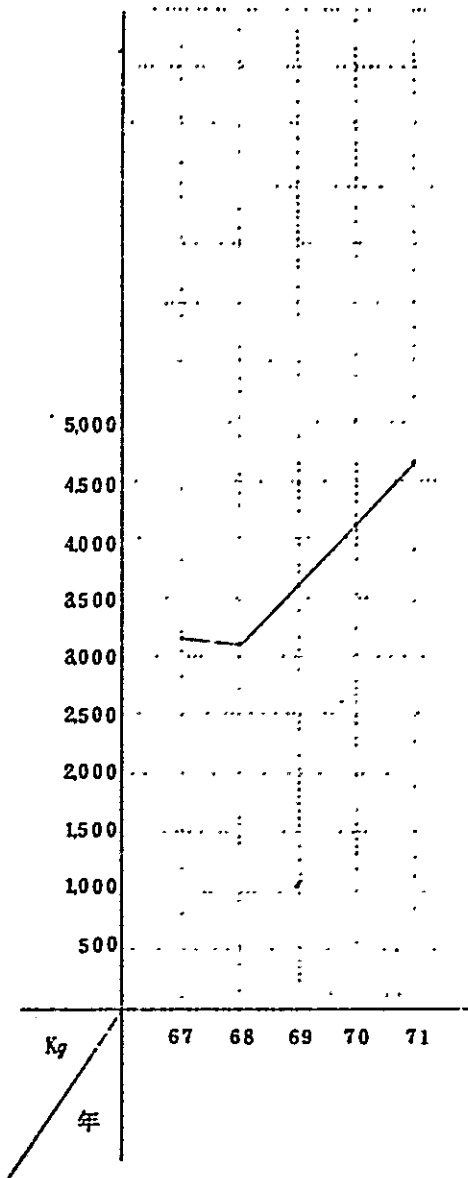
落花生油の生産と輸出



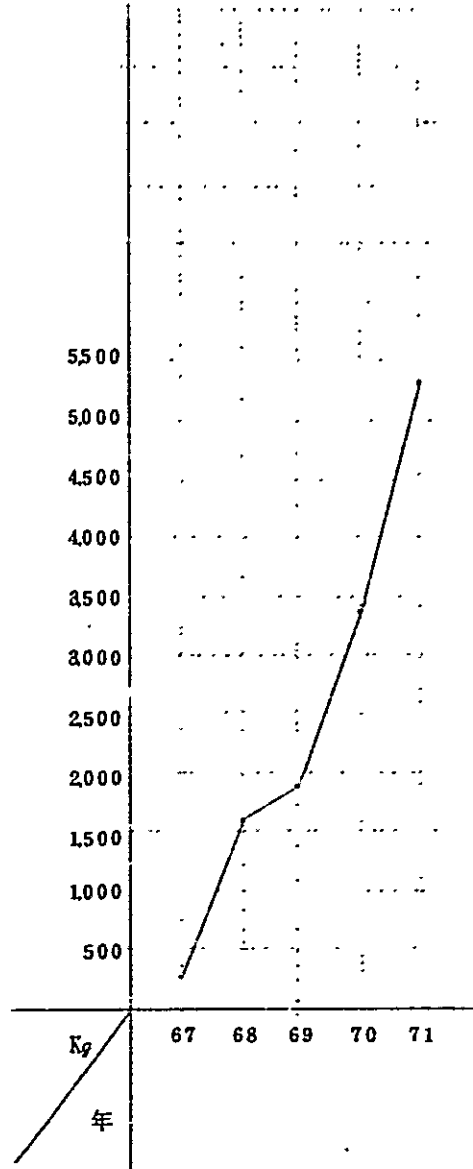
亜麻仁油の生産と輸出



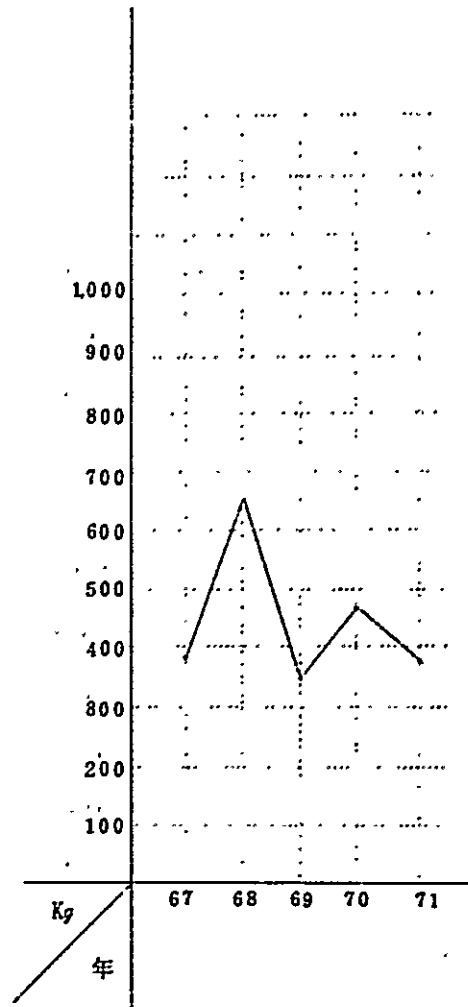
とりもろこし油生産と輸出



大豆油の生産と輸出



ひま油の生産と輸出

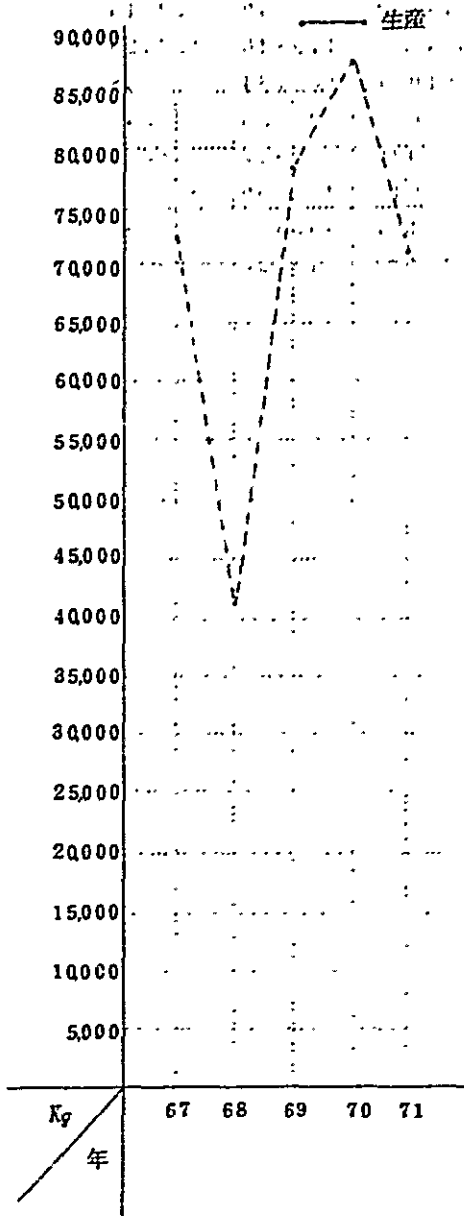


3. 油粕の生産と輸出

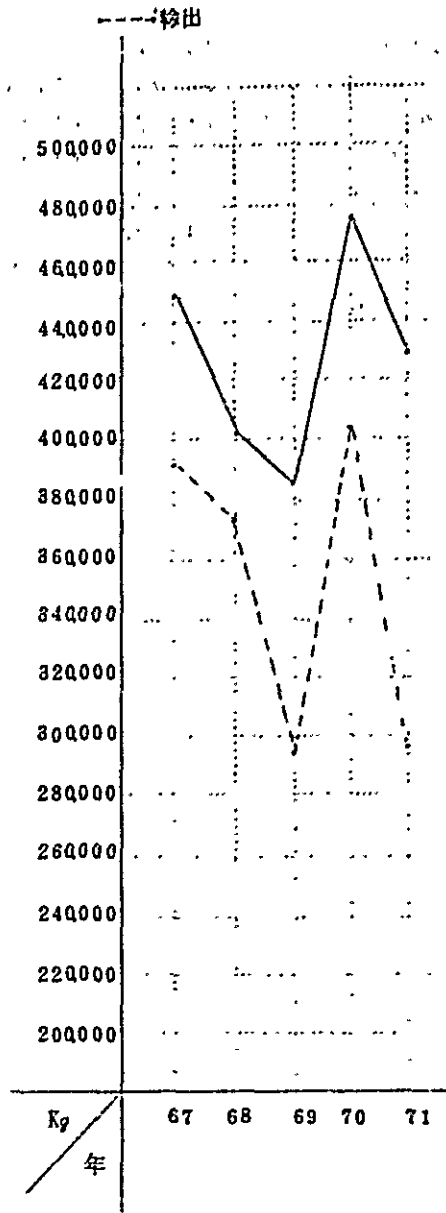
単位：ton

種別		年度				
		1967	1968	1969	1970	1971
棉実油粕	生産	(資料	なし)			
	輸出	72,964	41,534	78,802	88,852	72,245
ひまわり油粕	生産	450,911	403,115	384,244	479,840	426,426
	輸出	394,262	375,456	291,081	403,784	298,638
落花生油粕	生産	119,733	106,923	66,686	91,059	136,558
	輸出	112,952	102,997	46,026	64,622	88,396
亜麻仁油粕	生産	328,986	264,160	338,048	484,556	512,292
	輸出	344,768	273,983	271,487	365,300	394,997
大豆油粕	生産	—	9,197	10,427	15,523	24,713
	輸出	—	—	—	—	—

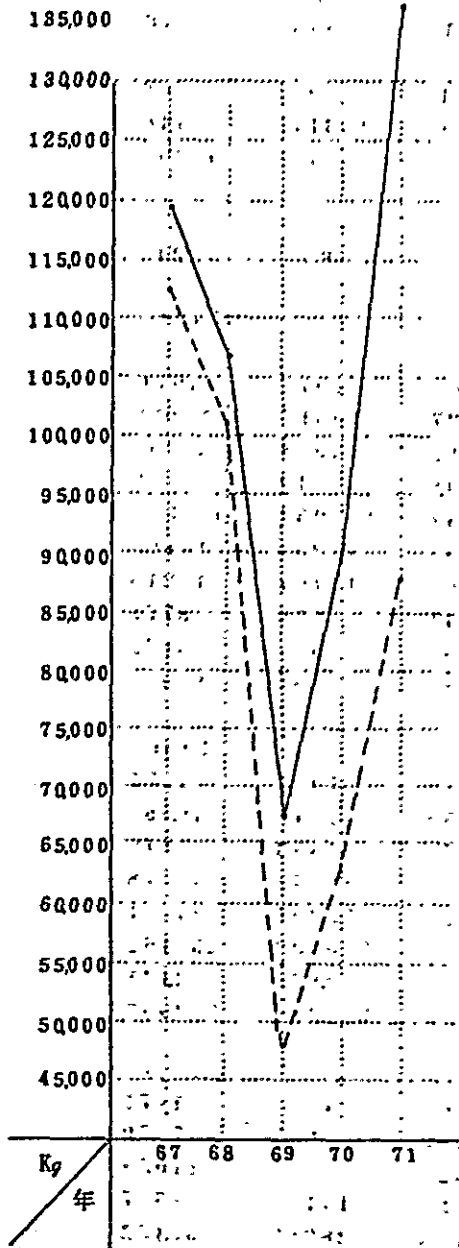
棉実油粕



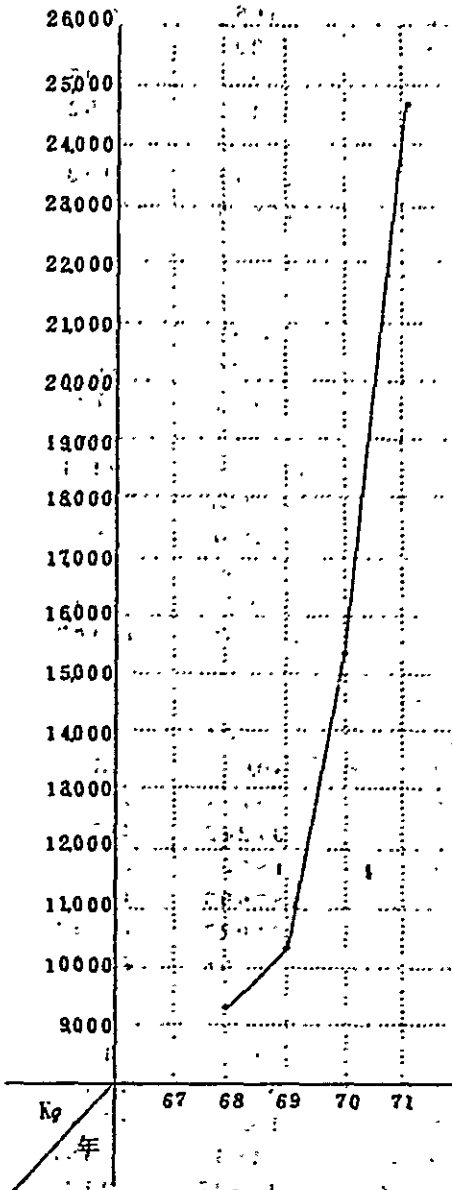
ひまわり油粕



落花生油粕



大豆油粕



油粕の国別輸出品

(棉実油粕)

単位: ton

国別	1967	1968	1969	1970	1971
西ドイツ	17,358	13,150	25,458	35,024	35,230
ベルギー	4,886	1,357	911	5,345	2,516
チェコスロバキア	5,661	—	—	—	—
デンマーク	6,296	—	2,214	998	1,008
フランス	1,030	1,395	250	13,317	15,448
オランダ	25,434	14,852	37,700	30,071	15,300
イギリス	—	3,301	11,550	—	—
ノルウェー	10,414	5,173	—	—	—
計	72,964	41,535	78,802	88,852	72,245

(ひまわり油粕)

単位: ton

国別	1967	1968	1969	1970	1971
西ドイツ	62,323	70,109	35,127	75,518	84,669
ベルギー	56,631	62,722	28,042	52,548	28,031
チェコスロバキア	—	1,017	2,698	549	22,632
オランダ	175,556	159,454	137,157	197,053	114,047
イギリス	81,400	70,257	55,258	43,234	141,04
フランス	2,487	1,689	1,503	11,767	16,218
スペイン	5,933	12,165	21,141	608	8,775
その他	9,932	1,769	10,155	22,507	10,162
計	394,262	379,182	291,081	403,784	298,638

(亞麻仁油粕)

単位: ton

国別	1967	1968	1969	1970	1971
西ドイツ	40,646	33,127	29,355	32,046	49,659
ベルギー	38,754	34,567	23,378	33,393	28,146
フランス	37,242	31,746	41,300	52,663	41,078
イタリア	18,506	13,740	28,016	30,391	37,811
オランダ	187,693	148,429	143,737	206,000	234,162
その他	21,927	12,374	5,705	10,807	41,41
計	344,768	273,983	271,487	365,300	394,997

(落花生油粕)

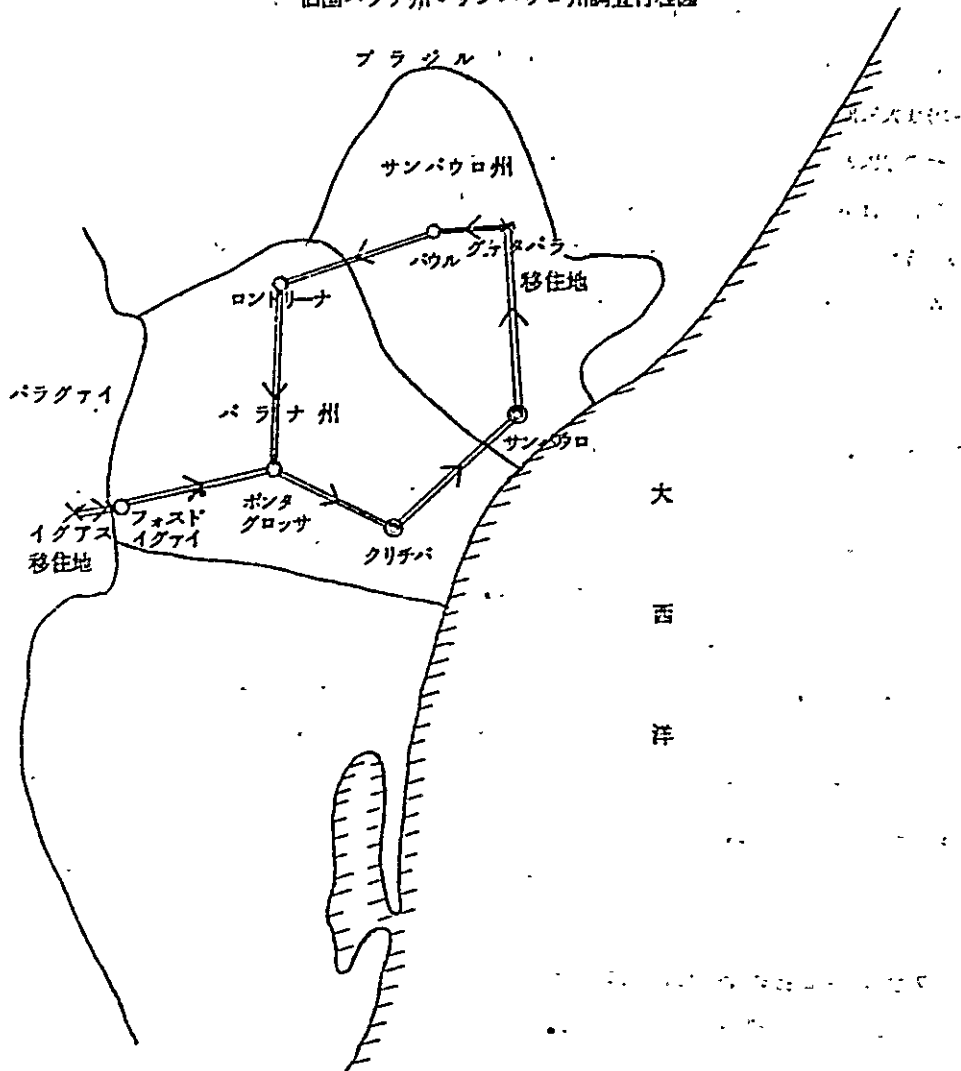
単位: ton

国別	1967	1968	1969	1970	1971
西ドイツ	50,905	42,533	15,990	6,646	7,070
ベルギー	16,059	10,917	5,022	5,566	11,629
フランス	1,999	497	1,000	14,166	9,837
オランダ	41,527	39,138	22,703	28,082	53,352
ノルウェー	950	5,496	497	6,441	5,500
その他	1,512	4,416	814	3,721	1,008
計	112,952	102,997	46,026	64,622	88,396

2 伯国における桐栽培の現状と将来性等について

調査者 パラグアイ農業総合試験場 イグアスー事業所
 調査地 クリチーバ, サンパウロ, グアタバラ, ロンドリーナ
 調査期間 昭和49年2月8日~10日
 調査目的 伯国における桐栽培の現状と比較し, パ国桐栽培の将来性について栽培販路, 経営収支等を調査
 調査内容

伯国パラナ州・サンパウロ州調査行程図



1 ブラジルにおける桐栽培の歴史

ブラジルにおける桐栽培の歴史は、1959年養蚕移民としてミナスに入植した浜口近三氏が自分の畑に試験的に桐を植えたことに始まる。その後、浜口氏は現在のモジダス・クルーゼスに転住し、そこでも桐を試験的に植えてみたが、順調に成長し、当時、野菜類の出荷箱不足に苦慮していた南伯産組が、この成長の早い桐に目を付け、アチバイアの同産組所有の試験場において、いち早く試験栽培に着手した。

1965年頃、日本の桐材販売会社がブラジルに来て、台湾桐の植栽を勧めにきたが、ある日系の苗木業者が加わってサンパウロ州内各地において、大々的に桐栽培の有利性を宣伝し、約100万本以上の苗木を売りまくり、おおいに栽培熱をあおった。ところが伐採時期(7~8年)がきた1972~73年頃にはその当時植えたはずの桐がほとんどなく結果的にみて桐栽培は大失敗に終わった。

その原因として主に栽培技術上の3つの問題点があげられる。

ひとつは気候風土の問題である。桐は元来、高温多湿な気候を好み、サンパウロ近郊は低温の限界でもあった。そして内陸へ向かうに従い温度が低くなるため、桐栽培の適地は州内各地に点在はするけれどブームに乗って大々的に植栽したところがすべて適地であるわけではなかった。

地下水位の問題もある。桐が生長し、3~4年生の樹に育った頃から立枯れ症状を示したものの多くは、地下水位による根腐れ病ともいわれている。

次に地下水位の問題と関連した土壌条件として、ネマトーダの問題がある。桐は植林といわれながら実際には畑で栽培する他の多くの作物と栽培技術面において、ほとんど変わりがない。ネマトーダによって多くの桐が枯死した。

3つ目の問題点として、管理技術上の問題がある。

施肥、芽掻き、消毒というように、桐は非常に手のかかるものである。桐がこれまでほとんど日本でだけ栽培されていたのもこれだけのキメ細い管理は日本人だけができたものであったことによることも知れない。特に台切り後の切り口からフザリウム菌が侵入して立枯れとなった被害は大きかった。

以上のような原因により1965年頃の桐栽培ブームは結果的に大失敗に終わったのである。

2 ブラジルにおける桐栽培の現状

ブラジルは今また桐ブームである。

日本の桐材不足を反映して、昨年（1973年）は、日本の商社、材木商、家具屋等がブラジルに押し寄せた。ところが7～8年前にパラマカれたはずの桐苗の成木は1で記した理由等によりほとんどなく、そのため桐原木の価格はかつてない程、高とりしている。

・ Cabreuva 社（ブラジル最大の桐苗業者、サンパウロ市在）の原木買付け価格

直径	m ³ 当り	US \$
10～14 cm		50
15～19 cm	'	70
20～24 cm	'	110
25～29 cm	'	150
30～34 cm	'	190
35～39 cm	'	240
40 cm以上	'	290

Francon システム, FOB Santos

注 Francon システムとは、桐原木取引上の測定方法のひとつで、桐樹全体の長さの半分のところの円周をはかり直径をだす。これに対し、たとえば日系資本の進出業者、新旭川kk（クリチバ在）の測定方法は桐樹を2m10cmの長さに分断して、もっとも細いところの円周をはかる。

但し、Cabreuva 社の話では、現在（1974年2月当時）の価格は前記の各々10ドル高とのことである。桐の分布は、桐が高湿多湿地を好むため、栽培可能地域は限られている。サンパウロ州では、リベイラ河流域並びに海岸地方、その中で土壌土地条件の適合した地域である。サンパウロ市あたりが限界で北に行っても気温は高いが湿度の点で合わず、また、高湿多湿であっても、ある時期乾燥する地帯では成長しないといった具合に適地は非常に限られている。現在、主な栽培地はロンドリーナ、パウル、マリンガ、グアイラの周辺を中心とした西パラナ州及びサンパウロ州の一部である。栽培本数は明らかでないが、業者等の苗木類の販売実績から調べた計算では、1000ha 約40万本位ということになる。ロンドリーナ周辺の日系農家の間では1戸20ha 前後の小規模な栽培が行なわれているようである。

3 パラグァイ桐の販売について

パラグァイ桐の販売については、パラナ州クリチバ在の日系進出企業「新旭川株式会社」がこれまでに約1000m³のパラグァイ桐を扱っている。初めて輸出したのが、1972年11月で35m³を試験的に輸出した。経路はアスンシオン～ブエノスアイレス～パラナグァ港

(パラナ州の輸出港)をアスシオンの木材業者アルタサ・エルマー)S. Aが陸送し(トラック1台当り322ドル),パラナグァ港より新旭川kkが海路大阪まで輸出している。

パラナグァ～大阪間のm²当り運賃は

船賃	48.85 US \$
バンカーサーチャージ	15%
カレンダーアジャストメント ファクター	8%
計	60.67 US \$/m ²

(74年2月)

今までの材質はあまり評判が良くなく、一般に南米の桐は年輪が広いので、家具の表面には使いにくく、芯地又は合板の中板としての用途に廻されている。たゞ、木材の中でも、桐樹については、現在のところ原木輸出が苛酷のうちに認められているので、半製品にする必要はなくこの点、パラグァイなどではおおいに助かるところである。しかしながら、これもいつ規制がかかるともわからず、恒久的なものとはならないであろう。

4 桐栽培の経営収支

桐栽培は一般畑作物と同様、管理費に相当の経費を喰うので、現在のように桐材の高価格のみを追って、栽培に着手するのは問題がある。毎年必要とする維持管理に息切れが生じては、幼木を抜採することにもなりかねず、従ってあらかじめ経営の収支計画を見通しておかなければならない。

桐の栽培はまず8月末～9月頃、2年位に成長した木より根をわける。鉛筆位の太さで10cm位に切って苗として植え、これを翌年の1月頃本畑にもっていく、苗の高さは大体30～40cmが適当である。植付け距離は、後の間伐出荷を考慮して3×3mとする。4月頃まで伸び順調にいてその年に1m位になる。8月頃に地際部より伐採(台切りという)する。桐はきわめて萌芽性が強いので、直ぐ芽がでるが、そのうちの1本、丈夫なものだけ残し、それを引き伸ばしてやる。翌年の4月位まで4m半位に伸ばさなければいけない。この間、芽掻きを行なう。よい木をつくるためには、この1年間4～5mに伸びる主幹が最も大切である。肥料は土地の肥沃度によって異なるが、1本当りN分を主体とした肥料を植付け時200g毎年500g宛て7年間行なう必要がある。又、芽掻きは毎週のように行なう必要がある。2年目以降、樹冠ができ、かつ幹が太っていく。早いところで5年で胸高(1m30cmの高さ)直径25～30cm位になる。平均8年で直径27cmが標準である。病害は炭疽病、フザリウム菌に

よるもの、ネットーダー等あり、銅剤を主とした消毒が必要である。

生産コスト(71年3月調査)		ha 当り	単位CR\$
直接経費	人夫賃	}	5,460
	肥料 農薬		
	台切り 芽掻き等		
間接経費	土地利子(地代2,000 CR\$として計算)	}	6,100
	機械償却等		
計			11,560 CR\$

これを立方メートル当りに換算すると直径2.2cm、高さ4.5m ha 当り830本であるから ha 当り110m³となる。

(当時レート) 1 CR\$ = @70. 4527.55 円

11,560 CR\$ ÷ 110 ÷ 100 CR\$/m³

ha = 814 千円

他に伐採・運賃等 m³当り 15 CR\$ 合計115 CR\$

71年3月当時、FOBサントスで25~50 US\$/m³位であったから、収入は125~250 CR\$/m³ということになる。ところが実際は、この通りにはゆき難く、その最大の理由は植えた苗木の半分位枯れてしまうことによる。従って、生産コストはm³当り計算上の約2倍とみて、200 CR\$前後。この程度の価格では、赤字経営にもなりかねなかったのが実情のようである。しかし、現在は、桐価格も前頁で示した通り、直径20~24cmもので110ドルしており、さらにこれより10ドル高で実際は取引きされているようである。従って生産コストは71年3月当時に比べ、肥料、人夫賃等において2~3倍にはなっていると推察されるが、現在販売するものについては、かなりの利益があがるものと推察される。

ところが、現在販売できるような桐は、ブラジルにはほとんどなく、裏を返せば品がないから高値を呼んでいるものと思われ、従って、この1年のうちに多量に植えられた桐樹がやがて市場に出廻る7~8年先については、価格はきわめて流動的といえる。

5 桐栽培の将来性について

日本では、現在桐材が極度に不足している。高橋桐材KKの話では、桐材の需要は年間約30万m³。一方供給の方は、年間約13万m³で約17万m³が不足しているとのことである。

このため、日本の桐材業者、家具製造業者が海外に出て、桐資源を確保するため、中国、東

南アジア、南米と扱し廻っているという。これに投機をねらう商社が介入して、桐価格はかつてない程高とりにしている。

ブラジルでは今から7~8年前にも業者がどっと押し寄せそれに便乗した苗木商がブラジルに多量の桐苗をバラまいて結果的に大失敗した苦い経験がある。即ち、桐は土地を選ぶということの他に肥培管理に細かな注意が必要といたことをないがしろにした、栽培をしらない、又、ブラジルの気候・風土を知らない商人にみどらされた農民側の苦い体験がある。

現在は、こういったやり方に反省?が加えられて、業者が直接現地生産に乗り出したり、あるいは栽培の専門家を派遣したりして、適性等を調査しながら、ある程度慎重にもみえるやり方で、地域によっては大巾な栽培の奨励を行なっている。業者からすれば、適地を選び、安定した供給を図ることがネライであるが、その事業に参加しようとする農民側にとっては次の点に不安があるものといえる。

即ち、桐材の需要がほぼ100%日本に限られているということ、それもそのうちの約6割が高級桐家具の原料としての需要であるといった点である。ブラジルでも勿論パラグアイでも桐材の内需は考えられない。たとえ考えられたとしてもコストの点からして引き合わないであろう。ブラジルやパラグアイではパナ松やアメリカ松、それにユーカリといった成長の早い木材が少なくない。必需品ではない、いわば高級品とされているものが、内需の見通しなしに100%日本市場のみに頼って行なう結果は卒直にいつて危険であろう。つまり日本経済の影響を100%受ける作目だからである。

桐と似た商品として、やはり100%日本市場を相手としたパラグアイの養蚕があげられるがパラグアイの養蚕も現状では乾繭といった一次産品であるため、日本市場に頼らざるを得ないが、ブラジルのように近い将来製糸工場の建設が実現すると、その製品は北米、ヨーロッパ等市場は唯一のものでなくなる。日本の生糸市場が悪化している時には、ヨーロッパ市場にでも輸出できるという強みを持っている。この点、養蚕は市場性において桐と類似するが市場の広範性においては危険度が少ない。

そこで考えられるのが、業者と農民による価格保障を前提とした契約栽培であるが、この点につき、日系企業を含めた2,3の業者に質問したが検討すべき問題ということで、それ以上の回答は得られなかった。

結局、桐栽培は資金的にエトリのある農家がそれを換金作物としてアテにしないので、投資はするが販売はあせらず、価格の良くない時は、じっと切らずに畑で肥らし、財産的な考えで、経営に取り入れることが無難であろう。無理な融資を受けて、何が何でも7~8年目には採採

・出荷しなければ経営もたないというのでは甚だ危険である。

かって、イタプア県下に大量に植えられた油桐がその現在の姿をみても桐栽培の将来を暗示しているよりである。加えて、南米産の桐材は年輪が広い等、品質的に劣り、家具、合板等の芯地としてしか用途がないということも小さくない問題と思料される。

以 上

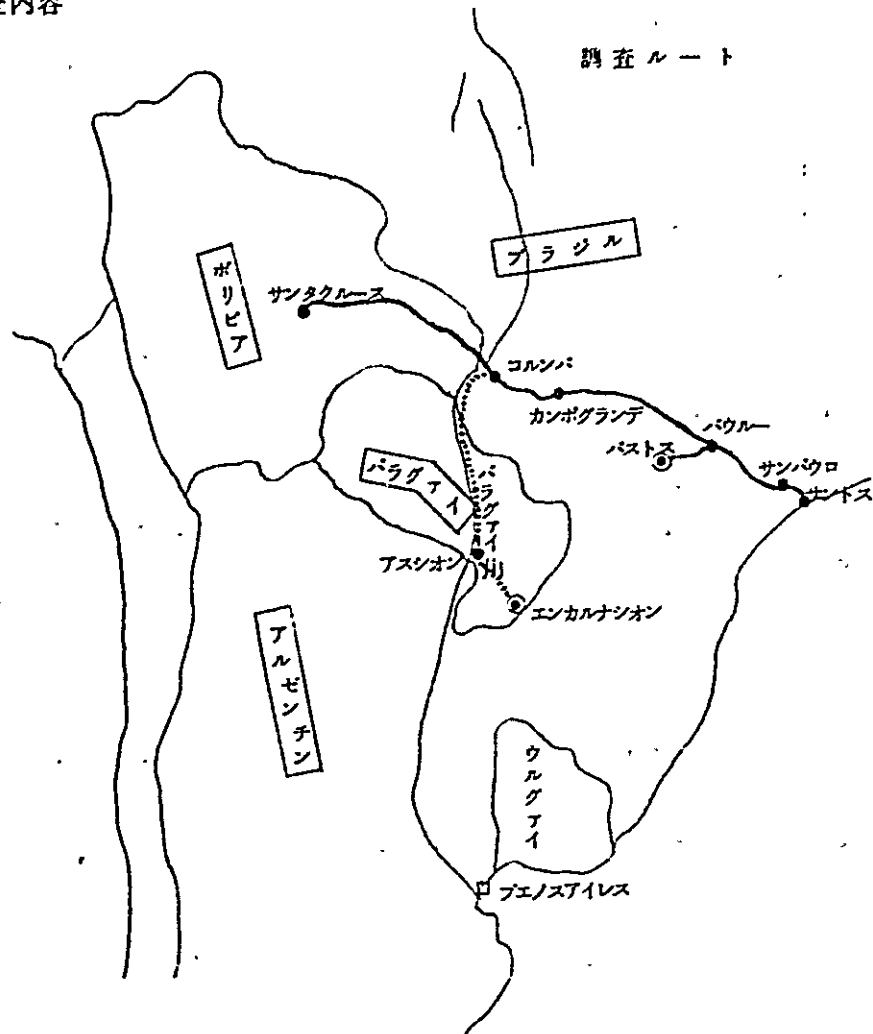
Handwritten text, possibly a signature or date, located in the upper right quadrant of the page.

サンタクルース支部編

1. 農産物（主として菌・乾菌）輸出可能性調査
2. 移住地生産物の隣接諸国への輸出経路調査
3. ポリビア国内養鶏事情，鶏卵肉市場調査

1 農産物（主として菌・乾菌）輸出可能性調査

- I 調査者 サンタクルース支部
- II 調査地 ブラジル国 コルドバ市及びサンパウロ市
- III 調査期間 昭和49年1月20日～29日
- IV 調査目的 ボルビア国サンタクルース市農産物（主として菌・乾菌）をコルドバ市経由でパラグアイ国、及びブラジル国へ輸出する場合の可能性について
- V 調査内容



(2) サンタクルス～コルドバ間の輸送状況

イ 輸送手段 汽車(貨車)

ロ 輸送業者 LAB ENFE

ハ 貨車数 全体で231車輛(機関車 ディゼルの10輛の中5輛は日本製)

棉の搬出時期等にはブラジルより増車を要請する。

月当り200～300貨車を配車するが、このうち75%程度が租税付貨車である。ボリビアの貨車は国境(フェルトスワーレス)迄で、ブラジル迄の直行便はブラジルの貨車を利用している。

ニ 定期貨物列車

(イ) 毎週2回の定期便がある。

火曜日 サンタクルス着7時20分 サンタクルス発 水曜日18時00分

土曜日 7時20分 18時00分

(ロ) 1週間の運搬量は約800トン(従って1回当り400トン)

(ハ) 1回に約30貨車(ワゴン)を索引する

(ニ) 一貨車当りの積載能力は30～40トン

ホ 輸送費

輸送費は6トンが基準で、それ以上の場合は割安となる。経費は次表のとおりである。

(1トン当り、単位)

(単位; \$b)

品名	6トンから 9.9トンまで	10トンから 14.9トンまで	15トンから 19.9トンまで	20トンから 24.9トンまで	25トン以上
大豆	330.50	277.50	277.50	277.50	277.50
大豆	306.50	257.50	257.50	257.50	257.50
棉実	—	227.—	206.—	186.50	186.50

ヘ 輸送保険料

輸送する場合保険の取扱規程はあるが、これは30年以上も改正されておらず、保険料、賠償料も現在では、それが経済的意味をなさないので全く適用されていない。従って荷物の発送人が保険会社に対して危険負担の保険契約をすることが常例となっている。

ト 事故発生の場合の補償

上記保険の場合と同様に事故発生に対する補償はないので、もし、保険にも加入していなければ損害賠償を受けることは不可能である。

チ サンタクルス～コロンバ間の距離と所要時間

距離651km 所要時間 21時間30分

リ ボリビア鉄道の問題点

綿の移出あるいは、日本はじめ諸外国からの輸入品の輸送に多大の日数を要しているのが常例であるがこれは

- (1) 鉄道の敷設場所が悪く、鉄道そのものも非常に程度の低いもので、少々の雨でも運行困難となる場合が多いこと。
- (2) 機関車も老朽化したものが多く、故障しがちであり、貨車の連結も悪く、時々連結がはずれ、途中で立ち往生する場合があること。
- (3) 機関車、貨車の絶対所有量が少ないためある程度荷物と、貨車がたまる迄運行されないこと等がその原因となっている。

従って、機関車、貨車の更新と大幅増車ならびに新規に複線鉄道を敷設しないかぎり、輸送期間短縮の問題は基本的には解決されないものと思料する。

- (3) コロンバ市からパラグアイ川を下流してパラグアイ国へ農産物を輸出する場合の可能性について、

コロンバ市の中心に近いところをパラグアイ川が流れているが、この川は川幅も比較的広く(約200m)川底も深いので、500トン程度の船舶の航行は可能である。

船会社は大小合わせて約20社を数えるが、そのうち大規模(従業員約50名)なものは唯一つで残りは全部個人経営の小規模経営(1トン～3トン程度の小型船を所有し、極く近距離間の荷物輸送を取扱っているにすぎない。)である。

船舶会社で調査したところによれば、現在、農産物の輸送は全々取扱っておらず、近隣地で採掘されるマンガン鉱石を輸送しているのみである。所有船舶をみても、屋敷付船舶は皆無でマンガン鉱石は約10トン積載能力のチャーター船で輸送しているのが現状である。

加えて、農産物等を保管する倉庫は全くなく、高温(最高45～46℃)多湿の当地において、これが長期保存と、保管も極めて困難な状況にあることからして、パラグアイ川を利用(下流)しての輸出は、現段階では、望み得ないのが事実である。

- (4) コロンバ市からバウル経由バストス(ブラ拓)へ商もしくは茶葉を輸出する場合の可能性について

イ 距離 (コロンバ～バウル間)鉄道 1,228km
(バウル～バストス間)陸路 約250km

ロ 運賃 コロンバ〜パウル間 1トン当 Cr \$92.43

パウル〜バストス(トラック便) 1トン当り

ハ 定期貨車 (コロンバ〜パウル間)

1日に1回の定期貨車がある(索引41欄)同じ目的地迄のものであれば、48時間(2日間)を要するのみであるが、通常の場合数カ所の駅に立寄り積換え、貨車の連結、引離し等を行なうので、10〜12日の日数を要する。

ニ 通 関

コロンバでの通関には2〜3日の日数を要するが、ボリビアからの荷物については、当地で解体検査を行なわず目的地で行なうのが通例である。なお、税関が閉鎖されていたため、通関量は不明。

ホ 税 金 (輸出入税)

ブラジルへの農産物を輸出する場合、ブラジル国は、輸入税70%、流通税17%、工業税13%を課せられ、これ等を全部支払うと結果的に生産者の手取金は、殆んど皆無に等しいものとなる。但し、幸いにもブラジルには次の如き貿易奨励策があり、この適用を受けることこれらの税金が免除されることとなる。

Draw Back (払い戻し)

1971, 7, 12公布の法令(Decreto N068904)第18条21条「輸出国製品の原料及びそれに必要な機械部品等を輸入する場合はDraw Back 即ち輸入税その他の税金の払い戻しを行なう。」

(5) ブラ拓の乾藪受入の可能性

現在まで、ブラジルで生産される藪の約60%をブラ拓が買付け独占的であったが、この1〜2年前から日本の鐘紡、東棉、那是等が大資本を持って次々と企業進出し、買手市場であった藪も現在では売手市場に交転しつつある。

特にブラ拓は、それまで所有していた市場を荒されるとあって、他の進出企業と激しい市場確保の競争をしているため、現段階でのボリビアへの乾藪工場進出を考慮する余裕は全々ない有様である、しかし乍ら、ある程度、まとまった量の乾藪は受入れることも吝かでない模様である。

いずれにしても、サンファンおよびその周辺地区で養蚕を本格的に導入するとすれば、生藪の保存限度は5〜6日であり、移住地内に乾藪工場の設置は上記の状況からしても必要不可欠である。

乾繭のブラジルへの輸出は、比較的确实な鉄道を利用して移出出来ることを考慮すれば、可能性が大きいと見えるであろう。

なお、ブラジルにおける現在の生繭の市場価格は1Kg当り Cr \$ 20-である。

参考資料

1 伯国における製糸会社別の所在地および推定能力

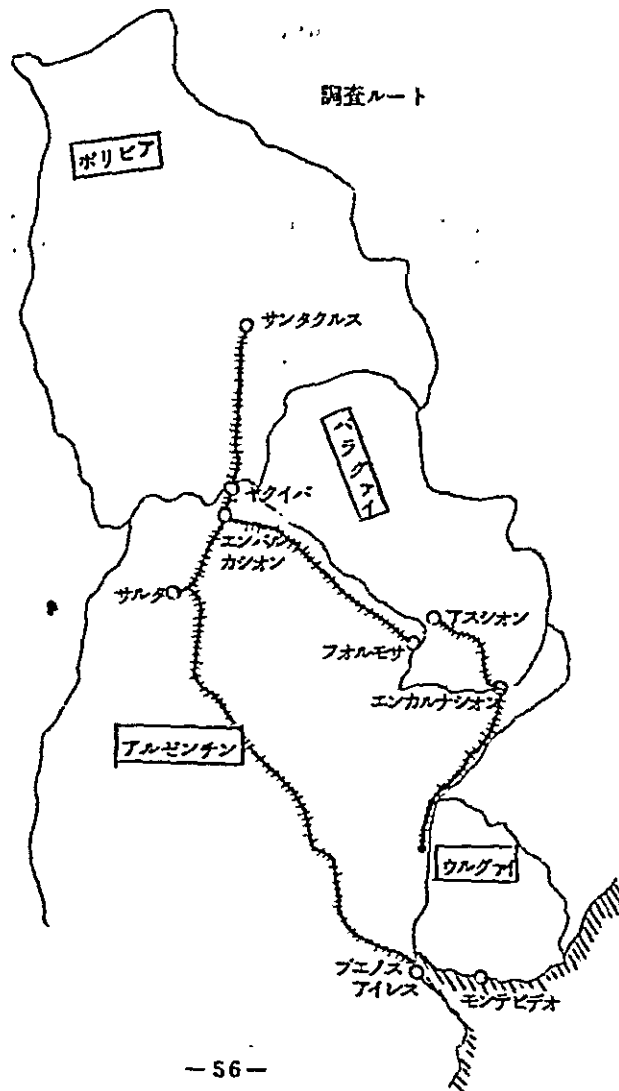
会社名	所在地	月産生糸 処理能力	年間商買 付能力	製糸機種のタイプ	従業員	備考
Fiação do seda Bratac S. A	Baaston	25トン	2250トン	Oriental Automatica	男172名 女534	製糸
Industria de seda Rivaben S. A	Galia	50 "	450 "	European Manual	男 15 女 58	"
その他(約10社)		135 "	1,215 "			
合計		435 "	3,915 "			

2. 会社別生糸輸出実績

会社名	1970年	1971年	1972年(1~10月)
Bratac	135トン	150.3トン	132.7トン
Rivaken	18 "	27.9 "	32.7 "
Sobeda	12 "	25.5 "	15.3 "
その他	18 "	20.3 "	30.2 "
合計	183.0トン	224 "	210.9 "

2. 移住地生産物の隣接諸国への輸出経路調査

- I 調査者 オキナワ事業所，サンタクルース支部
- II 調査地 パラグアイ国
- III 調査期間 昭和48年10月21日～11月1日
- IV 調査目的 ポリビア国の移住地生産物を隣接諸国へ輸出する際の輸送機関，ルート，経費等を調査し，今後の営農指導に資する。
- V 調査事項



7 調査事項

輸送関係

1 ポリビア国内

(1) 鉄道便

ア、運貨 Santa Cruz - Yacuiba (距離 539km)

品目	単位	貨車重量 6~9.9 ton	10~149 ton	15~199	20~249	25 ton 以上
綿 夾	ton当り	-	190. ⁵⁰	173.-	156. ⁵⁰	156. ⁵⁰
大豆	"	257. ¹⁵	216.-	216.-	216.-	216.-

イ、回数

定期便 2回 (特別便を除く)

ウ、所用日数 2日

エ、貨車

有蓋車, 無蓋車, 6~15 ton (自重12~14 ton) 積アルゼンチン向けの国際線は全てアルゼンチン Salta 駅により配車契約でコントロールされるが主として, 15 ton 積, 有蓋車が多く利用されている。

オ、保険, 積換, 他

保険は運送契約又は購入契約時に掛けるが運送途中の安全については有蓋車の場合危険性はない。特に品目が大豆, 綿であるので盗難等は少ない。

Yacuiba - Posito の国境は国際通過契約 (トランシット) の場合, 積換の必要はない。

カ、通関業者

Yacuiba - Aduana Lnteroacional

Posito - Aduana Frente SR Guantay

(2) トラック便

アルゼンチン国境行き

ア、運貨 (S. Cruz - Camiri - Yacuiba)
道路距離 約650km

品 目	1車当り	金 額	備 考
綿 夾	10屯積	\$b 5,000.-	よって 1ton当り \$b 500.-
ピーマン	、	6,500.-	、 650.-

(S. Cruz - Camiri - Farija - Bermejo)

道路距離 約 1,358 km

ピーマン運賃 10屯積で \$b 8,500.-

綿夾運賃の場合数量が多く Yacuiba 行は綿の荷の関係もあり運賃は安くなるが Bermejo 側国境は復路の荷がなく運賃は割高となる。

イ、回数、所要日数

Yacuiba 行は乾期道路状況の良好な時に週 2回～1回半

但し道路状況は部分的な砂利舗装で橋梁暗渠等の構造物は完備されてなく、降雨や河川の水位により交通は制限される。

現在 S. Cruz - Camiri 間は 1日1回の定期バスがあり Camiri - Villamonte - Yacuiba も数回の便があり、特に Villamonte - Yacuiba 間は砂利道で天候による制限は少い。

Bermejo 方面は週 1回～1.5回であるが、S. Cruz - Itorora - Sucre 経由は一応全天候道路で雨期でも通行は出来るが距離的に 2倍となる。

ウ、輸送業者

Federacione de Transportista (個人業者)

エ、その他

天候により重量車も制限されるが現在の実績は 10 ton 車が多い。

又、州境を含み荷物の検閲は 4回チェックを受けなければならない。

2. ポリビア - パラグアイ間の陸路即ちトランスチャコルート

(i) S. Cruz より Paraguay の Ruta 9 のトランスチャコに入るコースとしては、

ア、Charagua - Rio Parapeti 経由約 600 km

イ、Boyaiibe 経由 650 km

ウ、Villa monte 経由 750 km

とあるが、各路線とも盛土や安全なコースはなく全て天候に左右される道路で大量の計画的輸出入は困難である。

(現在は密輸ルートとして一部利用されている程度)

(2) パラグアイ Ruta 9について

ア、パラグアイ川を境に周囲の60%を占める人口が居り、わずか5%にしかなかったチココ地方は資源も未知で開発は遅れている。

主都、アスンシオンの対岸Villa Hayesを起点にボリビア国境General Garay (Jrendo giu)に至る750kmのRuta 9は1955年~1964年一応巾尺10mの盛土道が完成されたが1968年11月開発5ヶ年計画によりAsuncionよりRuta 9に至る連絡道路並びにパラグアイ川の橋梁とRuta 9のFiladelfia (427km)に至る道路舗装計画がBIDの援助により着工されその第1区分が1969年より開始され現在、第2期工と橋梁工が入札、発注の段階に入っている。

M. O. P. C (土省)によるその工事費を参考のため記すと、

Transhaco	3 3 0 0 0, 0 0 0.-
Puent sobre Rio Paraguay	6, 3 0 0, 0 0 0.-
Ruta de acuceso	1, 4 9 0, 0 0 0.-
計	4 0, 7 9 0, 0 0 0.-

となっている。

Filadelfiaよりノロエステについては5ヶ年計画中にはPan American道路として重要であるとされているが計画はなく、現状でも多分に天候に左右され路面状況は悪く、前輪駆動車しか通行できない事が多くある現状である。

又、将来の計画としては、現在パラグアイは原油をアルゼンチンから主として購入しているがREPSA (パラグアイ精練) がボリビア原油のオファーに注目しており、同国間にパラグアイ等の開設が実現すれば、工事に関連して、Filadelfiaよりボリビア側の道路も含め開発される希望の見方もある。しかし両国間道路の現状からはこのコースの計画的、長期的な利用計画は安全性も含め困難であると思われる。

イ、運賃

ボリビア側	(S. Cruz - Boyuibe 経由)
一般品目	15 ton車 約 \$b 4,500.-
パラグアイ側	(Asuncion - Filadelfia)
	(Filadelfia - G. Garay)

ウ、所用日数

道路条件の良好時 5日~6日

エ、安全性
不明

3. アルゼンチン国

(1) 鉄道便

ア、ボリビア国との国際列車は全てConvenio Internacionalにより指定配車される。

Santa Cruz方面はSalta駅主管であるが、Embarcacion駅が、直接コントロールしている。同駅の現在の所有貨車数は約210台で、その内150台が有蓋車で無蓋車が60台である(6~15吨種)取扱貨車数は月間約500台となっている。

イ、回数

Salta (Embarcacion) - Posito

週3~5回、特別便を除く。

1列車当り貨車数 20~35貨車連結する。

ウ、貨車、運賃

posito - Resistencia (距離 1,190km)

綿、棉夾拍

5 ton積貨車	ton 当り	pa\$ 300. ⁹²	=	\$b 614. ²⁰
10 / / /	/ / /	191. ²⁵	=	390. ⁴⁰
15 / / /	/ / /	165. ⁹⁵	=	338. ⁶⁰

(\$ / pa\$ 9.⁸⁰ / \$b 20.-)

(2) ルートについて

ア、posito - Embarcacion - Formosa (距離 852km)

a. 貨車便の回数はPosito - Embarcacionは週に3~5回あるが、Embarcacion - Formosaは週1回と少ない。

ボリビアとの国際列車利用による特別定期便を大量に増加する事は容易でなく、Paraguayに送る場合、Formosaから陸路トラック便にてAsuncion又はPuerto Formosaより河川利用は港の荷積むろし、積設が少く大量物の運搬には未知数である。

b. 連結関係及び距離

Formosa駅よりParaguayへの連絡

(積換回数はFormosa駅回数も含む、距離はPosifoよりの計算) いづれも、
Formosa経由の計算

oトラック便

Pilcomayo - Transito Asuncion - Encarnacion

計、1,362km

道路状況は良く交通量多い。トランシット通過の場合積換一回

o船便

Puerto - Asuncion - Encarnacion

計 1,422km 荷積換 3回

oトラック便

Resistencia - Corriente - Posadas - Encarnacion

計 1,401km

道路、港、状況は良いが、トラック運賃が割高

o船便

Confluencia (合流) - Encarnacion

計 1,422km

Formosa港の荷積2回が問題であるが運賃は割安

oトラック及び船便

Resistencia (トラック) - Encarnacion (船便)

計 1,670km 荷積換 3回

c. その他

アルゼンチン国北部一帯に運送網をもつFRIDMAN Embarcacion支店

(主に農産物取扱)では、棉実等の量的に多く国際的なものは具体的条件がなければ
容易に積値することは困難との事であった。

但し、Formosa - Buenos Aires間はトラックによる棉関係運搬業者は多
いとの事である。

イ. Posito - Embarcacion (又はSalta) - Joaquin Gemes -
Resistencia - Corriente - Posadas方面よりEncarnacion
へのコース

a. 連絡及び距離等

Resistenciaまで鉄道、これより河川にてEncar

鉄道1,190km+河川370km 計 1,560km

荷積換2回、港湾施設等よりFormosaより大量の荷が取扱できる。

港湾施設は視察していないがEmbarcacion駅の説明では最もよいコースと思われる。

b, ResistenciaよりトラックでPosadasへ船でEncarnacion

鉄道1,190km+陸路329km+河3km 計1,522km

積換2回(ラプラタ川フェリーボート通過の場合)

但し、トラック便、Posadas港施設について不明

c,他に鉄道運賃積換回数よりみてPositoより大きく迂回してPosadas迄全路線
鉄道を利用し、Posadas - Encarnacionを船で渡るコースもあるが今回、
調査できなかった。

その他 アルゼンチン内の運賃の比としては船便1に対し鉄道1.6、トラック便2.4と
なっている。

今回の本コース等の調査については出発当初、ヤクイバに於けるハイジャック事件より
汽車、車の便が遅れ日程がつまり、又Formosaよりも車と船の乗つき便の関係
でFormosaは通過だけにとどまり、Formosa - Parraguay Pilar に
渡り陸路Encarnacionとなり、

Formosa-Resistencia-Corrientes-Posadas-Encarnacionの
コースがとれなく詳細について調査できず陸路、アスンシオンに向った。

4. パラグアイ

同国の大豆、米の生産は添付表の通り、国内需要をはるかに満たしており、輸入の実績はな
く、国内にて加工し輸出されている。

大豆は一応そのまま原料としては輸出禁止されているが一定数量の申請により許可される場
合もある。

(1) 河川関係

ア、距離

合流点より (Paraguay Confluencia)	-Asuncion	390km
"	-Encarnacion	360km
"	-Baenos Aires	1,240km
"	-Puerto Bermejo	82km

イ、回数

Asuncion関係河船貨物サービスは週2-4回

Encarnacion 定期 1回

但し特別契約する場合はこれ以上増船されている。

ウ、積載量

o Asuncion関係 500~1,000ton

但し Rio Paraguayでの最大の問題点はAsuncionより166kmの

Paso de Paraisoが洪水時期に水深最底6pie(約1.8m)に下る事である。

o Encarnacion関係 300~500ton

但しRio Paranaは伯国関係で同積載量以上(max 2000 ton)が通過している。

エ、運賃、その主なもの

Asuncion - Buenos Aires 又は Monte Video

Acetate granal	ton当り	Gs	\$
		1,300.-	10. ³²
Algodon 1300/1400	"	1,150.-	9. ¹³
" 1400/1800	"	1,350.-	10. ⁷²
" 1800/2,750	"	1,400.-	11. ¹¹
" 2,751以上	"	1,650.-	13. ¹⁰
Soja con bolsa	"	840.-	6. ⁶⁷
Arroz Ca'scara	"	740.-	5. ⁸⁷
Came Congalado Con hueso	"	7,500.-	59. ⁵²

オ、パラグアイ国の河川利用の主な輸入例

(単位:トン)

	1970年	71年	72年	73年(予定)
Carga Generales	103,378.-	113,715.-	126,086.-	137,595.-
Combustibre	62,500.-	64,800.-	64,800.-	64,800.-

カ、港内使用料

棉関係ton当り 135 Gs 及び価格の25~100%

(2) 陸路関係

ア、鉄道

o 国内の鉄道網は少くAsuncion-Encarnacion間のみが関係あるものとしその

路線の貨車便は月間max 6,000 ton, 週6便可能であるといわれている。

○運賃 (Asuncion - Encarnacion 370km)

採 綿 ton当り 1,543 Gs - \$ 12.246

実 綿 " 1,000 " - \$ 7.936

イ 道路トラック便

○距離と運賃

ASUNCIONより	距離(km)	Gs/ton
Encarnacion	370.-	1,200
P. P. strosney	327.-	1,200
Plar	382.-	1,800
Concepcion	580.-	2,500
P. J. Caballero	582.-	2,500
Filadelfia	458.-	1,400

国際線

Asuncionより

São Paulo (Brasil) 1,442.- 4,000.-

B Aires (Argentina) 1,320.- 3,400.-

(3) 通関関係

運賃外の必要経費

- | | | |
|----------|----------|----------|
| ○L/C開設 | ○船積証券作成料 | ○輸入税 |
| ○植動防疫検査料 | ○港荷使用料 | ○売買契約印紙税 |
| ○通関荷物取扱費 | ○積換費 | ○通関手続費用 |
| ○諸証明印紙代 | ○公租公課 | |

等が必要である。しかし輸出の実績はあるが、輸入については極めて少なく、建値については各商社、通関代理業者等に日程の都合で直接調査できず、見積建値表を取得するまでにはいたらなかったが、これはアスンシオン支部が計画している。アルゼンチンのパラグアイ国周辺 (Posadas - Resistencia - Formosa) 地方を含む一帯の油料関係作物の市場調査の結果を待つ事とした。

◎運賃のみ主要ルート別対比 (Us\$ / ton) 綿 (鉄道は15吨積)

- (1) Santa Cruz - Boyuibe - G. Garay - Asuncion - Encarnacion (全トラック便) = \$ 77.67

- (2) Santa Cruz - Boyuibe - G. Garay - Asuncion - Encarnacion (鉄道及びトラック) ⇒ \$ 62.¹⁴
- (3) Santa Cruz - Yacuiba Posito-Formosa - Asuncion - Encarnacion (鉄道及びトラック) ⇒ \$ 35.⁴⁶
- (4) Santa Cruz - Yacuiba - Posito - Formosa - cafduencia - Encarnacion (鉄道, 及び船) ⇒ \$ 25.²²
- (5) Santa Cruz - Yacuiba - Posito - Resistencia - Encarnacion (鉄道及び船) ⇒ \$ 29.⁸⁵
- (6) Santa Cruz - Yacuiba - Posito - Resistencia-Posadas - Encarnacion (鉄道, トラック, 船) ⇒ \$ 38.⁹⁹

(4) 市場関係

1) 市場価格

o大豆 搾油用(バラグアイ) \$ 0.21/kg ~ \$ 0.27/kg
 (ボリビア) \$ 0.20/kg ~ \$ 0.23/kg

o大豆油(バラグアイ)

国内向 \$ 0.34/ℓ

輸出向 \$ 0.37/ℓ

(ボリビア)

国内

\$ 0.28/ℓ

(\$ b 6.86/kg/1.2ℓ)

ボリビア大豆の購入についてはCAISISAは外国より輸入した実績はないが、具体的に数量等不明であるが、現バラグアイの相場では購入可能である。

o綿実 \$ 19/ton (綿実毛を除去したもの)

バラグアイ国は現在14の繊維工場があるがその内9工場が搾油事業を併設しており他に4工場も紡績、繊維物事業を付帯している。

全ての綿実は種毛皮を除去されており、国外輸出は少くその殆んどが国内で処理されている。ボリビアのLinta Machin を通してない現在の綿実は格安となるし、工場により除去したものでないと購入しない。

5. 各加工工場増設等の視察と問題事項調査分について

(1) CAISISA

搾油能力については、連続ソルベント抽出法 (Uormal ヘキ酸 C_6) によるもので、大豆の全含有量に近い平均18.2%の油を抽出しているが、サンファン農協組合のプレス式抽出の歩留実績6%に比べ比較はできない。しかし同プレス式の旧式搾油装置では、Paraguayの地方のドイツ系工場でも同率程度でSan Juan組合の同装置での機械で抽出率をあげる事は容易でないとの事であった。

ボイラ中に CO_2 か、 H_2CO_3 が凝固し、サンファンでは米国製のSEM PANDを使用しているが効果がよくないのでベターな除去方法、又は処理はないかについて

- (ア) 脱酸機械装置にて蒸気にし追い出すのであるが水の質による場合もある。
- (イ) 水中に溶解酸素があると鉄分がおかされるので水の酸素を除去してボイラーに入れる。
- (ウ) イオン交換樹脂を使用する方法もある。

(ウ)の脱酸機械装置 (Water Softener) の製造会社は、

o HINKO PFAURLER COMPANY 2 J. D. KOBE

能力 $16m^3/h$ 約 \$12000.-

o PRESSED PERMOINT FILTER PERMULET TYPO

$25m^3/h$ Water Softener \$18000.-

腐敗大豆はどのように、どの程度まで利用しているか、又は中和剤等について

- o 貯蔵する大豆は水分11%以下に乾燥する。
- o 大豆が50%以下チョコレート色に腐敗変色した場合、Nexisano (沸点 68° Essoが製造) を使用する。
- o しかし腐敗変色したものと普通乾燥大豆を50%以上に混入して搾油しても品質が落ち、輸出用サラダ油等には不適である。
- o 大豆が立木のまゝ降雨等にて腐敗したものは想像もつかないし、その程度にもよるが搾油には困難と思われる。

大豆粕の長期保存法又はその殺菌処理について

- o 貯蔵サイロは周辺を殺虫剤 (セゼン、マラチン等) を使用して防ぎ、大豆粕は水分11%以下に貯蔵している。サンファンの場合は油の残量も多く湿度も高いのではないか。

大豆油、精製油よりのマーガリン、バター、又はサラダ油等の製造については、

CAISISAでも実施されていないが

- o マーガリン精製については油を凝固する設備が必要であるが価格不明 (日本

製あり)

○マヨネーズ精製工場はサラダ油(8割)に他は卵、香料等の添加であるが、日本、伯国、アルゼンチン製で約us\$ 8,000.-相当

○サラダ油については、

無圧力蒸気による	脱ガム工程
苛性ソーダによる	脱酸
苛性白土による	水洗
ブルカリ性を除く	脱色
蒸気240°による	脱臭

の附属装置が必要であり、金額は約us\$ 250,000.-相当(日本製あり)

(2) ISEPSA

ア、乾雨工場の採算性は年間250~300ton以上のまゆが必要であり桑園面積にして600haなければならない。

イ、年間の滞立はアルトパラナ移住地で8回~10回可能であったが、桑園の状況によるが、6~7日をみた方が安全である。

ウ、エンカルナシオンに製糸工場が1975年に建設計画があるが、最少限500tonの乾繭を生産しなければ採算性は無い。

現状と計画は、

1972年度実績	230 ton
73年計画	350 tonで
75年までに、	500 ton生産を目標としている

エ、ボリビア生繭の購入については、

輸送運搬に問題があり、現況では購入希望はない。むしろブラジルに販売するのがベターではないかとの話であった。

6. アルゼンチン、エンバルカシオン近郊及び市内果物製缶工場、ピーマン、製粉工場等の視察所感

Embarcacionの果物製缶工場については現在、原料不足で操業停止しており、ボリビアが本年モンテロ近郊に現在建設中の果物カンヅメ工場が完成操業指導されれば原料充込先としては現状の操業停止よりしても希望がもたれない。

ピーマン製粉工場

香辛料の増原料用添加材料として使用されるものでピーマンは年間栽培収獲が可能とも

ので興味もたれるがアルゼンチンのピーマン輸入禁止と現地乾燥の問題がある。

(現在、種子はサンファンにて試作中である)

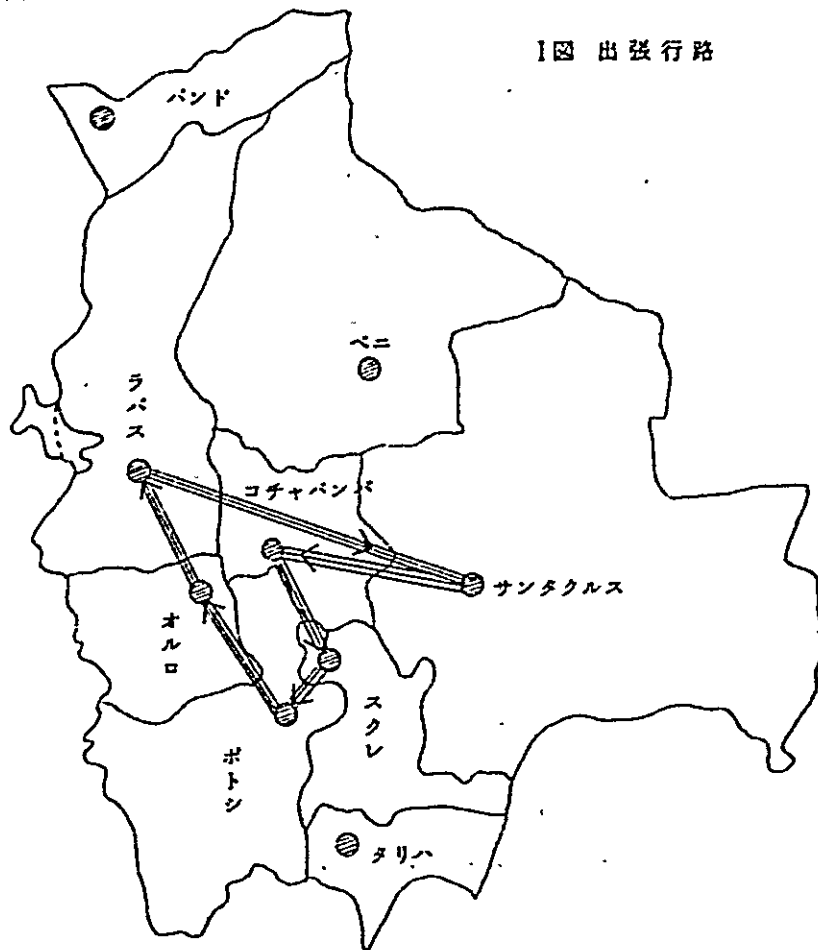
D I M A R C O、農協 柿本氏等の農場について

全て灌がい施設を準備した農場であり特にD I M A R C Oは、TUCUMAN ROSA-
RIO、BUENOS 地方にも販売網を広げ、通信設備等にて毎日の価格についてキャッ
チし農産物を運搬、購販売しており大きな組織である。

既に柿本氏を通じサンファン移住地でも取引済であり、詳細については前年度調査時に
報告されているので略す。

3. ボリビア国内養鶏事情，鶏卵肉市場調査

- I 調査者 オキナワ事業所，サンタクルス支部
- II 調査地 ボリビア国内，コチャパンバ州，スクレ州，ポトシ州，オルロ州，ラパス州
- III 調査期間 昭和48年12月3日～13日
- IV 調査目的 ボリビア国内の養鶏概況及び，鶏卵市場の調査と今後の可能性について
- V 調査内容



1. 国内養鶏概況

(1) 品種及び飼育羽数

ポリビア国に於ける養鶏技術は伯国等に比較すると、原始的飼育で、今後まだまだ技術向上、普及の必要性が大いにある。

ポリビアの養鶏の歴史はまだ非常に浅く、養鶏事業といえる飼育方法が普及されたのは、1968年末からであり、それも企業的養鶏を営む数はごくわずかであった。

これのおくれの理由の一つとしては、1968年までは、ヒナのフ化工場が国内に設置されてなく、ヒナの導入困難、値段の関係等であり、1967年、すなわち、ヒナをフ工場より購入できる前までの飼育羽数は採卵鶏、肉鶏、総羽数約3,224,320羽であり、世別に飼育羽数を示すと次の表のとおりである。

1967年末飼育羽数

	大, 中規模養鶏家飼育羽数				その他の飼育羽数	合計
	採卵鶏	種 鶏	肉 鶏	計		
ラバス	23,090	3,235	227,280	253,605	393,664	647,269
ポトシ	2,000	-	2,000	4,000	290,348	294,348
サンタクル	97,657	2,900	24,000	125,557	549,918	672,435
スクレ	880	-	-	880	364,771	365,651
タリハ	750	225	-	975	206,762	207,737
オルロ	300	-	6,000	6,300	74,101	80,401
コチャパン	46,765	14,000	133,000	193,765	490,106	683,871
ベニ	-	-	-	-	219,165	219,165
バンド	-	-	-	-	53,403	53,403
合計	121,442	20,360	392,280	584,082	2,640,238	3,224,320

現在の飼育羽数はデータがなく、把握不可能であるが、約2.7～3倍の増加があるので、1972年10月末では、推定羽数約9,189,312羽飼育されていたことになる。

しかし、政令第10,550号の弊害切り下げにともない、生産コストが非常に上がり、特に飼育の大部分をしめるマイルス1qq 35～40 \$bが、\$b 80.-に値上がりし、約40%の養鶏家がたおれた。従って、1973年末での飼育総羽数は1972年10月末の推定羽数より約55%減少してあるものと思われ、約5,054,122羽が飼育されることにな

なる。

現在の飼育羽数を世別に示すと次の表のとおりになる。

ポリビア国世別採卵鶏・肉鶏飼育総羽数

世 別	総 羽 数	採 卵 鶏	肉 鶏
サンタクルス	2,381,000	1,666,700	714,300
ラパス	677,000	270,800	406,200
コチャパンパ	1,663,000	598,680	1,064,320
ボトシ	86,000	43,000	43,000
スクレ	91,000	81,900	9,100
タリハ	45,000	40,500	4,500
オルロ	40,000	10,000	30,000
ベニ	41,000	32,800	8,200
バンド	30,000	24,000	6,000
合 計	5,054,000	2,768,380	2,285,620

ポリビア国内に入っている鶏の主な品種は、次のとおりである。

a) 採卵鶏品種

H&H HICK CHICK LEGHORNS

H&H Brown Nick

ハイライン

バビコック

H&H Cobb

Pild - DEKALB

b) 肉鶏品種

H&H MEAT NICK

インディアン リーバ

HARBARD

等有名な品種を生産しており、これは、各養鶏家がその地域、目的により満足した又、最適な品種の選抜が可能である。

(2) 飼育形態

(2) 飼育形態

国内で見られる養鶏管理、衛生、設備等の技術面は一般的に低く、鶏が有する生産能力が充分発揮できない状態で飼育されているのが現状である。

1) 育雛について

人工育雛方法としては、大部分が傘型育雛器を使用しており、温源はガスで10日～3週間令まで給温している。

小規模で営んでいる養鶏家は、石油コンロで給温している。

傘型育雛器の大きさは直径1.5mの傘型で、約600羽収容可能であるが、密飼いの防除のため500羽単位で収容している。

育雛温度は次の表のとおりに行なっていた。

週令	傘内温度	舎内温度
1	32℃	28℃
2	30	26
3	28	24
4	26	22
5	24	22
6	22	22

2) 鶏舎について

大部分が平飼い鶏舎である。

屋根は瓦、又はトタンで建てられており、コチャパンバ他の気温の低い地域では約1.2mまで周囲をレンガでかこって作っていた。

サンタクルスの気温のように殆ど一年中暑い所では、屋根は瓦を使用し、可能であれば、日光反射用として白ペンキをぬると効果的である。

瓦でも白ペンキをぬると舎内の温度が約3.0℃差があると云われている。

平飼いの養鶏の場合、飼育する鶏が充分生産能力を発揮するにおいては、床面積、えさ箱、給水器、産卵箱とまり木等の関係を充分考慮した上で設置することが肝要であることはもちろんであるが、一般的に国内の養鶏家はそれ程関心が無く、又、衛生関係も良好とは云えない飼育管理を行なっている。

給餌器と給水器とが非常にはなれすぎていると、鶏の飼料効率が悪くなる原因に関連し、えさを食べすぐに水がのめる状態に設備することが必要であるが、これは実行なされておらず、悪い所では、1,000羽収容の鶏舎内に5～6ヶの缶で給水しているものもあり、これは産卵にも大きく影響する。

給餌器と給水器とが非常にはなれすぎていると、鶏の飼料効率が悪くなる原因に関連し、えさを食べすぐに水がのめる状態に設備することが必要であるが、これは実行なされておらず、悪い所では、1,000羽収容の鶏舎内に5～6ヶの缶で給水しているものもあり、これは産卵にも大きく影響する。

産卵箱は5羽に1箱の産卵箱が必要であるが、一般的に1つの産卵箱に対する羽数が多

く、そのため卵が箱内でわれる率が多く、又、よごれ卵が多く出る原因である。とまり木も鶏が安眠できるように、なめらかに丸形のもがよく間隔もせますぎると、換気が悪くなるので、鶏の令に対し、適当な間隔を作ってやることが肝要である。特にコチャパンバ等高地では、夜間非常に気温が下がり、とまり木がないと、鶏は郡になり一カ所に集団となり、換気悪く、ちっそくして、死亡するものも発生し、又、中継時代には、生長の不ぞろいが極度に目立つ。

床面積は成鶏の場合1㎡当たり4羽が標準ではあるが、今回視察した中、殆どが密飼いとなっていた。極度な密飼いになると、舎内での鶏に対する換気が悪化し、飼料効率が悪くなり、鶏の健康を害することになり、尻つつき（カンパリズム）食羽へき、食卵へき等等の鶏の悪へきの発生が多くなる。

多羽数飼育が容易で鶏の寄生虫病、コクシジウム症の病気の発生を防ぐ目的で、土面から離れたケージに鶏を収容して飼ういわゆるケージ養鶏はコチャパンバで一カ所しかなかった。

(3) 養鶏の地理的区分

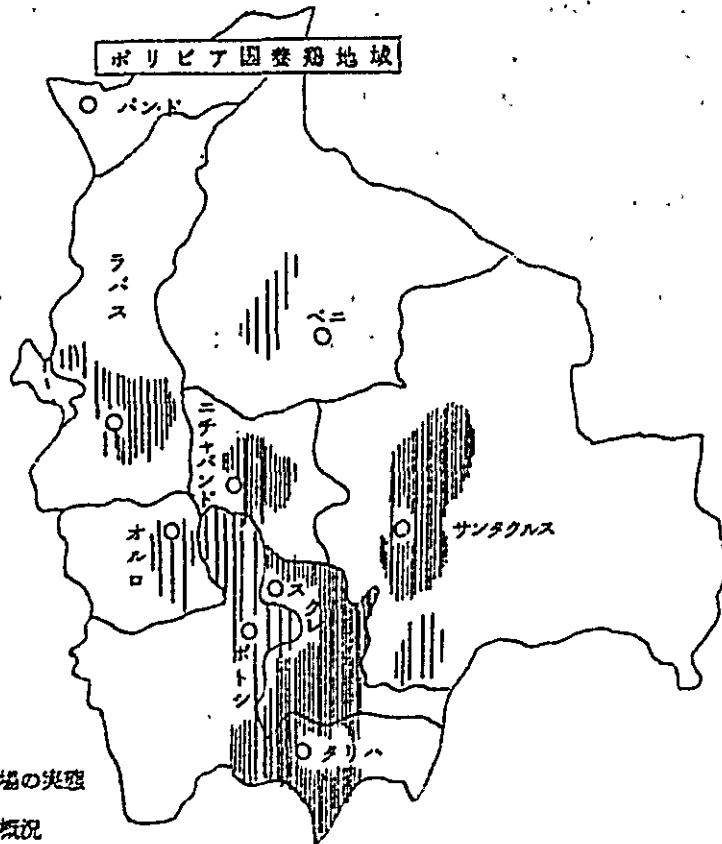
ボリビア内で、養鶏が行なわれている地域は次の地図のとおりであるが、現在最も盛な地域はコチャパンバ州、サンタクルス州であり、特にコチャパンバ州の気候は良く、養鶏に最適の地と云われているが、コチャパンバ州でのマウス生産はその需要量よりはるかに下がり、不足量の大部分はサンタクルス州、タリハ州より購入されている。

年度別マウス栽培面積及び収量

年度	栽培面積 ha	収量 トン
1961	207,030	258.8
1962	213,560	264.8
1963	218,000	270.5
1964	220,000	280.2
1965	214,000	277.1
1966	203,000	268.6
1967	210,000	277.7
1968	217,400	287.5
1969	218,400	219.0
1970	219,000	283.0

従って、将来の養鶏適地と云えば、マウスの生産が可能なサンタクルスと云えよう。コチャパンバ州のチャパレ郡が今まで、農業地帯として注目されていたが、年間雨量、4,000~5,000mmであり、多雨過量のため、一般農作物の栽培は難かしく、マウスも現在のところ殆ど、

MIZQYE, CAMPERO郡で栽培されている。



(4) 国内にあるフ化場の実態

1) フ化場の一般概況

国内のフ化場は、サンタクルス州に集まっているといっても過言ではない。大規模なフ化工場がサンタクルス州にある一つの理由としては、フ化するにあたり、適度な湿度を要求する訳であるが、この湿度は、フ化率と直接関係があり、サンタクルス州のように湿度が平均70%の地域ではこのフ化場の湿度の調整は容易であり、フ化率も高い。しかしコチャパンボ、ラパス州のように高地で、平均湿度30%であれば、フ化場の湿度調整も困難、且つフ化率が悪く、すなわち、フ卵中に湿度が低いと胚の骨形成が悪くなり、フ化時の湿度が過度に低いと卵内粘液が乾燥してほど卵殻との間が固くなり、雛はフ化に時間がかかり、精力は消耗され破卵が困難となり死亡することが多く、従って現在は殆どサンタクルス州のAVICOLA, BOLIVIANA, AGROPECUARIA, NACIONAL, フ化場より各州にヒナが配布されている。

2) フ化場の技術、衛生の程度

雛の生産事業は一般的に養鶏産業のうち最も利益をもたらす事業であるが、またその反

面非常に高価の技術と多額な資本が要求される。

フ化場が立派で、フ化率が良いのが産が優良というのではなく、フ化場より、それらが所有する種鶏場を見てヒナの導入の選抜が必要であろう。

病気に対する抵抗力、産卵能力、種卵の合格率、受精率、フ化率、原種鶏用の信用、一般農家からの人気等を又、地域の適性を充分考慮した上でヒナを決定する。

現在のフ化場、種鶏場は衛生面、管理技術面でまだまだ改良、研究する必要が多分にある。

例えば、種鶏場に対するヒナ白痢の検定も定期的に行なわれておらず飼育管理の程度もか
とる。

3) 国内のフ卵場の能力

1) で述べたごとく産産の関係上大規模なフ卵場はサンタクルス州に集まっている。

フ 卵 場	フ 化 能 力
AVICOLA BOLIVIANA	2,640,000羽
AGROPE CUARIA Hol	2,700,000
AVICOLA CHULUMANI	600,000
AVICOLA CALACHAPI	215,000
GRANTA SAN BERNARDO	1,200,000
GRANTA PETRO	480,000
合 計	7,836,000

4) フ卵個数とフ化ヒナ羽数

一般にフ化率は80%を示している。最近各フ化場で初生ヒナにマレックス氏予防注射を行ない販売している。

年度別フ卵個数とフ化ヒナ羽数を示すと次のとおりである。

年 度	フカヒナ羽数	フ卵個数
1968	1,073,000	1,341,000
1969	1,743,000	2,180,000
1970	2,913,000	3,640,000
1971	3,896,000	4,870,000

年 度	フ化ヒナ羽数	フ卵個数
1972年	4,372,000	5,465,000
1973	5,683,000	7,104,000

(5) 養鶏事業に対する融資

ボリビア国において養鶏事業に対して融資している機関は農銀 (BANCO AGRICOLA DE BOLIVIA) のみでしかも、直接養鶏資金とした融資は、コチャパン州以外融資されていない。

サンタクルス州は養鶏に関連するマウス栽培融資は今年より大巾に融資されるようになったが、ヒナ、鶏舎、飼料購入資金用融資は実行されていない。

コチャパン州では次のように1972年度の養鶏融資が実行された。

セルカード、チャパレ郡駐在

Sb 2,830,316.- (全額の56.6%)

ヤリャコロオ駐在

Sb 1,689,300.- (全額の55%)

計 Sb 4,519,616.-

この他フ化場、飼料工場、販売店より融資があるが、わずかである。

養鶏の融資の利息は年10%、フカ場他の融資は年30%以上の高利息である。

(6) 配合飼料工場の現状と問題点

1) 配合飼料工場の現状

当国で配合飼料工場により完全配合飼料が市販されたのは1968年よりで、以前は単味飼料 (マイナス粒状のまま) で飼料効率はもちろん悪く養鶏と云うより単に家庭的に鶏を飼っていたという状態であった。

しかし現在でも、配合飼料を使用している養鶏場は全体の約45%でその他の55%の養鶏家は小中規模で、自家配合を行なっている。

ボリビアにある主な配合飼料工場は、

IMBA LTDA

GRACE & CO

HUTRINAL LTDA

であるが、これらが所有する能力を効率的に発揮していなく、ラパス市にあるPURINA

NIXALITAL配合工場、その他、サンファン組合所有程度の中～大規模工場が全国に12工場あるがこれらが全能力で操業すると、現在の国内配合飼料必要量をおぎなり可能性は充分にあるが、現在のところでは、国内必要量の41%をこれらの工場で生産されている。

2) 問題点

1) で述べた配合工場の能力が充分に発揮できない原因は次のとおりである。

- a) 飼料配合するにあたり、その原料の購入資金が不足する。
- b) 魚粉の入手困難、又、価格の変動が大きく高価になったこと。
- c) マイスの価格変動が大きい。又、マイスのサイロがないため、ストックが出来なく、時期的にマイスのあるときとないときがある。
- d) 自家配合と工場の飼料との良悪が目立たない。

すなわち工場では、完全配合飼料と名称されている飼料を作るが、せいみつな飼料計算の上で、配合されたものではなく、一般養鶏家が自家配合するのとたいした差がないので、結果的に、経済性である国家配給を使用するようになる。

(7) 主な鶏の病気

主として発生する鶏の病気は、

- ニューカッスル病
- 鶏 痘
- 呼吸器病
- コクシジウム症
- ヒナ白痢
- 伝染性コリザ
- 白血病
- ビタミン欠乏症
- 体内外寄生虫

等で体内外寄生虫は多く、このため貧血症になりやすい。

今後増々交通が便利になり、飼育羽数が増加すると、これらの病気の発生は一段と高まり、予防注射があるものは完全にすべて実施する必要があるが、現在ではまだ、ニューカッスル病の予防さえも実施している養鶏家は少なく病気が発生し、大部分の鶏部に罹染され目立つようになって、それから薬品を購入に行くような程度である。

2. ポリビア国鶏卵、鶏肉の市場

(1) 鶏卵、鶏肉の市場価格

鶏卵の市場価格の変動は、はげしいが現在のところ、コチャパンバでは、

卵	大型	1ヶ当り	\$b	0. ⁹⁵
"	中	"	\$b	0. ⁸⁵
"	小	"	\$b	0. ⁷⁵

として市場にだされているが、先月、コチャパンバの市役所より鶏卵価格の取りしまりがあり鶏卵、

大型	1ヶ当り	\$b	1. ³³
中		\$b	1. ²⁰
小		\$b	1. ¹⁰

と決定されたが、消費者としては高価なため買わず、卵の消費量が一時期、大巾に減少し、現在もその価格で市販されている。

サンタクル州での卵の価格は

1ヶ当り	大型	\$b	0. ⁸⁵
	中	\$b	0. ⁸⁰
	小	\$b	0. ⁷⁰

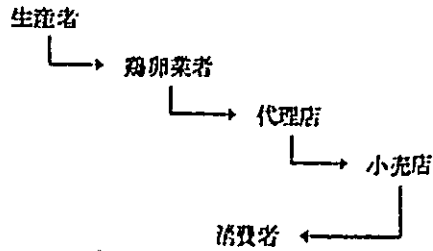
であり、サンタクルス州の生産鶏卵の約40%はラバス州、スクレ州、ポトシ州、コチャパンバ州に販出されている。

従って、卵の価格は、販売先の市場価格により、変動がある傾向にある。

他州での卵の価格は次のとおりである。

州名	大	中	小
サンタクルス	0. ⁸⁵	0. ⁸⁰	0. ⁷⁰
コチャパンバ	0. ⁹⁵	0. ⁸⁵	0. ⁷⁵
スクレ	0. ⁹⁸	0. ⁹⁰	0. ⁸⁰
ポトシ	1. ²⁵	1. ¹⁵	0. ⁹⁵
オルロ	1. ³⁰	1. ²⁰	1. ¹⁰
ラバス	1. ²⁰	1. ⁰⁰	0. ⁹⁰

鶏卵の販売ルートは主に、



コチャパンバ州等高地地域では、肉鶏（ブロイラー）が採卵鶏よりはるかに多羽飼育されている。

コチャパンバ州では、現在約1,663,000羽を飼育しているが、この内595,000が採卵鶏で約36%であり、64%の1,056,000羽は肉鶏である。

鶏肉の1kg当り価格は次のとおり。

州 別	鶏肉1kg当り価格
サンタクルス	\$b 23.-
コチャパンバ	24.-
スクレ	23.-
ポトシ	27.-
オルロ	25.-
ラパス	26. ⁵⁰

ブロイラーの最も盛んなコチャパンバ州でもマイス他飼料のね上がりのため、飼育羽数3,000羽以上でなければ益がないという結果で、1,000羽飼育の所は、1羽から\$b1.²⁰の又、2,000羽飼育の所では1羽から、\$b0.⁴⁸と云う赤字がでたことが農物省調査の結果に出ている。

(2) 国内鶏卵の生産と消費

国内の鶏卵の生産量及び消費量はデータがなく正確な数字がつかめないが、推定で次のとおりとなる。

1) 国内州別採卵鶏、肉鶏の飼育総羽数

州 別	総羽数	採卵鶏	肉 鶏
サンタクルス	2,381,000	1,666,200	714,300
ラパス	677,000	270,800	406,200
コチャパンバ	1,663,000	598,680	1,064,320
ポトシ	86,000	43,000	43,000
スクレ	91,000	81,900	9,100
タリハ	45,000	40,500	4,500
オルロ	40,000	10,000	30,000
ベニ	41,000	32,800	8,200
バンド	30,000	24,000	6,000
合 計	5,054,000	2,768,380	2,285,620

2) 国内の鶏卵の生産量

ポリビアの産卵率は良好な時には80~90%にも達することもあるが、その期間は短かく、年平均すると約60~65%が標準となっている。

州別に、鶏卵の生産量を示すと、次の表のとおりになる。

国内の卵生産量

州 別	採卵鶏総羽数	成鶏羽数	日生産量	年間生産量
サンタクルス	1,666,700	833,350	500,010 ^ヶ	150,003,000 ^ヶ
ラパス	270,800	135,400	81,240	24,372,000
コチャパンバ	598,680	299,340	129,604	53,881,200
ポトシ	43,000	21,500	12,570	7,371,000
スクレ	81,900	40,950	24,570	7,371,000
タリハ	40,500	20,250	12,150	3,645,000
オルロ	10,000	5,000	3,000	900,000
ベニ	32,800	16,400	9,840	2,952,000
バンド	24,000	12,000	7,200	2,160,000
合 計	2,768,380	1,384,190	830,514	249,154,200

3) 国内の鶏卵の消費量

ボリビアでの卵消費は少ない。世界で一番多く消費している国はアメリカである。

アメリカ	1人1日当たり	50g
日本		46g
ニュージーランド		46g
イギリス		44g
西ドイツ		42g
イタリア		28g
ボビリア		7g

(注) 卵1ヶ約52g

ボリビアの場合一日の生産量830,514ヶであると、これが約90%市場に販出され
るとして、747,166ヶがボリビア全国の消費量となる。

現在ボ国人口は5,194,900人であるが、鶏卵の1日の1人当り消費は0.13ヶとな
る。すなわち7.35人に1ヶの卵が消費される。1人1日当り6.2gの卵消費である。

結論として

鶏卵市場調査の目的で主な養鶏地域をまわってみて、種々養鶏に対する問題点を見て来たが
サンタクルス州以外の州での養鶏家は特に飼料に関する問題が経営上大きく影響し、現在養
鶏の将来性のある州としては、マイスの多量生産可能なサンタクルス州である。

しかし現在約1,666,700羽の採卵鶏を飼育しており、コチャバンバ、ラパス、スクレ、
ポトシ、各州に販出しているが、今後どのくらいサンタクルス州で増大可能であるか、全国
で卵消費をどのくらい向上するか、その他サンタクルス州養鶏の将来のすがたを本調査を分
析してまとめてみると次のとおりとなる。

表1、表2を参照

表1 → 現在の鶏卵の市場の動き

表2 → 1日1人当り0.192ヶ(10g)の消費量とした場合、サンタクルス州で
の増産量

表1 現在の鶏卵の市場の動き 1日当り
卵 = ケ

州 別	人 口	1日の生産量	市場卵量	消費量	輸 出	輸 入
サンタクルス	492300	500,010	450,009	68,429	381,580	
ラバス	1,631,900	81,240	73,116	226,834		153,718
コチャバンバ	844,000	129,604	161,644	117,316	44,328	
ポトシ	919,600	12,570	11,313	127,826		116,513
スクレ	486,800	24,570	22,113	67,666		45,553
タリハ	218,200	12,150	10,935	30,329		19,394
オルロ	361,900	3,000	2,700	50,304		47,604
ベニ	206,100	9,840	8,856	28,648		19,792
バンド	34,100	7,200	6,480	4,739	1,741	
合 計	5,194,900	830,514	747,166	322,089		

注1. 輸入輸出とは各州に卵が出入りする必要量である。

表2 1日1人当たり0.192ケ(10g)消費量とした場合サンタクルス州での増産量

州 別	人 口	1日の生産量	市場卵量	現在の消費量	1日1人当たり0.192とした消費量	増産量	飼育可能羽数
サンタクルス	492300	500,010	450,009	68,429	94,521	27,531ケ	460,000羽
ラバス	1,631,900	81,240	73,116	226,834	313,325		
コチャバンバ	844,000	129,604	161,644	117,316	162,048		
ポトシ	919,600	12,570	11,313	127,824	176,563		
スクレ	486,800	24,570	22,113	67,666	93,466		
タリハ	218,200	12,150	10,935	30,329	41,894		
オルロ	361,900	3,000	2,700	50,304	69,485		
ベニ	206,100	9,840	8,856	28,648	39,521		
バンド	34,100	7,200	6,480	4,739	6,547		
合 計	5,194,900	830,514	747,166	722,089	997,420		

(注)1. 1日の生産量の約90%を市場卵量とする。

2. 増産量とは1日1人当たり0.192とした消費量の場合に現在の消費量を1日1人当たり0.192とした時の消費量から引いた数でマイスの生産が可能なサンタクルス州

に総量を加えた。

3. 飼育可能羽数とは増産量を生産するに必要な羽数

4. 産卵率は平均を取り60%とした。

以上の表を見て分かるようにボリビアの卵生産地はサンタクルス州である。

現在の卵の消費は国民が消費能力を持っていないのではなく、むしろ、卵の生産が不足しているといってもいい程である。

また現在の1日1人当たりの卵の消費量0.139ヶ(7.2g)をこの数年間で10~17gに消費アップさせることは可能であろう。

現在でも、卵の生産量を増し、価格を一定すると、ボリビアの消費は、1日1人当り最高10g=0.192ヶは可能と推定され、この場合ただちに養鶏事業を拡張出来る所は、サンタクルス州であり、表紙2のとおりサンタクルス州で養鶏事業を拡大しても国内の市場に少なからず影響ないと思われる。

すなわち、サンタクルス州に於いて459,000羽の採卵鶏を飼育することが可能であるがこれ以上になると現在の市場では消費するのに問題があると思う。

サンファン移住地でのマウス栽培成績は良効であり、大豆粕と粗糞の配合飼料工場を多分に活用して現在飼育羽数120,000羽の約3倍の羽数を増加しても、現在の市場性から見て、充分消費されることが分かった。

中南米代表部編

1. 南伯から北伯，東北伯向け主要農産物の移出状況並びにベレーン市場における移輸入主要農産物の月別平均価格（ベレーン，レシーフェ支部関係）
2. 北伯，東北伯産のメロン，マラクジャの南伯における評価等（ベレーン，レシーフェ支部関係）
3. ネクタリンと高級ぶどうについて；サンパウロ及びその周辺における生産状況とポルト・アレグレ支部管内生産もののサンパウロ市場における評価
（ポルト・アレグレ支部関係）
4. びわとかきの主要生産地における栽培状況
（ポルト・アレグレ支部関係）
5. ピメント，カカオ，丁字の輸出統計
（ベレーン，レシーフェ支部関係）

中華經濟發展

中國經濟發展，自改革開放以來，已進入一個新的階段。在過去幾十年中，中國經濟經歷了從計劃經濟到市場經濟的轉變，取得了長足的進步。然而，在當前的國際形勢下，中國經濟發展面臨著諸多挑戰。

首先，全球經濟一體化程度不斷加深，國際貿易日益頻繁。這既為中國經濟發展提供了廣闊的市場和資金，也帶來了激烈的國際競爭。其次，技術革命日新月異，人工智能、大數據等新興技術的興起，對傳統產業產生了深遠影響。中國必須加強自主創新，提高科技實力，才能在國際競爭中立於不敗之地。

此外，國內經濟結構調整也面臨著巨大壓力。隨著人口紅利的消失和環境保護要求的提高，傳統的高耗能、高污染產業必須進行轉型升級。同時，農村經濟發展相對滯後，城鄉差距依然明顯。政府應加大對基礎設施建設和農村振興的投入，促進經濟的均衡發展。

總之，中國經濟發展任重道遠。只有堅持改革開放，不斷深化改革，才能激發市場活力，釋放消費潛力，實現經濟的持續健康發展。

1. 南伯から北伯，東北伯向け主要農産物の移出状況並びにベレン市場における移輸入主要農産物の月別平均価格
(ベレン，レシフェ支部関係)

- I 調査者 中南米代表部
II 調査期間 昭和48年
III 調査内容

1973年における南伯から北伯，東北伯への主要農産物の月別移出状況は，サンパウロのコチア事業部 (Jaguare'倉庫) 抜いでよれば別表 (1~4) のとおりである。

パラ	ー向け	別表1
アマゾン	ス向け	# 2
パイ	ア向け	# 3
ベルナンブ	ッコ向け	# 4

また，SIMA (註) 作成資料に基き，ベレン市場における移輸入主要農産物の各月3旬毎の平均販売価格を調査し，サンパウロ市場のそれと比較した。(別表5.6)。但し，輸入分に関してはSIMAの資料の関係上，9月中旬迄しか調査出来なかった。

(註) SIMA: Servico de Informacao de Mercado Agricola.

農務省の機関で，ブラジル全国主要都市の農産物市況をTELEX にてRio に集め，毎日報告書を作成している。

別表1

P A R A

JANEIRO/73

Uva Italia 460 ct.
 Batata lavada sc. 50Kg 8 sc.
 Batata s/lavr sc. 60Kg 330 sc.
 Cebola sc. 45Kg 23 sc.
 Cha 224 Kg
 Aves abatidas 97.633 Kg
 Esteira 84 pc.

Cha 70 Kg
 Aves 58.602,1 Kg

MAIO/73

Batata s/lavar sc. 60Kg 335 sc.
 Batata lavada sc. 50Kg 30 sc.
 Cebola sc. 45Kg 130 sc.
 Chá 60 Kg
 Aves abatidas 50241 Kg

FEVEREIRO/73

Uva Italia 2.065 ct.
 Cenoura 10 cx.
 Tomato 10 cx.
 Chuchu 5 cx.
 Cebola sc. 45Kg 100 sc.
 Batata lavada sc. 50Kg 45 sc.
 Batata s/lavar sc. 60Kg 156 sc.
 Cha 120 Kg
 Aves abatidas 39.776 Kg

JUNHO/73

Aves abatidas 8.920 Kg

JULHO/73

Batata s/lavar sc. 60 Kg 195 sc.
 Batata lavada sc. 50 Kg 55 sc.
 Aves abatidas 71.509,1 Kg

AGOSTO/73

Batata s/lavar sc. 60 Kg 115 sc.
 Batata lavada sc. 50 Kg 30 sc.
 Aves abatidas 108.010,2 Kg
 Cebola sc. 45 Kg 215 sc.
 Cha 60 Kg
 Oleo de Soja 36/1 100 cx.
 Esteira 400 pc.

MARCO/73

Uva Italia 1.100 ct.
 Macao Nacional 466 cp.
 Aves Abatidas 57.434 Kg

ABRIL/73

Batata s/lavar sc. 60Kg 55 sc. (cont)
 Cebola sc. 45Kg 75 sc.

SETEMBRO/73

Aves abatidas 140.121 Kg

OUTUBRO/73

Uva Italia 200 ct.

Aves abatidas 117.237,2 Kg

Chá 60 Kg

NOVEMBRO/73

Uva Italia 563 ct.

Batata s/lavar sc. 60 Kg, 120 sc.

Cebola sc. 45 Kg 130 sc.

Aves abatidas 70.102,1 Kg

DEZEMBRO/73

Uva Italia 1.900 ct.

Pêssego 100 cp.

Aves abatidas 25.747 Kg

別表2

AMAZONAS

<u>JANEIRO/73</u>		Nespera	20 ct.
Uva Italia	261 ct.	Limaõ Tahiti	4 cx.
		Tomato	22 cx.
<u>FEVEREIRO/73</u>		Cenoura	10 cx.
Uva Italia	180 ct.	Chuchu	10 cx.
Batata s/lavar sc. 60Kg	200 sc.	Pimental	10 cx.
		Repolhe	1 sc.
<u>MARCO/73</u>		Beterrabe	10 cx.
Uva Italia	680 ct.	Vagem	2 cx.
Laranja Pera	100 sc.		
Tomate	50 cx.	<u>SETEMBRO/73</u>	
Ovos	100 cx.	Morango	40 ct.
		Nespere	5 ct.
<u>ABRIL/73</u>		Louve-Flor	50 cb.
Uva Italia	50 ct.	Óleo de Soja 36/1	360 cx.
Caqui Fuyu	30 cp.		
		<u>OUTUBRO/73</u>	
<u>MAID/73</u>		Passego	80 cp.
- 0 -		Couve-Flor	324 cb.
<u>JUNHO/73</u>		<u>NOVEMBRO/73</u>	
- 0 -		Couve-Flor	274 cb.
<u>JULHO/73</u>		<u>DEZEMBRO</u>	
Aves abatidas	40.017,7 Kg	Couve-Flor	292 cb.
<u>AGOSTO/73</u>			
Morango	160 ct.		

別表3

B A H I A

JANEIRO/73

Uva Itaria	1.392 ct.
Possego	70 cp.
Wectarina	10 ct.
Melancia Kodama	15 eg.
Laranja Pera	20 sc.
Limao Tahiti	35 cx.
Gigo	80 eg.
Maracuje	5 cx.
Goiaba	5 ct.
Manga Haden	2 cx.
Tomate	835 cx.
Pimentao	272 cx.
Cenoura	377 cx.
Repolho	173 sc.
Inhama	10 cx.
Pepino	60 cx.
Ervilha Torta	5 cx.
Abobrinha	3 cx.
Chuchu	30 cx.
Batata Doce	10 cx.
Pimenta Ardida	9 cx.
Aipim	3 cx.
Betenraba	70 cx.
Berinjela	93 cx.
Vagem Macarrao	45 cx.
Cengibro	7 cx.
Couve-Flor	240 cx.

Aves Abatidas	52.113 Kg
Ovos	10.542 cx.
Batata sc. 60 Kg s/lavar	600 sc.
Batata Lavade sc. 50 Kg	1.835 sc.
Olao de Soja 36/1	100 cx.
Esteira	875 pc.

FEVEREIRO/73

Uva Italia	4.391 ct.
Caqui	10 ct.
Nectarine	30 ct.
Limao Tahiti	45 cx.
Cenoura	706 cx.
Tomate	1.293 cx.
Repolho	273 sc.
Pimentao	252 cx.
Berinjela	103 cx.
Chuchu	40 cx.
Pepino	40 cx.
Gengibre	20 cx.
Batata Doce	16 cx.
Beterraba	5 eg.
Aipim	3 cx.
Ovos	6.550 cx.
Aves Abatidas	24.193,3 Kg
Batata Lavade sc. 50 Kg	1.830 sc.
Batata s/lavar sc. 60 Kg	595 sc.

Esteira	700 pc.	Ponkan	50 cx.
Cebola sc. 45 Kg	10 sc.	Límao Galego	20 cx.
Oleo de Soja 36/1	200 cx.	Melao	5 eg.
		Abacate	6 cx. ^A
		Goiaba	10 ct.
<u>MARCO/73</u>		Tomate	764 cx.
Uva Italia	4.750 ct.	Ceboura	497 cx. ¹
Laranja Pera	125 sc.	Repolho	130 sc. ¹
Límao Tahiti	124 sc.	Pimentao	48 cx.
Tomate	900 cx.	Beterraba	33 cx. ¹
Cenoura	175 sc.	Pepino	115 cx.
Pimentao	86 cx.	Batata Doce	180 cx.
Repolho	210 sc.	Berinjela	135 cx. ¹
Pepino	86 cx.	Chuchu	10 cx.
Abobrinha	3 cx.	Pimenta Ardida	8 cx.
Chuchu	10 cx.	Cengibre	7 cx.
Beterraba	44 cx.	Ovos	5.952 cx.
Berinjela	126 cx.	Batata Lavada sc. 50 Kg	1.310 sc.
Gengibre	5 cx.	Batata s/lavar sc. 60 Kg	294 sc.
Aves Abatidas	93.131 Kg	Cebola sc. 45 Kg	110 sc.
Ovos	7.077 cx.	Oleo de Amendoim 36/1	10 cx.
Batata Lavada sc. 50 Kg	1.755 sc.	Esteira	3.350 pc.
Batata s/lavar sc. 60 Kg	587 sc.		
Cebola sc. 45 Kg	30 sc.		
Oleo de Soja 36/1	10 cx.	<u>MAIO/73</u>	
Oleo de Soja lt. 18 lt.	410 lta	Laranja Pera	360 sc.
		Caqui	146 ct.
		Abacata	81 cx.
<u>ABRIL/73</u>		Goiaba	150 cx.
Uva Italia	1.727 ct.	Maracuja	80 cx.
Caqui	160 ct.	Límao Tahiti	105 cx.
Laranja pera	65 sc.	Ponkan	79 cx.
Límao Tahiti	100 cx.		

Melao	10 eg.	Kinkan	15 ct.
Kinkan	20 ct.	Tomate	1312 cx.
Melancia Kodama	5 cx.	Cenoura	843 cx.
Cenoura	975 cx.	Repolho	190 sc.
Tomate	1218 cx.	Pimentao	15 cx.
Repolho	120 sc.	Pepino	30 cx.
Beterraba	49 cx.	Batata Doce	89 cx.
Pimentao	40 cx.	Berinjela	100 cx.
Pepino	75 cx.	Couve-Flor	488 cb.
Batata Doce	71 cx.	Aipim	12 cx.
Chuchu	34 cx.	Alcachofra	5 cx.
Vagem	20 cx.	Inhame	10 cx.
Berinjela	160 cx.	Jilo	4 cx.
Gengibre	37 cx.	Gengibre	4 cx.
Ervilha Torte	5 cx.	Aves Abatidas	221.754 Kg.
Jilp	10 cx.	Ovos	8.030 cx.
Pimenta Ardida	4 cx.	Batata Lavada sc. 50 Kg	3.120 sc.
Aves Abatidas	90.909 Kg.	Batata s/lavar sc. 60 Kg	870 sc.
Ovos	4286 cx.		
Batata lavada sc 50 Kg	3.630 sc.	<u>JULHO/73</u>	
Batata s/lavar sc. 60 Kg	1.042 sc.	Morango	370 ct.
Esteira	150 pc.	Aves Abatidas	106.963,3 Kg
		Ovos	4.775 cx.
<u>JUNHO/73</u>		Batata lavada sc. 50 Kg	1.300 sc.
Morango	205 eg.	Batata s/lavar sc. 60 Kg	525 sc.
Coiaba	192 ct.		
Ponkan	92 cx.	<u>AGOSTO/73</u>	
Abacata	5 cx.	Morango	800 ct.
Limao Tahiti	30 cx.	Nespera	350 ct.
Maracuja	22 cx.	Aves abatidas	108.191,8 Kg
Limao Galego	10 cx.	Ovos	8.119 cx.

Batata lavada sc. 50 Kg 1.195 sc. DEZEMBRO/73

Batata s/lavar sc. 60 Kg 383 sc. Uva Italia 4.027 ct.

Esteira 6.460 pc. Uva Niagara 20 ct.

Pessego 914 cp.

Laranja Pere 50 sc.

Tomate 40 cx.

Cenoura 10 cx.

Chuchu 20 cx.

Pimentao 10 cx.

Repolho 5 sc.

Aves Abatidas 28.446 Kg.

Ovos 10.861 cx.

Batata lavada sc. 50 Kg 2.550 sc.

Batata s/lavar sc. 60 Kg 823 sc.

Esteira 8.275 pc.

Cebola sc. 45 Kg 20 sc.

SETEMBRO/73

Morango 390 ct.

Aves Abatidas 50.003,3 Kg.

Ovos 9.665 cx.

Batata lavada sc. 50 Kg 1.165 sc.

Oleo de Soja 36/1 550 cx.

Esteira 1.410 pc.

OUTUBRO/73

Pessego 210 cp.

Aves Abatidas 69.289,3 Kg.

Ovos 10.339 cx.

Esteira 1.375 pc.

Batata lavada sc. 50 Kg 2.140 sc.

Oleo de Soja 18 lt. 15 lta

Batata s/lavar sc. 60 Kg 10 sc.

NOVEMBRO/73

Uva Italia 100 ct.

Pessego 305 cp.

Aves abatidas 104.693,9 Kg.

Ovos 12.524 cx.

Batata lavada sc. 50 Kg 2.300 sc.

Batata s/lavar sc. 60 Kg 590 sc.

Cebola sc. 45 Kg 10 sc.

Esteira 1.360 pc.

別表4

PERNAMBUCO

JANEIRO/73

Uva Italia 670 ct.
Ovos 200 cx.

JUNHO/73

- 0 -

JULHO/73

Morango 160 ct.
Esteira 500 pc.

FEVEREIRO/73

Uva Italia 150 ct.
Figo 50 ct.
Esteira 500 pc.

AGOSTO/73

Morango 291 ct.
Esteira 6200 pc.

MARCO/73

Uva Italia 200 ct.
Ovos 500 cx.
Esteira 1500 pc.

SETEMBRO/73

Morango 146 ct.
Tomate 15 cx.
Couve Bruxela 310 pct
Repolho 10 sc.

ABRIL/73

Uva Italia 200 ct.
Caqui Fuyu 30 ct.
Esteira 1.100 pc.
Tomate 15 cx.

OUTUBRO/73

Esteira 500 pc.

MAIO/73

Caqui Rama Forte 10 cx.
Tomate 15 cx.
Ovos 8 100 cx.
Batata s/lavar sc. 60 Kg 160 sc.
Esteira 600 pc.

NOVEMBRO/73

Esteira 1.000 pc.

DEZEMBRO/73

Uva Italia 500 ct.
Pessego 100 cp.
Esteira 1.000 pc.

別表5

Belém 市場における移輸入野菜の月

	市場	単位	73/4月			5月			6月			7月			8月		
			上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
にんじん (スペシャル)	Belém	CX-25K	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	S. Paulo	CX- $\frac{22}{29}$ K	40 60	40 55	40 50	35 50	40 65	40 60	-	-	-	-	-	-	-	-	
ジャガイモ (スペシャル)	Belém	CX-25K	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	S. Paulo	CX- $\frac{22}{27}$ K	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
キャベツ (ジャポネーザ)	Belém	SC- $\frac{35}{50}$ K	70	80 130	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	S. Paulo	SC	18 50	10 40	11	15 45	25 58	15 45	10 32	10 30	8 25	10 30	6 15	-	5 13	5 11	4 11
トマト (エストラ)	Belém	CX-25K	50 60	55 60	50 55	50 60	50 60	40 60	50 60	50 65	40 50	40 60	40 55	55 60	45 60	55 60	
	S. Paulo	CX- $\frac{22}{29}$ K	45 60	25 60	30 45	20 40	25 60	50 70	25 45	25 40	40 65	40 70	40 50	30 40	40 60	40 50	30 50
トマト (エストラ)	Belém	CX-25K	-	-	-	40	30 40	30	35	45	40	30	30	30	30	30	-
	S. Paulo	CX- $\frac{22}{29}$ K	35 40	19 40	24 30	15 26	15 48	41 55	20 30	20 30	35 55	32 60	32 40	22 30	30 50	30 40	20 30
トマト (スペシャル)	Belém	CX-25K	-	-	30	35	20 30	20	20	35	20	20	20	20	20	-	
	S. Paulo	CX- $\frac{22}{29}$ K	30 35	13 35	16 24	10 24	10 40	35 47	15 27	15 20	28 47	25 50	24 32	14 22	20 40	20 30	20 30
備考	○サンパウロより移入																

別平均価格及び São Paulo 市場との比較

(単位Cr\$)

9 月			10 月			11 月			12 月			74/1 月			2 月			3 月		
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
-	70	60/70	65/70	70	50/60	60/70	50/70	50/70	70/80	-	-	70/90	100	100	100	100	-	100	100	-
-	10/25	18/25	15/20	-	12/20	15/25	20/30	15/20	20/25	18/25	18/40	20/30	15/35	23/35	40/50	30/50	30/50	35/60	40/70	50/100
-	50	50	50	50	50	50/60	50	50	50	60	50	50	50	50	70	-	60	60	60	50/60
-	10/23	5/20	8/25	-	7/18	5/15	7/20	5/16	5/15	7/25	10/40	12/40	12/50	20/55	15/55	10/35	15/40	20/35	10/30	10/30
50/60	50/60	50	50/60	50/60	60/75	55/60	-	60	50/60	70	65	65	60	60	65	70	-	-	100	100
4/8	3/6	3/5	-	3/6	2/5	2/10	2/6	2/5	2/5	2/5	3/4	3/8	3/18	5/13	10/27	12/30	15/45	20/55	10/40	6/30
55	55/60	55	60	-	55	50/55	50/55	55	60	50/60	55	50/55	50/55	50/55	50/55	55	55/60	70	75	50/70
25/48	35/40	25/33	30/33	50/60	25/35	30/37	23/65	39/50	40/50	25/40	25/40	20/40	30/55	45/55	40/50	35/45	40/50	40/85	55/85	80/100
-	-	-	-	-	50	50/55	45	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20/25	29/35	20/30	20/25	-	20/35	25/30	25/55	30/40	30/38	20/25	20/26	15/25	20/45	40/45	20/40	20/35	30/40	30/65	45/70	60/90
-	-	-	-	-	45	45	40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15/20	23/29	18/23	18/20	-	18/30	20/25	20/40	25/30	25/30	15/20	15/23	12/20	15/35	30/35	15/30	20/30	20/30	30/65	35/60	50/70

別表 6

Belém 市場における移輸入果実の月

	市場	単 位	73/4 月			5 月			6 月			7 月			8 月		
			上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
ラランジャ (ペーラ)	Belém	Cx. QUEROZ	-	-	-	50	-	-	45	50	-	-	-	-	-	-	-
	S. Paulo	Cx. MERCADO	9 25	9 22	8 24	7 20	10 20	10 20	18 25	10 18	9 17	10 17	-	9 16	9 16	10 17	9 22
レモン (タイチ)	Belém	Cx. QUEROZ	-	-	-	40 65	40 60	45 60	40 60	40 60	50 60	-	-	50	40 60	50 55	50
	S. Paulo	"	10 20	10 18	10 20	8 15	11 15	9 15	10 13	7 13	7 12	7 12	7 12	6 11	7 12	7 12	7 12
(ガレゴ)	Belém	"	60	60	60	-	-	-	-	-	-	-	-	70	-	60 70	60 70
	S. Paulo	"	12 29	10 28	15 30	12 25	13 25	12 25	12 25	14 26	9 25	9 25	11 26	12 28	13 30	14 40	13 40
アバカラ (マンデ・カ)	Belém	Cx. 25 K	65	65	65	-	-	-	-	-	65	-	-	-	-	-	-
	S. Paulo	Cx. QUEROZ	8 15	8 14	7 16	7 15	6 15	8 12	5 17	8 18	8 18	8 18	10 20	-	-	-	-
輸入品	Belém	Cx. 20/22 K	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150
			80 110	80 110	95 110	95 110	95 110	95 110	95 110	95 110	95 110	95 110	95 110	95 110	95 110	95 110	95 110
(フランス)	Belém	Cx. 20/22 K	-	-	-	-	-	-	-	-	150	-	-	-	-	150	150
			100 110	100 110	95 110	95 105	90 100	90 100	90 100	90 100	90 100	90 100	90 100	90 95	80 90	70 90	90 90
なしは (ウインタール)	Belém	Cx. 20 K	-	-	150	150	150	150	150	150	150	150	-	-	-	-	-
			90 110	90 110	100 115	105 120	110 120	110 120	-	-	-	-	-	-	-	-	80 90
備 考	1. ラランジャ、レモン、アバカテはサンパウロより移入、リンゴはアルゼンチン、なしは																
	2. 輸入品の統計は、1973年9月下旬より記載されなくなった。																
	3. CX. QUEROZ=Caixa QueroZENE																

別平均価格及び São Paulo 市場との比較

(単位 Cr\$)

9 月			10 月			11 月			12 月			74/1 月			2 月			3 月		
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
-	-	50	-	-	45/50	45/50	50	50	-	-	-	-	-	60	60	60	60/70	70	70	80
10/18	10/20	9/18	8/12	10/18	12/20	12/20	12/23	12/24	12/24	20/30	16/30	19/30	15/28	18/30	24/30	25/40	20/35	25/55	22/50	15/55
60/65	60/65	70	-	-	-	70/80	70/80	70/80	70	70	70/80	60/65	60	-	50	-	-	-	-	-
10/16	10/30	23/35	29/40	20/55	25/60	20/70	15/50	15/55	10/40	13/40	8/25	8/23	5/20	4/9	5/12	5/12	5/10	6/15	6/10	5/12
60	70	-	90	80	70	60/70	70	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10/40	30/60	42/65	42/65	30/70	20/55	18/55	10/50	8/40	8/30	7/25	6/17	5/20	5/18	4/12	4/10	5/12	5/10	5/12	5/12	6/12
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	100	60	70	70/80	70/80	80	80	80
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20/50	15/30	12/30	8/20	8/20	10/20	15/18	15/20	12/20	10/20
125/130	125/140																			
95/110	95/110																			
150/70	130/70																			
90/90	90/90																			
-	-	-																		
80/90	70/100																			

フランスよりそれぞれ輸入。

2. 北伯、東北伯産のメロン、マラクジャの南伯における評価 (ベレン、レシフェ支部関係)

- I 調査者 中南米代表部
II 調査地 サンパウロ
III 調査期間 昭和48年12月

IV 調査内容

(1) メロン

CEAGESP(註)へのメロンの入荷は、大体年中あるが、サンパウロ産のものと北方産のものを調整し値崩れを防いでいる。北伯産(パラ-)のものは、6月~10月迄、東北伯産(パイア、ベルナンブッコ)のものは、2月~3月と5月~11月に出荷してもらうようにしている。(これ以外の月は、それぞれ地元及びリオへ出荷している。)

北からのものは、輸送の関係上、地元での選別を厳重にしてもらい、中級品以上を出荷してもらうようにしているが、サンパウロ産のものと品質的には大差ないが、一般的に甘味及び外観は、サンパウロ産のものより優れている。(但し、サンパウロ産も12月~4月のものは大差無い)。

サンパウロは必ずしも生産適地とは云えず生産費も高つくが、大市場に近い有利性がある。適地としては、東北伯であるが消費市場に遠いことの難点がある。即ち、将来大量生産出来たとしても(リオ、サンフランシスコ流域等)、メロンの「日もち」の点でサンパウロ産のものとは競争にならない。また、例えば10月~2月頃を狙って、欧州、アルゼンチンへ輸出するとした場合、品質的には充分国際商品たり得るが、航空機輸送ではコストが高つく過ぎるので、船輸送となるが、そのためには、やはり「日もち」を良くするように改良することが必要となってくる。

国内の市況をみて時折輸入されるスペインのメロンは、輸送期間中に熟するが乾燥地帯で栽培されたものだけに日もちがよい。

雨は、日もちのほか、味(糖度)、形、色にも大きく影響するので、栽培は雨期にかからないようにすることが肝要である。

メロンは、ブラジルの場合4~5年前迄は、バレンシアーノ種(緑色)を輸入し且つサンパウロでもこれを栽培していたが、その後メロン・アマレーロ種(黄色)がサンパウロとベルナンブッコで栽培されはじめ、70年頃から、パラ-、パイア、南ミナス、マラニオン、ピアウイ等に普及していった。現在栽培されているメロンは、殆んどこのアマレーロ種(メ

ロンは、多数の品種が入り混っているため、一般には色で区別している。即ち、メロン・アマレーロとグエルデである。)で味も良く、糖度も12度前後で申し分ない。また、熟度の判別は、グエルデは色による見分けが難しいが、アマレーロは容易である。

メロンを輸入に頼っていた頃は、高級果物として扱われ消費も少かったが、アマレーロ種普及で大量に出回るようになり、値も下がり一般化してきた。年々20万位の消費の伸びがあり、生産もこれに合わせて増している。

因に、CEAGESPの取扱量をみると、70年9万CX(CX/15Kg)、71年18万CX、72年23万CX、73年40万CXとなっており、74年は60万CX位の見通しである(CEAGESPは、メロン全生産の60%を扱っている由)。また、78年には150万CXを準備しないと消費に応じ切れない見通しである。

この様にメロンの需要は、国内においてここ当分増加の傾向にあるので、生産も拡大されるであろうが、前述の如く将来の輸出に備える意味でも「日もち」の向上のための適地における栽培技術の改良、品質の向上に一層の努力をしなければならない。

2月の値動きは、上等品1箱(15Kg/5~10個)で第1週目がCr\$40.00、第2週目がCr\$60.00、第3週目がCr\$90.00と上昇の一途を辿った。

73年度におけるCEAGESPの月別取扱量と平均価格(全国平均)は、別表1のとおりである。

なお、74年の作付からみた、北、東北伯産メロンの取扱予想では、ベルナンブッコものが減り、パイアのものが増え20万CX位、パラその他のものは10万CX位の見込みである。

(註) CEAGESP：サンパウロ中央市場

(2) マラクジャ

CEAGESPにおける1973年(統計上1月~11月迄)の馬拉クジャの取扱量及び月別の平均価格は、別表2のとおりである。これは、非加工用育果のみの統計であるが、一般的傾向として8月以降は極端に減少し、従って値段も高騰している。1973年の例では、11月に1箱(16Kg)Cr\$200.00の値がついた日が2日程あった由である。

サンパウロ方面において生産される馬拉クジャは、その殆んどが加工用である。即ち、ジュース工場との最低取引価格契約の下に(73年は、1Kg当り70センチターボス)直接工場に出荷するものである。

ジュース工場においては、概ね大規模工場は濃縮ジュースとして輸出向けとし、中小工場においては普通ジュースに加工して国内向けとしている(なお、これら加工工場は馬拉クジャ

の多生産期— 2月～10月頃迄— にのみマラクジャを扱い、それ以外の時期はドラランジ等の加工をしている。)

加工用マラクジャは、果皮に「しわ」が生じたものでも支障ないが、非加工用青果は「しわ」が生じたものは、著しく市場性が低下する。

マラクジャは、当分の間需要が伸びる見込みである。即ち、非加工用青果としての需要（「しわ」のないことが前提）、加工用としては、普通ジュース、アイスクリーム等飲料菓子としての国内消費の増加、国際市場におけるマラクジャ果汁の需要増に伴う濃縮ジュースとしての欧州への輸出増進等である。

一方生産量は、南伯とくにサンパウロ近郊においては、地価、人件費の高騰による生産費の上昇で頭打ちとなっており、減少する傾向にある。東北伯地方は、それらの点において有利であり生産拡大の可能性が大きい。が、今後、南伯市場に出荷する場合に考慮しなければならぬことは、①品不足高値の時期に出荷すること、②非加工用青果として出荷する場合には「しわ」による商品価値の低下を防ぐため収穫後出荷の迅速化、輸送改善等に努力を払うことが肝要である。

又、南伯の市況が不利な時期には、それぞれ地元において一旦第一次加工を施し、果汁化したものを南伯の大加工場に販売する方法等も検討するべきである。

別表1

メロソ

CEAGESP, 1973年月別取扱量と平均価格(CX/15Kg)

月	地域別取扱量(単位 CX)				Total	平均価格 Cr\$/CX
	サンパウロ	バイア	ペルナンブコ	パ.ラ.ー アマゾナス		
1	40,910	-	-	-	40,910	34.13
2	3,404	19,635	1,594	-	24,633	39.92
3	25,792	1,301	14,650	-	41,743	38.48
4	58,285	-	1,801	-	60,086	26.99
5	37,366	2,492	-	-	39,858	31.76
6	10,996	5,882	600	-	17,478	53.83
7	886	3,076	1,106	-	5,068	90.34
8	-	5,301	9,721	8,484	23,506	49.20
9	-	3,142	14,244	4,528	21,914	37.10
10	160	9,720	13,774	2,170	25,824	69.35
11	-	2,425	7,250	24,528	34,203	56.69
12						
Total	177,799	52,974	64,740	39,710	335,223	

(註) Total は12月末残計のため11月分迄。

別表2

マラクジャ

CEAGESP, 1973年月別取扱量と平均価格(CX/16Kg)

月	南伯産	東北伯産	平均価格 (CX/Cr\$)
	(サンパウロ, パラナ等)	(パイア, セルジッペ等) (ペルナンブコ)	
1	15,456	-	15.64
2	17,636	-	18.38
3	11,684	-	25.89
4	18,686	-	16.66
5	16,125	-	14.96
6	14,864	-	16.76
7	9,797	-	20.35
8	-	3,699	28.25
9	-	1,964	42.04
10	2,402	-	44.63
11	1,030	-	47.29
12			
Total	107,680	5,663	

(註) 12月末統計につきTotalは11月分迄

3. ネクタリンとブドウについて

サンパウロ及びその周辺における生産状況とポルト・アレグレ支部管内生産もののサンパウロ市場における評価（ポルト・アレグレ支部関係）

- I 調査者 中南米代表部
- II 調査地 サンパウロ及びサンパウロ周辺
- III 調査期間 昭和49年1月
- IV 調査内容

(I) ネクタリン

ネクタリンに関するサンパウロ農畜産組合(註)の担当技師, CEAGESPの果実担当者の説明及び見解は、概ね次のようであった(なお、サンパウロ周辺におけるネクタリンの生産、販売に関する統計はなく入手出来なかった。)

(A) サンパウロ周辺における生産状況

サンパウロ周辺におけるネクタリンの栽培は、2~3年位前から100km圏内(アチパイア、ジュンジャイ等)で始まったが、サンパウロ周辺は、大体どこでも栽培可能であるとのことであった。(サンパウロ農畜産組合管内における昨年の新植は、約2,000本、12月の出荷は、大体100箱程度)

これらの栽培品種は数種あるが、アメリカ種を改良した69号が多く、これは早生種のため甘味は劣るが、12月頃の市況の良い時期に出荷出来る。

この様に、サンパウロ周辺のネクタリンは、果実生産に占める比重は未だ小さく且つ味が劣る等の欠点を有するが、反面①早生種のため品薄の時期に出荷出来ること、②近距離のため輸送に便利なこと(ネクタリンは腐敗し易い)、③栽培上病気が比較的小さいこと等の有利性がある。なお74年のサンパウロ産の出荷量は、約50,000CXの見込み(CEAGESP)。

(B) 市況と将来性

ブラジルにおけるネクタリン栽培の嚆矢はラーモスであるが、当時は栽培本数が少ないため、出荷時期が限られ、量的にも少ないことから必ずしも良品でなくとも(小粒)珍重され、高級果実として需要もあり、収益もあった。しかしながら、前述の如くサンパウロ周辺等他地域で白人も栽培を始めるようになった結果、その品種や栽培地域の特性上出荷の期間も延長され(73年~74年は9月~2月位迄の間出廻る見通してある)且つ

量的にも多く出回るようになったが、これに伴って不良品が目立つようになってきた。これは、ネクタリンが有する最大の欠点として、腐敗が早く、病気に弱いことが挙げられるが、その防除のためには栽培管理（施肥、消毒等）の徹底が必要であるにも拘らず、最近の一般的傾向として、これが不充分であることに加え出荷時の選果が甘いためであり、粗悪品が多くなったことにより、高級果実としてのネクタリンの評価を低下せしめている傾向にある。

市場性においても楽観的でなく、甘味が他の果実より劣ること等から伯人の嗜好に必ずしも適さないため、大衆果実としての消費増が期待出来ないし、又、栽培管理上も特に病害対策において規模の拡大は危険であり、大量生産には不向きである。

市況も数年前と殆んど変わらず、12月（ナタールの贈答用）を除いては、値が低調である。紙面入り17個～18個入りのものを中級品とし、数が少なくなるほど上級品となり、（大粒が良い）、20個以上入るものは、殆んど市場性がない。

中級品の72～73年の値動きは、

10月～12月	25.00～30.00	1 CXCrf\$
12月～1月上旬	16.00	"
1月中～	7.00～10.00	"

（CEAGESP渡し）

が、大方の相場であり、この程度の値段では、サンパウロ周辺産のものでどうにか採算がとれるといったところである。

このようにネクタリンは、一般的に市場性の問題、栽培上の問題からして、生産・消費の増大が望めず、所謂大衆果実としての立地が不適であるため、量産すべく植栽され且つ管理不十分のものは、近い将来消滅するとみられている。従ってこの時において、小規模ながらも栽培と品質の管理を改良し徹底することによって良質の果実のみを出荷するよう努力することが、ネクタリンの高級果実としての地位を維持する上にとって肝要であるというのが、一致した意見であった。

(ウ) ラーモスの場合

このような一般的な背景も併せ、技術者として、又、流通担当者として、立場は異なるが、両者のラーモスのネクタリンに対する評価もまた厳しいものであった。

ラーモスの場合、その先達者として出荷をはじめてからしばらくの間は、大量結果させた小粒のものを出荷したが、当時はそれでも珍らしいため、需要もあり、収益も上った。しかしながら、他地域での生産が始まるにつれて、市況が低迷し出し、一方ラーモス産の

ものにも、栽培管理選果不十分による粗悪品や遠距離輸送による腐敗品が目立ちはじめた。この現象は、前述の如く、一般的傾向としても見受けられることであり、且つネクタリンそのものが有する欠点（初めに弱い、腐敗が早い）に起因するところも少なくないが、このまま推移するならば、国産ネクタリンの衰退（チリーからの輸入品は品質が良い）に及ぶことも懸念される。

このような管理不十分による粗悪品は、いずれ淘汰されるとしてもネクタリンはあくまでも高級果実として立地すべきであり、そのためには、ラモスにおいては、現有樹木管理をさらに徹底すると共に、品種、栽培技術の改良を試みて甘味の多い大粒の日もちの良いものを、市況の良い時期に、厳重な選果の下に出荷するよう努力することが肝要であろうとの意見であった。

(註) サンパウロ農畜産組合

Coop. Mista dos Hortigrajeiros de São Paulo.

(2) イタリヤブドウ

サンパウロ州におけるイタリヤブドウの栽培状況は、別表1のとおりである（サンパウロ州農務局統計資料による）。又、73年のCEAGESPにおける取扱量と月別平均価格は、別表2のとおりである。

イタリヤブドウの主な生産地は、サンパウロ州全域と、パラナ州北部（ロンドリーナ、マリンガ、アサイ等）であり、これらを除いた南伯地域（リオ・グランデ・ド・スール等）における生産は少量である。

サンパウロものは、10月頃からバストス等の温暖な地域を皮切りに出荷が始まり、11月頃からパラナ州北部ものが出回る。これらは殆んど2月頃迄に出戻してしまい、その後3月頃にリオ・グランデ・ド・スールものが出荷され、4月頃迄はサンパウロ近郊ものが出回る。

値動きは別表2でも歴然であるが、5月頃に品薄のため高騰する。又、12月のナタール前も値が良い。73年における最高値は1CX当りCr\$130.00、最低値はCr\$20.00であった。

リオ・グランデ・ド・スールものはサンパウロ産に比較して、土質の違いにも影響されると思われるが、糖度が17度位と高く、一般的に粒も揃っている（サンパウロものは糖度が16度以下のものが多く、粒も揃わない）。イボチのものは量的には少ないが、大分知名度が高くなってきているので、出荷時期を3～5月頃に照準を合わせ、栽培管理と選果を厳重にして、粒揃いで糖度の高いものを出荷するよう努力を続けることが大切である。巨峯は味

覚の点で伯人の好みにはあまり適さないくらいがあるので、当面消費の急増は望めず、量産には不安があるが、4月～5月頃に出荷出来るならば見込みはある。

従って、今後徹底した栽培管理の下に「量より質」を心がけ、高級ぶどうとしての銘柄と高価格を維持することが肝要である(コチアの担当者からは、ぜひイボチのぶどうを扱ってみたいとのことであった)。このことはとりもなおさず、大市場から遠隔地であることの不利性を補うことにもなる。

なお、参考途にイタリヤぶどうの周年栽培とMogi das Cruzes近郊におけるぶどう栽培農家の概要について付記する。

(ウ) イタリヤぶどうの周年栽培について

ぶどうの周年栽培は3年位前にインドで成功した。伯国においてはバストスで成功した後、昨年位から奥サンパウロ方面及びサンフランシスコ河流域で始められている。2期作の利点は市況の良い時期即ち5月と12月頃の出荷が可能となることである。2期作を行うためには、温度等の自然環境が適していることはもとより、肥培管理、剪定等栽培技術の改良が必要であるが、最も重要なことは地力の維持増強であり、このためには従来の化学肥料依存から堆肥利用に切替えることである。現在のところ雑草、ゴミ、糞等によって堆肥を自家製造するか購入して使用しているが、今後2期作が普及するための重要なポイントとして如何に良質の堆肥を大量に製造(又は入手)するかが問題となる。

(イ) Mogi das Cruzes近郊におけるぶどう栽培農家 K氏

Mogi市より6km地点。栽培面積1ha弱。栽培歴14年(この地区で古い人は30年の栽培歴を有する)。同地区は高温且つ日照が少ない等必ずしもぶどう栽培の適地ではないが、長年体験的研究を重ね、この土地に適合するよう改良の努力を続けてきた。例えば土壌管理(基肥は購入した堆肥を主としている)、土壌消毒(6月頃、石灰、散水による)、剪定(9月末)の工夫等々。

即ち、同地区で自然のままの栽培をしたのでは、3月頃までに収穫が終わってしまうが、これでは採算が合わない(1CXCr\$35.00以下では採算があわない。別表2参照)ので、4月～5月頃に出荷することを目標としてさらに研究、改良の努力を続けている。糖度の向上が最も困難であり、出荷時(4～5月)18度を目標としているが、そのためには3月位迄は13度～14度位に抑えておく必要がある。

昨年は3月末から5月まで出荷することに成功し、出荷平均価格1CX当りCr\$70.00で合計1,800CX出荷したが、今年は天候が良好だったこともあり熟期が早く、出荷を5月まで保たせることは殆んど不可能に近いということであった。

なお、K氏は他にびわも栽培しているが(300本)、びわには適地であり、且つぶどりに比べ栽培に手数がかからないので、当分の間は「ぶどう」と「びわ」の2本畑経営とする方針である由。

別表 1

高級ぶどう

(サンパウロ州) 郡名	71/72				72/73			
	本数1,000本		生産量 1,000箱	箱/本	本数1,000本		生産量 1,000箱	箱/本
	生産中	未生産			生産中	未生産		
Ourinhos	50	2	50	1.0	50	-	100	2.0
Ibiuna	20	-	40	2.0	20	20	60	3.0
Mairipora	40	20	200	5.0	100	-	25	0.25
Mogi das Cruzes	65	5	97.5	1.5	98.9	-	148.3	1.5
Ferras de Vasconse	40	0.8	80	2.0	20	-	40	2.0
Suzano	50	1.5	75	1.5	87	20	130.5	1.5
Jundiai	50	-	50	1.0	50	-	50	1.0
Biritiba Mirim	8.5	-	12.7	1.4	24.6	-	49.2	2.0
Atibaia	20	-	40	2.0	46.5	10	93.0	2.0
Bom Jesus do Perd	20	-	40	2.0	20	-	40	2.0
Pilar do Sul	33	12	132	4.0	43	10	129	3.0
São Miguel Arca	60	0.5	130	3.0	130	20	390	3.0
Mairinque	15	-	60	4.0	15	-	60	4.0
Campinas	44	15	128	2.9	44	14.8	88	2.0
Sorocaba	30	5	60	2.0	36	1	90	2.5
São José dos Camp.	15	13	45	3.0	20	15	50	2.5
合計	799	264	1,655		1,408	150	2,655	

(註) 合計はその他の郡も含む。

別表2

ウーパイタリヤ

(CEAGESPにおける1973年の月別取扱量と平均価格)

月	入荷量(1CX8Kg)	平均価格(1CX)
1	143,690 CX	31,70 Cr\$
2	229,372	25,80
3	189,006	29,77
4	60,392	41,99
5	5,092	81,46
6	-	-
7	-	-
8	-	-
9	672	111,10
10	5,964	97,30
1.1	?	?
1.2	?	?
計	634,188	

(註) 11, 12月は未統計

4. かきとびわの主要生産地における栽培状況

(ポルト・アレグレ支部関係)

- I 調査者 中南米代表部
- II 調査地 サンパウロ州
- III 調査期間 昭和48年
- IV 調査内容

(I) かき

サンパウロ州におけるかきの主要生産地とその栽培状況は別表1のとおりである(71/72, '72/73, サンパウロ州農務局統計資料による)。また、1973年のCEAGESPにおける月毎の取扱量及び平均価格は別表2のとおりである。

かきに関するCEAGESP及びサンパウロ農畜産組合の担当者(技師)の説明は概ね次のようであった。

別表1でも判るように、かきの生産地は主としてサンパウロ近郊に集中しているが、これは従来「しぼ」を抜いた後のかきは日もちが悪く(2日程しかもたない)市場への輸送に難点があったためである。しかしながら、その後、エチレンガスによる「しぼ」抜き方法に改良されてからは、「しぼ」を抜いた後も5日間位もつようになり、且つ道路事情の改善による輸送力の向上もあって栽培地域はリオ方面等の遠隔地に拡がってきている。一方近郊においては近年の都市化現象による地価上昇のため新植数が頭打ちであるばかりでなく、成木ですら管理を放棄されている例が増えてきている(Mogi das Cruzes の例では市街地の拡大に伴い成木が管理されずに放置されている果樹園が特に幹線道路沿いに少なからず見受けられた)。従って今後は、輸送力の向上に伴って、地価の比較的安い遠隔地方面における栽培が増える見込みである。

一方、消費面においては、当初食しなかった白人の間にも需要が増えてきている(甘味が高いので好評である由)ので、まだまだ増産の余地があるとの見通しであった。

Mogi das Cruzesより11km地点の幹線道路から外れたところで「かき」と「びわ」を主として大規模栽培を行っている農家O氏(別表3参照)は、かき1550本、びわ1000本を所有し、73年度における総売上は、かきCr\$110,000.00、びわCr\$700,000.00とのことであった。O氏は出荷に当っては、スールブラジル等の組合と仲買人業者の値の良い方に出荷しており、採算があれば航空機輸送により欧州へ輸出もしている由である。「かき」も「びわ」も栽培管理が比較的容易であること、遠隔地における栽培にも決定的に不利

な要因が無いことから、大規模経営に適しているといえる。

(2) びわ

サンパウロ州におけるびわの主要生産地とその栽培状況('70/71, '71/72, '72/73
サンパウロ州農務局統計資料による)及びCEAGESPにおける月別取扱量と平均価格は、
それぞれ別表4及び5のとおりである。

主要生産地は大体かきと同じ地域であり、かきと同様の状況を呈している。即ち、急速な
都市化現象によって近郊ものは減りつつあり、次第に遠隔地へ移行する傾向にあるが、この
遠隔地ものの生産が本格化するまでは生産が伸び悩むであろうとの見方であった(サンパウ
ロ農畜産組合の技師)。

びわは出荷時期が8月頃から他の果物が少ない時期に出廻るという利点がある。消費も
伸びており、リオとサンパウロの市場だけで需要に応じ切れない状況にある。栽培品種は
「みずほ」と「たなか」が殆んどである。

気候的にはリオ・グランデ・ド・スール方面に適しており、且つ他の果物に比べ「日もち」
が良いため遠隔地での栽培も不利にはならず、加えて病虫害が少く栽培が容易である等「か
き」と同様遠隔地における大規模栽培に適している。ただし、隔年結果性が強いので、剪定
等によるこれの抑制、又果実の大粒化(大粒の方が商品価値が高い)、出荷箱づめの方法等
に改良の必要がある。

別表1

か き

郡名	71/72				72/73			
	本数1,000本		生産量	箱/本	本数1,000本		生産量	箱/本
	生産中	未生産	1,000箱		生産中	未生産	1,000箱	
Indaiatuba	5	2	20	4.0	9	9	36	4.0
Embu Guacu	20	-	160	8.0	9	-	27	3.0
Campinas	14.6	4.6	28	1.9	14.6	4.6	28	1.9
São Paulo	202	-	60.6	3.0	202	-	60.6	3.0
Guarulhos	20	2.5	40	2.0	15	2	30	2.0
Mogi das Cruzes	219	1.2	1,095	5.0	2202	-	110.1	5.0
Biritiba Mirim	68	19.5	204	3.0	46.4	-	232.2	5.0
Guararêma	10	1.5	40	4.0	10	1.5	40	4.0
Jundiaí	18	1	20	1.1	23	-	115	5.0
Suzano	28	-	70	2.5	28	-	70	2.5
Louveira	45	-	90	2.0	45	-	90	2.0
Atibaia	30	10	300	10.0	30	10	300	10.0
Itatiba	16	1	48	3.0	12	-	48	4.0
Solocaba	5.1	0.1	30.6	6.0	5.2	-	52	10.0
Taubaté	80	20	160	2.0	80	5	160	2.0
Tremembé	30	3	60	2.0	30	30	60	2.0
Pindamonhagaba	7.5	-	22.5	3.0	7.5	-	22.5	3.0
合計	795.8	62.6	2878.5		798.5	91.6	2908.3	

(註) 合計はその他の郡も含む。

別表2

かきの取扱量及び平均価格
(1973, CEAGESP)

月	取 扱 量 (CX)	平均価格
2	(4 Kg) 4 7 0	Cr\$ 1 8.2 5
3	(4 Kg) 4 4,9 7 7	1 3.6 6
	(2 6 Kg) 1 3 7,5 4 2	1 9.5 4
4	(4 Kg) 5 4,7 0 9	7.2 2
	(2 6 Kg) 1 7 1,3 9 6	4.9 9
5	(4 Kg) 1 1,0 0 6	1 0.6 6
	(2 6 Kg) 4 8,8 2 4	3 3.0 2
計	(4 Kg) 1 1 1,1 6 2	
	(2 6 Kg) 3 5 7,7 6 2	

(註) 4 Kg入りは主として富有

2 6 Kg入りは混合(淡)

別表3

Mogi das Cruzes より11km地点O氏(在伯40年)

1. 栽培作目 かき, びわ, 柑橘
2. 栽培面積 30アルケール
3. 出荷先 スールブラジル, 仲買
輸出(欧州一独, 英, 仏)……空輸……主としてかきは独, 英, びわは仏。
4. 栽培内訳
 - (1) かき

Rama forte	15年生1,000本, 4年生1,200本
Ibrido	500本
所有	50本
 - (2) びわ
たなか及びみずほ 15年生1,000本
5. 生産状況(1973年)
 - (1) かき 5,000 CX(29Kg), 年平均価格Cr\$ 22.00(例年より低目)。
 - (2) びわ 11,000 CX(5Kg), 年平均価格Cr\$ 60.00~70.00(5~6月に最高Cr\$ 165.00)。

別表4

郡別(サンパウロ州)農作物生産統計

びわ

郡名	70/71				71/72				72/73			
	本数1,000本		生産量 1,000箱	箱/本	本数1,000本		生産量 1,000箱	箱/本	本数1,000本		生産量 1,000箱	箱/本
	生産中	未生産			生産中	未生産			生産中	未生産		
Sao Paulo	30	-	90	3.0	30	-	90	3.0	30	-	40	1.3
Guarulhos	10	3	20	2.0	12	3.5	120	10.0	3	0.3	30	10.0
Aruja	10	1	20	2.0	10	2	100	10.0	1.5	0.2	15	10.0
Mogi das Cruzes	51	4.5	1785	3.5	55.5	-	194.2	3.5	71.8	-	251.3	3.5
Biritiba Mirim	125	1.5	43.1	3.5	15	-	51.7	3.5	8.4	-	29.5	3.5
Suzano	0.5	-	25	5.0	5	-	17.5	3.5	5	-	17.5	3.5
Atibaia	-	-	-	-	10	5	200	20.0	10	5	200	20.0
Bom Jesus dos Pedoes	3	0.5	54	18.0	3	0.5	54	18.0	3	0.5	52	17.3
Jacarei	-	-	-	-	0.9	-	45	5.0	0.9	-	9	10.0
Campo Bonito	0.4	-	4	10.0	0.4	0.1	4	10.0	0.4	0.1	4	10.0
Guararema	2	0.5	12	6.0	2	0.5	12	6.0	2.5	-	6	2.4
Salesópolis	-	-	-	-	1	0.1	9.5	9.5	1.5	1	6	4.0
Itupeva	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	20	20.0
Jarinu	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	40	20.0
Ribeirão Pires	2	-	6	3.0	2	0.5	6	3.0	2	0.5	6	3.0
合計	123.44	14.73	409.54		160	18.9	869.5		157.3	14.9	794	

(註) 合計はその他の郡も含む。

別表5

ピワの取扱量及び平均価格
(CEAGESP)

年 月	取 扱 量 (CX)	平均価格
1972・8	15,908	31.98 Cr\$
9	28,500	28.75
10	38,438	25.09
11	4,746	32.22
合 計	87,592	

年 月	取 扱 量 (CX)	平均価格
1973・6	3,199	37.50 Cr\$
7	33,411	25.58
8	95,986	15.28
9	49,934	20.02
10	28,043	24.90
合 計	210,573	

(註) 1CX=5kg

別表 6

Mogi das Cruzes 1.76km 地点 K 氏

びわ成木 300 本 (12 ~ 14 年生), たなか種…… (ほかにもブドウ栽培 → 3 項記載)

1973 年販売 3,000 CX (5Kg)

1 CX 平均 Cr\$ 60.00

1954 年以來みずほ、もぎ、たなか等いろいろな品種を試作し、適種 (たなか) を得るまで 10 年の歳月を要した。モジはブドウには不適だが、びわ特に「たなか」には適している由。

病虫害に強く比較的手間がかからず、日もちも良いので出荷輸出にも問題が少い。このため、K 氏の場合つい消毒、肥培管理がおろそかになり (ブドウに気をとられすぎたこともある)、幹に癌腫が発生しはじめた。又、隔年結果性が強いため、これを剪定等により抑制することが大切である。

3 項 (ブドウ) でも述べた如く、K 氏は当分の間手塩にかけた手間のかかるブドウと比較的手間のかからないびわとの 2 本建経営の方針である。

5. ピメント、カカオ、丁字の輸出統計

(ペレン、レシフ = 支部関係)

- I 調査者 中南米代表部
- II 調査地 ブラジル国
- III 調査期間 昭和48年

1973年1月から9月までの、ピメント、カカオ、丁字の輸出先国別、輸出港別の統計は、別表のとおりである。

これは、CACEX (註)の資料に基づいて調査したものであるが、9月以降の資料は未発行のため、統計できなかった。

(註) CACEX: ブラジル銀行貿易局

(別表)

カカオ, ピメント, 丁字の輸出統計

EXPORTAÇÃO (CACEX)

1. Cacao em grão
2. Pimenta (do genero "PIPER", exceto em pó)
3. Cravo-de-India ou Cravo-de-Cheiro

INDICE ALFABETICO DO MANUAL DE ATUALIZAÇÃO
DA TARIFA ADUANEIRA DO BRASIL

1. Cacao	18.01.00.00
2. Cravo-de-India	12.07.06.00
ou	09.07.00.00
3. Pimenta	09.04.01.00
ou	09.04.03.00

(参考)

ENDERECO

Banco do Brasil - Agencia Centro

Rua Presidente Vargas, 328

Divisão de Estatística e Nomenclatura - sala 1001-B

PIMENTA (ピメント)
(do genero "PIPER", exceto em pó)

輸出先国別	JAN/SET 1973		
PAIS	QUANT. Kg	P/MEDIO	FOB Cr\$
Alemanha Oc.	1,219,300	1.072	8,015,583
Alemanha Or.	300,000	0.877	1,625,464
Argentina	330,250	1.355	6,870,656
Belgica-Luzem	90,000	1.281	708,527
Bolivia	300	1.273	2,352
Chile	62,750	1.060	106,713
Colombia	60,000	1.110	406,828
Espanha	24,000	1.228	152,149
Estados Urd.	2,997,000	0.971	17,324,012
France	1,046,900	1.184	7,579,428
Israel	400	1.188	2,936
Italia	32,500	1.058	210,603
Marrocos	45,000	1.102	301,799
Mexico	445,500	1.185	3,223,602
Países Baixos	243,590	1.219	1,829,562
Paraguai	360	1.442	3,143
Peru	502,200	8.971	2,998,640
Portogal	1,500	1.867	51,077
Reino Unido	312,500	1.231	2,372,590
Rep. Dominicana	5,000	0.780	24,104
Buica	12,500	1.182	91,317
Uruguai	65,100	1.391	552,081
Venezuela	70,500	0.963	419,682
TOTALS	8,370,150	1.086	55,673,138

輸出港別

EMBARQUE	QUANT Kg	P/MEDIO	FOB Cr\$
RO-Guajara-Mirim	300	1.273	2352
Manaus-AM	15,000	0.840	77,874
Belom-PA	7,700,140	1.092	51,500,082
Rio-GB	490,950	0.991	2,989,103
SP-Campinas AER	800	0.440	2176
Santos-SP	117,500	0.949	637,739
PR-Foz do Iguazu	250	1.404	2127
Faguarão-RS	38,400	1.476	344,951
RS-Santana Livr	5,000	1.579	48,361
Uruguaiana-RS	1,700	1.642	16,915
MT-Ponta Porão	110	1.527	1,618

CACAO (カカオ)
JAN/SET 1973

輸出先国別

PAIS	QUANT Kg	P/MEDIO	FOB Cr\$
Alemanha Oc.	51,000	0.733	231,057
Argentina	5,554,560	0.904	30,746,584
Australia	19,980	0.840	102,549
Canada	60,000	1.029	374,218
Chili	160,700	0.842	834,294
Dinamarca	30,000	0.981	178,370
Espanha	9,915,280	0.853	52,209,392
Estados Und.	19,589,220	0.807	96,692,965
France	30,000	1.411	256,539
Hungria	999,900	0.770	4,730,704
Italia	30,000	1.032	187,594
Paises Baixos	1,680,000	1.766	17,980,304
Reino Unido	54,960	0.592	317,236
Romenia	453,180	1.036	2,345,964
Suecia	18,000	0.790	87,366
U.R.S.S.	6,170,040	0.769	28,739,765
Uruguai	305,681	0.864	2,666,919
TOTALS	45,322,501	0.864	239,182,340

CAOAO

Continuação

輸出港別

EMBARQUE	QUANT Kg	P/MÉDIO	FOB Cr\$
Itacoatira-AM	274,320	0.856	1,425,593
Manaus-AM	142,000	0.800	689,839
Belém-PA	883,500	1.067	5,726,885
Obidos-PA	65,000	1.115	439,331
Ilhéus-BA	34,111,800	0.345	1763,985,280
Salvador-BA	3,511,500	0.923	19,733,032
Vitoria-RS	1,781,400	0.764	8,283,219
Faguarão-RS	540,661	0.862	2,842,428
RS-Santana Livr.	60,000	0.933	339,273
Uruguiana	3,952,320	0.966	23,310,162

CRAVO-DA-INDIA OU CRAVO-DE CHEIRO (丁字)

JAN/SET 1973

輸出先国別

PAIS	QUANT Kg	P/MEDIO	FOB Cr\$
Argentina	6,870	4.517	90,332
Belgica-Luxem	1,000	3.750	22,727
Colombia	4,000	3.863	94,332
Estados Unid.	35,000	3.326	719,395
Venezuela	1,250	3.570	27,577
TOTALS	48,120	3.556	1,054,363

輸出港別

Embarque			
Salvador-BA	35,000	3.326	719,395
Rio-GB	13,120	4.690	334,968

... ..

... ..

... ..

サント・ドミンゴ支部編

1. 主要野菜5品種市況について

1. 主要野菜5品種，市況について

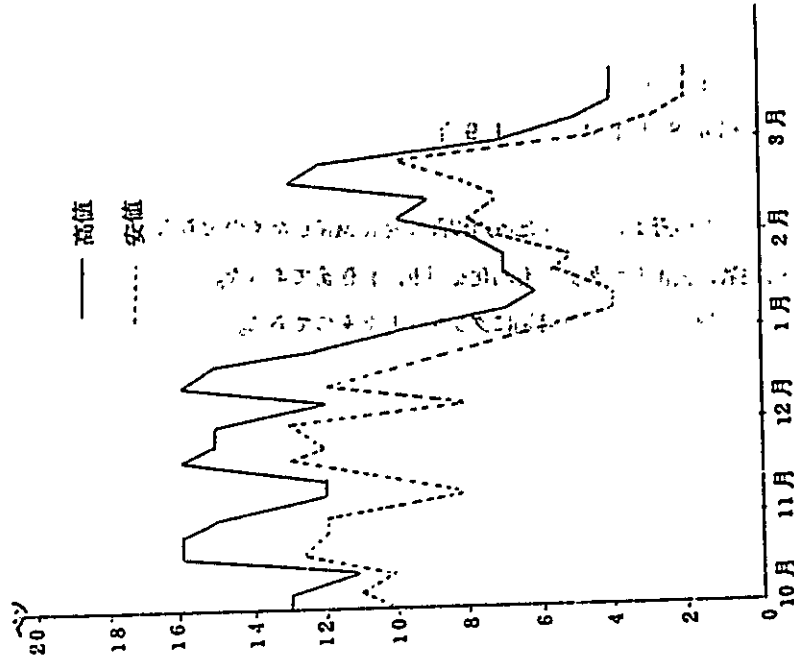
I 調査者 サント・ドミンゴ支部

II 調査期間 昭和48年10月～49年3月

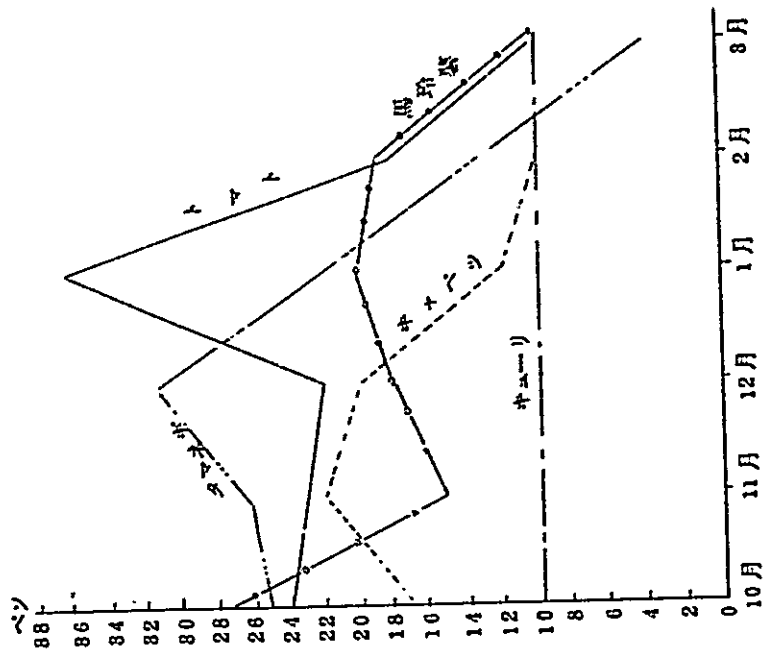
III 調査内容

本調査は直動きのはげしい野菜市況を現地流通機関に委託調査したものであるが、この入手した市況を敏速に移住者に提供して販売の有利化を図り、有意義であった。

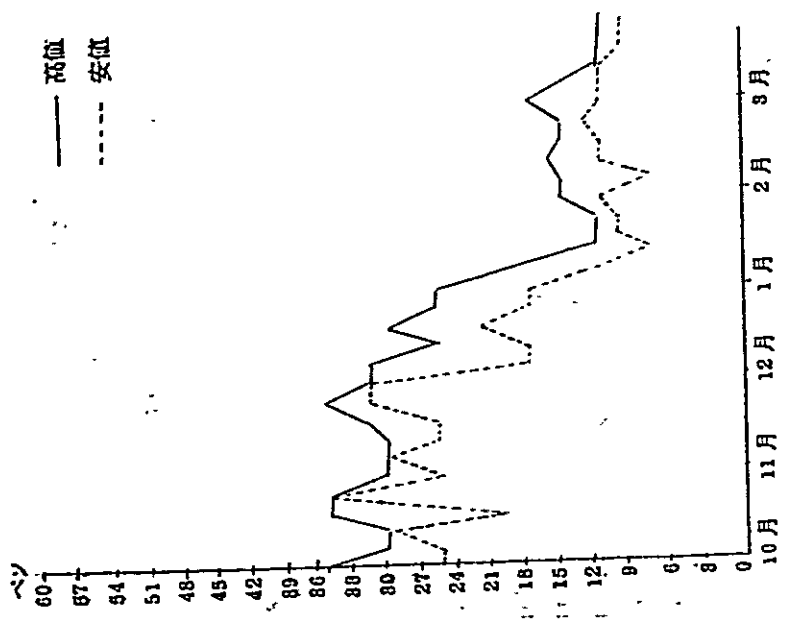
以下表I～VIはその市況をまとめ、作目別にグラフ化したものである。



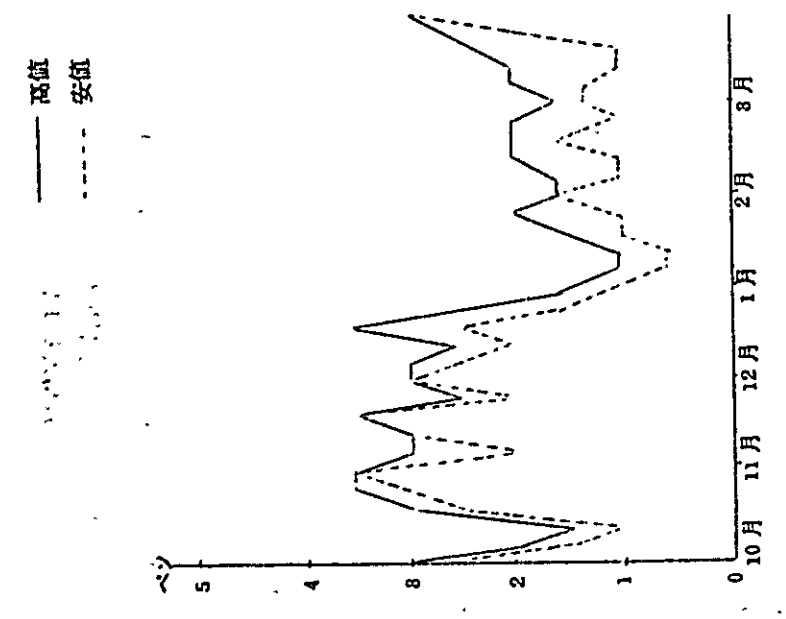
Ⅱ 図 トマト卸売価格表
(100ポンド入1箱)



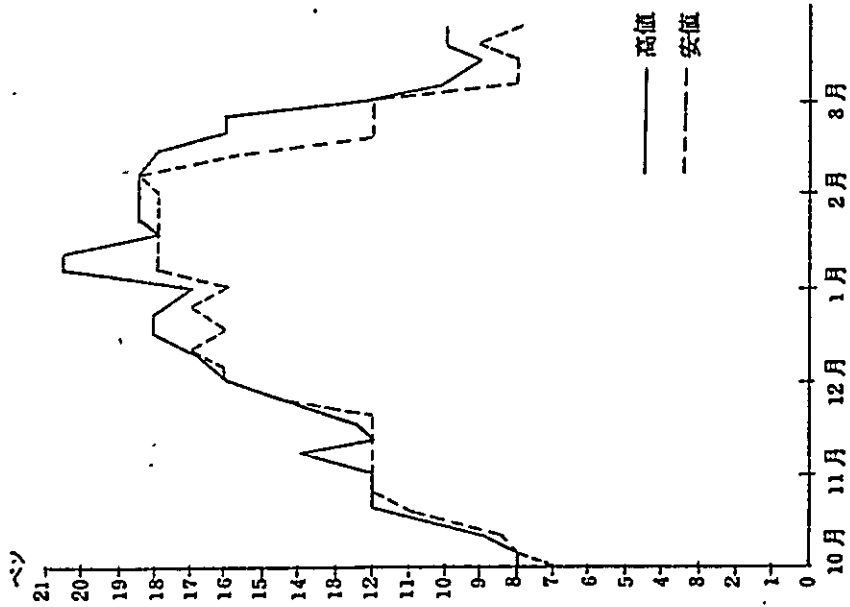
Ⅰ 図 48年10月～49年3月小売価格表
(100ポンド当り)



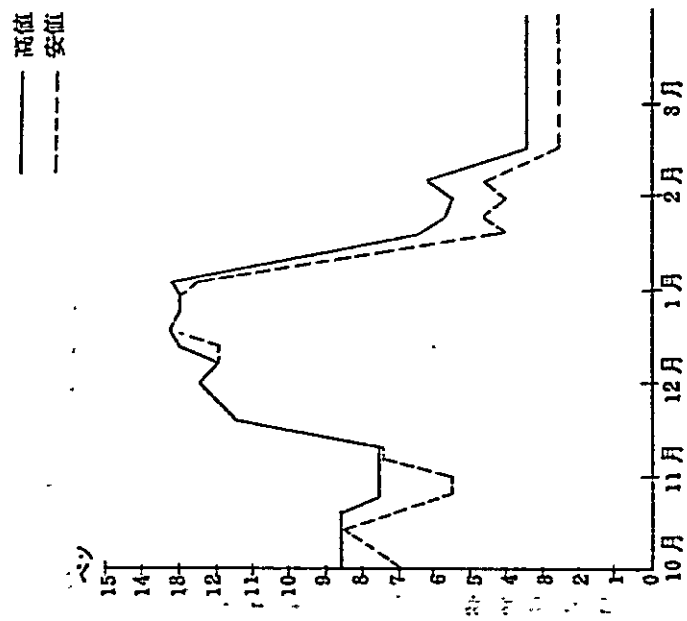
Ⅲ図 チャベツ卸売価格表
(100ヶ当り)



Ⅳ図 クマクリ卸売価格
(60~70ポイント入り1袋)



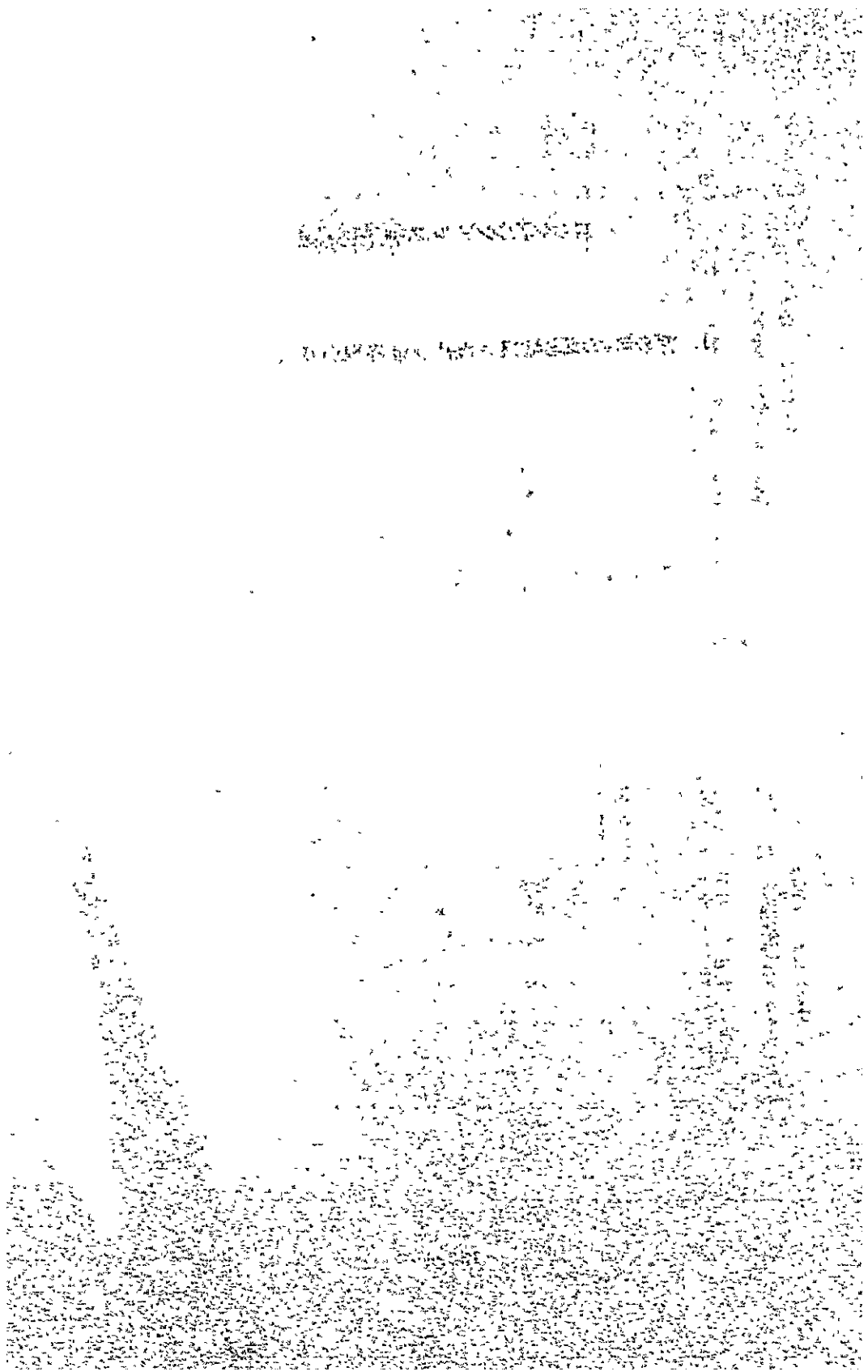
VI図 馬鈴薯卸売価格表
(50kg入り1袋)



V図 タマネギ卸売価格表
(50kg入り1袋)

ロスアンゼルス駐在員編

1. 香辛料の米国輸入状況及び世界取引状況について



1. 香辛料の米国輸入状況及び世界取引状況について

I. 調査者 ロスアンゼルス駐在員

II 調査内容 1974年4月発表

米農務省資料 FTEAI-74より

1. 概況

殆んどあらゆる香辛作物の価格上昇を反映して、米国の1973年の葉味及び香料の輸入額総計は、1億100万\$の史上最高に達した。これは1972年のトータル8,600万\$を17%上回るものである。総量では、133,350トンで、1972年の143,300トンを7%下廻ったが、原因は主として西洋からし種の荷受けが25%ドロップした事である。

〔黒胡椒〕の輸入は、1973年は22,540トン(2,270万\$)に達した。1972年は21,500トン(1,830万\$)であった。

〔ゴマ〕の輸入は、記録的な線に達し、23,700トン(1,020万\$)で、1972年の21,400トン(820万\$)を上廻った。

〔OREGANO〕の輸入も1973年は前代未聞の量であった。

〔肉桂〕の輸入は、1973年上昇したが、〔シナモン〕は輸入額において微減した。〔丁香〕は供給不足と高価のため、輸入は制限され、1972年よりも35%下落した。〔ナツメグ〕及び〔にくづく〕の輸入はこれらの価格の急上昇があったにもかかわらず盛況であった。

1973年を通じ高価格が全般に及び、いくつかの要因—主要産地のうちの数国における気候不順、\$の下落、生産コストの上昇及びインフレ懸念や通貨不安がもたらす強い商品需要など—により1974年も、この状況は継続しよう。また石油不足は船積遅延及び運賃の上昇をもたらし、高い価格水準の一因となっている。

2. 胡椒(PEPER)

インド及びマダガスカル輸出増大を反映して、1972年の世界の白・黒胡椒の輸出は、1971年の総積量(約86,630トン)をやや上回る88,450トンと見積られる。

1973年における世界の輸出量は、インドの総積増加で、多少増加しているものと考えられている。

1973年の胡椒国際価格は、例年をはるかに超えた。「LAMPONG」胡椒のニューヨーク市場価格平均は1ポンド当り5.68C(キロ当り1\$2.5C)で、1972年の価格が4.56Cであったのに比してほぼ25%上昇である。

1974年の第1四半期における胡椒の価格は、依然高価に推移している。ニューヨーク市場

の「LAMPONG」黒及び「MUNTOK」白の平均は、それぞれポンド当り70.7C(キロ当り1\$56C)及び1\$9.4C(同2\$41C)と、相当なものである。

〔インド〕1973～74年(11月～10月)産量は、約34,900トンで、1972～73年(11月～10月)が38,100トンであったのに比べ8%減である。この期の国内消費は、堅調を保ち、13,600トンと予想されている。

インドの1972年における黒胡椒の輸出は、20,600トンで、1971年の輸出量16,910トンに比べ22%増である。1972年の主たる買手は、ソ連(9,430トン)、ポーランド(1,540トン)、米国(1,450トン)、ユーゴ(1,270トン)、カナダ(1,220トン)、イタリア(1,080トン)、ハンガリー(1,040トン)であった。

暫定資料であるが、1973年1月～10月の輸出は、合計すると、ほぼ51百万ポンド(23,130トン)である。主たる行先地は、ソ連(8,500トン)、東欧諸国(6,000トン)、米国(4,000トン)及びイタリア(2,000トン)である。

〔インドネシア〕1973年の産量は、1972年の27,670トンを上回る30,000トンと見込まれている。

インドネシアの白・黒胡椒の輸出量は、1972年総計22,770トン(1,910万\$)で、1971年23,600トン(2,420万\$)をやや下廻った。1973年の5月までの輸出量は、8,160トン(790万\$)と発表されたが、1972年同期は8,480トン(720万\$)であった。

〔サラワク〕1972年における胡椒輸出は、26,080トンである。これは1971年の26,900トンをやや下廻る。

輸出の殆んどは、依然シンガポールを仲送地としており、1972年は84%がシンガポール経由であった。

1973年の8月までの輸出は、1972年同期が19,500トンであったのに比べ、17,730トンと策計された。

〔シンガポール〕シンガポールから再輸出された量は、1971年が35,150トンであったが、1972年は34,200トンで、やや前年を下廻った。米国がその半を輸入し、主たる市場となっている。

〔ブラジル〕1973年の産出は、1972年の収穫14,500トンを上回るものと見込まれている。

1972年の輸出は14,290トン(1,270万\$)で、記録的な1971年の17,320トン(1,490万\$)を17%下廻った。

1973年の6月までの輸出は、5,900トンで、1972年同期が3,270トンであったのに比

べ激しく増加している。

〔マダガスカル〕1972年の輸出は、記録的な4,170トンに達した。これは1971年の船積量1,270トンの一躍3倍以上である。

1973年の8月までの輸出量は、2310トンであって、1972年同期の2,540トンを僅かに下廻った。

3. 丁 字(CLOVES)

丁字については、供給不足と高価格が継続している点、この商品相場の特徴である。

ニューヨーク市場におけるマダガスカル産丁字の1974年初期の価格は、1973年3月のポンド当り1.79\$（キロ当り3\$95）の水準から、ポンド当り2.60\$（キロ当り5\$73）にはね上った。

〔マダガスカル〕丁字の1972年の輸出は、1971年の船積量7,485トンを18%以上も下回り、6,125トンであった。1973年の8月までの輸出量は、僅かに2,540トンで、1972年同期では4,175トンであった。

〔米国〕丁字の1973年の輸入は、1972年の輸入量1,315トンを35%も下回る860トンであった。これは、マダガスカル産の輸入量が少なかったことによる。

丁字油の輸入もまた少なかった。1972年の輸入は816トン（250万\$）に比べ、545トン（250万\$）に止まった。

〔タンザニア〕1972年の輸出は、11,750トンで、これは1971年の船積量9,030トンの30%増である。1972年物の主たる荷揚港はインドネシア（10,880トン）、シンガポール（680トン）であった。

4. 肉 桂(CASSIA)

インドネシアの肉桂輸出は、1971年2,860トンであったのに対し、1972年は28%増の3,675トンであった。1973年の上半期の船積量は、2,400トンであるが、1972年同期は1,590トンであった。

ニューヨーク市場での、インドネシア「PADANG A」肉桂は、昨年中ポンド当り1.12\$（キロ当り2\$47）を続け堅調であった。

インドネシアからの船積量増大の結果、米国の1973年の肉桂の輸入は、5,220トン（730万\$）にのぼった。1972年は4,000トン（470万\$）であった。1973年のインドネシアからの輸入は3,580トンであって、前年の62%増加であった。

5. 西洋がらし(MUSTARD)

米国は、からし種子の需給をカナダに仰いでいる。暫定的データによれば、1973年のカナ

ダのからし種子の生産量は118,840トンで、1972年には僅か68,720トンであったのに比べ73増である。1972年の耕作面積は180,000エーカーであったが73年は335,000エーカーであった。

1973年の1エーカー当り収穫は355キロで、1972年では381キロであった。

米国のからし輸入量は、1972年47,040トン(500万\$)を記録した。その中の46,220トン(470万\$)はカナダからであった。

1973年の米国のからし種の輸入総量は、僅か35,200トンで、前年に比べ2.5%も下廻った。これは高価と供給ひっ迫によるものである。

カナダからの輸入は、34,560トン(580万\$)であった。供給量の増大したカナダの1973年産が市場に出廻りはじめており、1974年の輸入量が増加することは必至である。

6. バニラ (VANILLA)

〔マダガスカル〕1972年のバニラ輸出は、1971年の1,160トンを上廻り記録的な1,220トンに達した。1972年の主たる荷受地は、米国(820トン)、フランス(236トン)、西独(118トン)であった。1973年の8月までのバニラ輸出量は367トンであって、1972年同期の413トンより1.1%下廻った。

1973年7月、マダガスカル政府は、ドルの下落を理由として立合所の公定価格をキロ当り13\$40からキロ当り16\$20に上げた。しかし、この一方的な上げは、米国のバニラ業界の強い抗議を受け、8月末には従前のレベルに戻された。この価格は、バニラ同盟(マダガスカル共和国COMORO島及び近隣より成る)と、米国バニラ業協会との間に結ばれたバニラ取引協定の第12次計画の終了まで有効である。この第12次計画は、1974年3月末で終るが、13次計画(1974~75年)下での価格は、引続き上げられるものと予想される。

〔インドネシア〕1972年のバニラ輸出は、135トンで1971年の総積量131トンを僅かに上廻った。1973年の6月までの間の輸出は、80トンで、1972年同期は77トンであった。

〔米国〕米国のバニラ輸入は、1973年1,060トン(1250万\$)で、1972年の過去最高1,075トン(1,120万\$)を僅かに下廻った。

◎ 1974年4月発表

米農務省資料FTEAI-74

別添 FAO 統計資料

SPECIFIED CONDIMENTS AND FLAVORING MATERIALS; APPROXIMATE NEW YORK SPOT PRICES
AS OF EARLY MARCH, 1966-1974

(In cents per pound)

Item	1966	1967	1968	1969	1970	1971	1972	1973	1974
ALLSPICE (PIMENTO):									
Jamaican	136	92	80	78	85	95	107	96-101	110
Guatemalan	135	76	79	(1/)	83	72	95	95	78
ANISEED:									
Spanish	32	40	34	30	28	36	51	80	185-200
BASIL:									
Bulgarian	(2/)	(2/)	(2/)	(2/)	(2/)	70	55	50	48
Hungarian	(2/)	(2/)	(2/)	(2/)	(2/)	95	82	68	72
CAPSICUM PEPPERS:									
Japanese, Santakas	39	44	39	35	39	80	69	55	80
Turkish	38	40	31	35	33	45	57	41	54
CARAWAY:									
Dutch	21	19	20	23	21	34	52	240	79
Polish	20	17	18	23	20	34	52	240	79
CARDAMOM SEED:									
Greens	425	325-360	225-245	260-350	600	350-490	235-325	250-300	230-231
Decorticated	695	600-650	360-420	300-350	630-750	500-550	325	230-240	270-271
CASSIA:									
Indonesian									
Padang A	82	89	90	(1/)	170	140	115	112	112
Padang B	80	86	86	(1/)	160	130	100	100	66
CELERY SEED									
French	48	43	45	63	275	81	46	44	50-56
Indian	21	24	27	54	225	37	39	36	40-44
CINNAMON:									
Sri Lanka (Ceylon)	145	123	93	89	72	66	62	55	84
Seychelles	20	19	27	57	38	28	41	55	53
CLOVES:									
Malagasy	38	40	38	117	220	160	175	179	260
CORIANDER SEED:									
Moroccan	11	17	17	13	14	14	17	18	20
Romanian	10	13	14	11	12	14	13	15	17
CUMIN SEED:									
Iranian	42	29	20	24	25	34	37	39	72-78
DILL SEED:									
Indian	20	18	20	20	34	27	25	31	34
FENNEL SEED:									
Indian	27	26	27	32	48	37	34	40	46-49
FENUGREEK SEED									
Moroccan	11	12	12	11	11	11	13	17	24
GINGER:									
Indian, Cochin ..	36	24	25	53	85	48	30	40	50
Nigerian, peeled	28	23	20	34	70	48	44	58	(1/)
LAUREL LEAVES:									
Turkish	14	16	24	20	20	20	27	49	(1/)

(Continued)

SPECIFIED CONDIMENTS AND FLAVORING MATERIALS: APPROXIMATE NEW YORK SPOT PRICES
AS OF EARLY MARCH, 1966-1974--CONTINUED

(In cents per pound)

Item	1966	1967	1968	1969	1970	1971	1972	1973	1974
MACE:									
East Indian	175-260	153-185	100-143	91-115	92-140	87-125	91-140	250-300	360-375
MARJORAM:									
French	62-65	38	37	82	88	77	69	67	75
MUSTARD SEED:									
Canadian Yel. No.1:	11	12	13	10	10	10	11	35	35
NUTMEGS:									
East Indian	145-150	108-125	60-65	50-68	65-70	57-62	58-64	100-108	160-161
West Indian	140-150	107-115	43-60	55-65	63	54	52-54	100	140-141
ORIGANUM:									
Greek	48-54	32-40	32-37	30-42	34-45	39-46	38-46	38-47	125-140
Mexican	28	30-31	29-30	27-29	30	31	32	(1/)	90-95
PAPRIKA:									
Spanish	32-56	36-42	32-44	35-48	36-48	38-52	55-73	78-80	58-88
PEPPER, BLACK:									
Indonesian, Larpong	45	31	34	30	57	56	45	56	80
Indian, Malabar ...	45	38	37	39	57	56	49	54	80
Brazilian	43	30	31	26	40	42	45	52	80
PEPPER, WHITE:									
Indonesian, Muntok:	62	47	37	34	50	49	63	72	113
POPPY SEED:									
Dutch	30	25	23	37	39	35	30	38	46
Turkish	26	19	18	28	33	29	26	30	39
ROSEMARY:									
Portuguese	8	13	11	13	12	16	22	24	29
SAGE:									
Albanian	28	30	30	32	35	44	60	60	60-68
SAVORY:									
Yugoslavian	17	14	14	39-45	60	54	43	38	(1/)
SESAME SEED:									
Unhulled	16-20	16-20	15-18	17-20	23	20-24	22-26	21-25	50
THYME:									
French	34	33	33	32	33-42	38	42	47	49-56
Spanish	20	18	17	10-17	19	25	26	39	40
TURMERIC:									
Indian, Alleppey ..	20	16	32	35-64	44-55	24-29	30-32	27-33	41-42
VANILLA BEANS:									
Bourbon	525-550	520-535	550-575	550-560	550-560	560-570	560-570	660-680	675-700
Mexican	(1/)	(1/)	(1/)	625-650	625-650	800	800	700-750	700-750
Tahitian	625-650	625-650	725-750	775-800	700	950	950	925-950	950-975

1/ Not quoted. 2/ Data not available.

BLACK AND WHITE PEPPER: APPROXIMATE AVERAGE MONTHLY NEW YORK SPOT PRICES, 1968-74
(In cents per pound)

Type and year	Jan.	Feb.	Mar.	Apr.	May	June	July	Aug.	Sept.	Oct.	Nov.	Dec.	Annual
Indonesian													
Lampung black:													
1968	34.3	35.6	34.3	33.1	30.3	30.6	30.8	32.6	37.2	32.7	31.3	30.8	32.6
1969	31.3	31.0	30.6	33.4	33.7	32.6	33.6	35.3	50.1	63.5	57.3	53.2	40.5
1970	55.0	55.8	56.5	52.1	48.9	58.8	60.4	61.1	63.9	60.5	57.1	55.0	57.1
1971	53.2	54.7	56.1	56.6	54.7	51.6	46.8	47.2	43.4	44.0	44.4	44.6	49.8
1972	45.4	44.3	46.1	45.9	48.7	48.3	46.3	42.9	43.0	45.3	45.5	45.2	45.6
1973	47.1	52.3	54.2	52.5	53.0	55.0	68.0	67.9	59.0	56.1	57.5	59.5	56.8
1974	65.2	70.0	76.8										
Muntok white:													
1968	37.8	38.1	36.8	34.4	33.7	33.6	32.9	33.6	34.1	35.4	35.9	35.6	35.2
1969	35.5	35.1	35.1	36.8	37.0	35.6	37.4	41.6	52.3	68.5	61.3	49.7	43.8
1970	50.8	49.9	48.3	42.9	44.1	49.1	52.6	52.8	52.4	50.2	49.8	49.5	49.4
1971	48.3	47.8	48.9	48.5	48.0	50.1	53.4	62.3	62.9	77.2	88.6	66.2	58.4
1972	64.4	62.9	63.7	60.0	60.2	59.5	60.4	58.9	64.2	67.9	68.0	68.9	63.3
1973	66.5	69.9	71.0	69.8	69.6	75.2	106.2	116.8	109.4	107.4	110.0	107.5	89.9
1974	106.5	110.7	111.0										
Indian													
Malabar black:													
1968	38.2	38.2	37.3	36.6	36.4	36.3	36.1	37.1	41.6	41.3	41.4	40.0	38.4
1969	40.5	39.1	39.3	39.7	40.0	41.0	42.5	43.5	60.0	69.8	59.2	54.3	47.4
1970	55.4	55.8	56.5	52.1	48.9	58.8	60.4	61.1	63.9	60.5	57.1	55.0	57.1
1971	53.2	54.7	56.1	56.6	54.7	52.8	50.0	53.2	50.4	47.0	47.5	45.9	51.9
1972	48.1	49.0	49.5	49.0	49.9	48.3	48.2	(1/)	59.0	57.0	52.0	49.0	(2/)
1973	48.9	51.6	55.1	52.5	53.0	55.0	68.0	67.9	59.0	56.1	58.0	59.8	57.2
1974	65.3	70.0	77.0										

1/ Not quoted. 2/ 10 month average 50.0 cents.

BLACK AND WHITE PEPPER: DISTRIBUTION OF EXPORTS BY SPECIFIED COUNTRIES, 1971 AND 1972

(In thousand pounds)

Country of destination	Brazil		India		Sri Lanka		Indonesia		Malagasy Republic		Singapore	
	1971	1972	1971	1972	1971	1972	1971	1972	1971	1972	1971	1972
Western Europe:												
Belgium-Luxembourg	399	283	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
France	5,154	2,590	20	31	179	134	45	680	192	594	871	871
Germany, West	5,972	5,159	55	79	4,278	5,768	134	5,250	3,836	3,356	3,606	3,606
Italy	1,193	437	1,660	2,381	11	---	---	---	---	---	---	---
Netherlands	---	766	---	4	---	---	---	4,755	---	---	---	---
United Kingdom	593	819	84	73	123	34	34	1,864	---	---	---	---
Yugoslavia	---	---	1,766	2,782	---	---	---	---	---	---	---	---
Others	249	187	84	123	784	773	---	---	---	---	---	---
Total	14,202	10,241	3,669	5,473	5,386	6,754	12,549	13,330	1,205	5,190	22,384	24,314
Eastern Europe and USSR:												
Bulgaria	110	---	772	1,014	---	---	---	---	---	---	---	---
Czechoslovakia	---	---	3,117	2,013	---	---	---	---	---	---	---	---
Germany, East	33	1,675	1,080	340	---	---	---	---	---	---	---	---
Hungary	---	---	1,764	2,350	---	---	---	---	---	---	---	---
Poland	441	---	2,385	3,441	---	---	---	---	---	---	---	---
Romania	---	---	1,014	1,874	---	---	---	---	---	---	---	---
USSR	---	---	14,919	20,763	---	---	---	2,223	---	---	---	---
Total	584	1,675	25,851	31,795	---	---	---	2,223	---	---	470	---
Others:												
Algeria	882	---	---	---	---	---	---	---	1,023	3,100	---	---
Argentina	4,515	2,244	---	---	280	---	---	---	---	---	5	336
Australia	---	---	51	108	---	---	---	---	---	---	1,732	2,076
Canada	22	---	1,861	2,657	22	67	54	---	---	---	2,932	1,716
Egypt	---	---	276	1,100	---	---	---	---	---	---	220	---
Hong Kong	33	---	---	---	347	370	---	---	---	---	244	300
Japan	---	---	33	62	952	1,243	228	---	---	---	5,369	6,227
Mexico	1,113	2,274	---	---	974	560	---	---	---	---	---	7
Morocco	595	3,461	---	---	---	---	---	---	---	---	---	4,668
Senegal	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
Tunisia	---	---	---	---	---	---	---	---	516	712	---	---
United States	13,221	9,512	4,176	3,245	34	---	---	22,257	---	---	1,344	1,579
Singapore	---	---	---	198	51,128	48,362	---	14,542	---	---	24,647	18,489
Not specified	3,028	1,968	1,343	836	215	313	---	---	87	229	14,179	15,666
Grand total	36,195	31,519	31,260	45,474	59,338	57,714	51,953	50,167	2,831	9,231	77,457	75,378

1/ Reexports.

EXPORTS OF SPECIFIED SPICES AND FLAVORING MATERIALS BY MAJOR PRODUCING COUNTRIES, 1967-72

(In thousand pounds)

Item and country	1967	1968	1969	1970	1971	1972
BLACK AND WHITE PEPPER:						
Brazil	21,299	21,444	31,972	19,882	38,195	31,519
India	15,999	54,665	38,373	43,336	37,260	45,474
Indonesia	82,117	50,288	33,682	5,137	51,953	50,167
Khmer Republic (Cambodia) ..	3,808	3,675	238	(1/)	(1/)	(1/)
Malagasy Republic	3,195	6,803	7,615	4,765	2,831	9,231
Saravak	43,680	51,083	64,131	53,807	59,338	57,714
Sri Lanka (Ceylon)	228	1,811	2,005	(1/)	(1/)	(1/)
Total	200,326	189,769	178,016	127,207	189,577	194,105
VANILLA BEANS:						
Comoros	320	304	456	287	454	(1/)
French Polynesia	130	148	121	73	60	53
Indonesia	238	190	33	461	289	297
Malagasy Republic	1,468	2,119	2,417	2,685	2,557	2,679
Mexico	155	118	40	19	50	39
Reunion	40	55	70	57	68	(1/)
Seychelles	3	2	(2/)	2	1	(1/)
Uganda	6	6	17	9	8	3
Total	2,360	2,942	3,154	3,623	3,487	(1/)
GINGER:						
Fiji Islands	987	1,658	2,078	2,619	1,557	(1/)
India	9,610	4,928	2,766	4,939	11,648	15,045
Jamaica	1,600	1,020	614	671	718	766
Nigeria	2,726	4,323	7,139	8,341	5,175	4,592
Sierra Leone	2,054	3,447	1,671	969	1,325	1,075
Total	16,977	15,376	14,268	17,539	20,423	(1/)
CLOVES:						
Malagasy Republic	11,594	27,392	2,347	11,636	16,525	13,483
Tanzania	39,043	25,829	16,185	10,513	19,917	25,922
Total	50,637	53,221	18,532	22,149	36,442	39,405
CINNAMON:						
Malagasy Republic	1,087	977	4,482	1,389	1,530	1,457
Seychelles	5,464	6,686	3,283	2,943	2,872	(1/)
Sri Lanka (Ceylon)	6,801	8,782	9,794	(1/)	(1/)	(1/)
Total	13,352	16,445	17,559	(1/)	(1/)	(1/)
CASSIA:						
India	(1/)	(1/)	(1/)	1,568	1,590	1,333
Indonesia	12,758	3,320	1,109	5,783	6,292	8,053
South Vietnam	84	49	7	127	(1/)	(1/)
Total	(1/)	(1/)	(1/)	7,478	(1/)	(1/)
NUTMEG:						
Grenada	1,510	3,635	3,044	2/ 3,394	2/ 4,614	2/ 4,861
Indonesia	8,338	6,206	7,432	7,881	11,372	11,129
Sri Lanka (Ceylon)	86	238	282	(1/)	(1/)	(1/)
Trinidad and Tobago	111	79	91	108	87	80
Total	10,045	10,158	10,849	(1/)	(1/)	(1/)
MACE:						
Grenada	284	337	420	(1/)	(1/)	(1/)
Indonesia	1,770	1,975	1,473	1,563	2,166	2,562
Trinidad and Tobago	6	4	4	1	—	8
Total	2,060	2,316	1,897	1,564	2,166	2,570
PIMENTO (ALLSPICE):						
Jamaica	4,267	5,030	7,225	4,925	4,203	4,551
TURMERIC:						
India	14,818	15,434	14,146	23,688	31,192	16,755

1/ Not available. 2/ Less than 500 pounds. 3/ Includes mace. 4/ Included with nutmegs.

